

平成 23 年度

# 自己点検・評価報告書

埼玉純真短期大学

平成 23 年度  
自己点検・評価報告書

学校法人純真学園  
埼玉純真短期大学



## 「平成23年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

来年度は本学創立30周年の記念の年となります。

平成23年度は埼玉純真短期大学にとりまして、安定への出発の記念すべき年でした。平成21年度の「財団法人短期大学基準協会」による認証評価での適格認定は、学園訓である「気品・知性・奉仕」の下、本学の運営と教育が適正に実行されていると証明されたことであり、全教職員に大きな自信として強い原動力となったと考えています。

この23年度から本学は「子ども学科」単科の「女子短期大学」として、女性幼児教育者養成に特化した、また地域に根ざしたコミュニティカレッジを目指して活動を始めています。また、特色づくりのひとつとして、平成19～21年度の間、文部科学省の託事業として開催した「『(軽度)発達障害』幼児童に対する特別支援力養成のための教育職員再教育プログラム」を継承して研究・教育活動を継続しています。

23年度は、それをさらに発展させた形で、11月に地域の教育関係者などを対象に、「今、特別支援教育について考える～発達障害に視点をあてて～」をテーマとして、研究セミナーを開催しました。これには埼玉県教育委員会をはじめ、羽生・加須・行田・熊谷各市の教育委員会からの後援を受け、「埼玉県まなびいプロジェクト協賛事業」、並びに「羽生市学びあい夢プロジェクト事業」の指定もいただくことができました。

この研究セミナーは、本学の学園訓の具現化のひとつと考え、地域の教育の振興を図り、特別支援教育や発達障害児の教育の充実につなげるものになっていけばと願っております。次年度もすでに開催予定を決定し、最先端の実践的研究者と地域研究者や教育者を結び付け、その実践発表と指導の場を提供しながら、本学が地域に根ざす大学としての役割を果たせる充実した研究セミナーにしていきたいと考えています。

本学が数年前の風評を吹き飛ばし、現在のこのような状況に立ち戻ることができたのも、羽生市教育長・近隣の高等学校長、市内の教育・保育・福祉関係者および保護者代表と同窓会会長で組織された「埼玉純真短期大学外部評価委員会」による点検と評価を受け、本学の教育・研究と運営全般に亘って意見を頂戴したことによるものと感謝しております。また、教職員がその結果を真摯に受け止め、一致協力して、教育・研究活動に積極的に反映させ、改善・改革に努めてきた結果であると感謝し、このような教職員と共に学生と地域の教育に携わることを誇りに感じています。

これからも幼児教育の女子短期大学としての特色を活かし努力して、「卒業生や在学生、そして地域のみなさんが誇りに思える埼玉純真短期大学を」を目指し、大学としてのプライドを保ち、本来あるべき方向である教育と研究を堅実に実行しながら、地域社会に貢献をするという、地道な方法で信頼回復へ取り組んで参りたいと思っております。

このことが、学園創設者福田昌子博士の建学の精神「気品・知性・奉仕」であり、「学校法人純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする」として、開学した本学本来の姿勢を教職員自らが具体化しているものだと考えております。

報告書は、建学の精神と教育理念や目標に照らし合わせて、自らの位置を再確認し、将来の方向を明確にするために、全教職員がそれぞれに役割を分担し作成しました。

本報告書作成に協力していただいた本学全教職員に心より感謝いたします。

平成24年9月

埼玉純真短期大学学長 藤田利久



# 平成 23 年度自己点検・評価報告書 目次

「平成 23 年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

## I 本学の概要

- 1 沿革と建学の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - (1) 沿革
    - ① 純真学園の設立と沿革 ② 埼玉純真短期大学の創立と沿革
  - (2) 建学の理念
  - (3) 成果と課題（点検・評価）
- 2 教育方針と教育の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
  - (1) 本学の教育方針
  - (2) こども学科
  - (3) 成果と課題（点検・評価）
- 3 組織と構成・・ 7
  - (1) 運営組織
    - ① 運営組織 ② 成果と課題（点検・評価）
  - (2) 学務分掌
    - ① 専任教員とその職位 ② 委員会の委員長 ③ 委員会の委員 ④ クラス担任 ⑤ 事務職員
    - ⑥ 図書館職員 ⑦ 成果と課題（点検・評価）
  - (3) 入学定員及び学生数
- 4 平成 23 年度学事日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
  - (1) 学事日程
  - (2) 成果と課題（点検・評価）

## II 入試と広報

- 1 入試・・ 14
  - (1) 組織と運営
    - ① 入試に関する組織 ② 入試業務
  - (2) 平成 23 年度入試の特徴
    - ① 入試の改善点 ② 入試の特徴
  - (3) 平成 23 年度入試結果
  - (4) 募集要項
    - ① 募集要項の形式 ② 選考方法 ③ 入試日程
  - (5) 成果と課題（点検・評価）
- 2 広報・・ 19
  - (1) 組織と運営

- (2) オープンキャンパス
  - ① 日程と内容 ② 参加状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (3) その他の広報活動
  - ① 高等学校への訪問 ② ホームページ ③ Web サイトへの掲載
  - ④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会 ⑤ 広報誌作成 ⑥ プレカンパジ
- (4) 成果と課題 (点検・評価)

### Ⅲ 教育活動

1	教育課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
	(1) 教育課程の編成	
	(2) 成果と課題 (点検・評価)	
2	時間割編成と履修指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
	(1) 時間割編成 ① 時間割編成 ② 成果と課題 (点検・評価)	
	(2) 履修指導 ① 履修指導 ② 成果と課題 (点検・評価)	
3	授業実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
	(1) 授業科目の履修者	
	① 前期 ② 後期 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(2) 授業の開講・休講及び補講の状況	
	① 授業時数 ② 休講の状況 ③ 補講の状況 ④ 成果と課題 (点検・評価)	
	(3) 授業履修者の問題状況	
	① 授業欠席調査該当者数 ② 受験無資格者調査該当者数 ③ 再試験該当者数 ④ 退試験該当者数	
	⑤ 成果と課題 (点検・評価)	
	(4) 免許状・資格取得状況	
	① 免許状・資格課程履修者数 ② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数	
	③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(5) 教育実習・保育実習・介護等体験	
	① 実習等の位置づけと目標 ② 実習等の実施状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(6) 授業内容と教育方法の工夫・研究	
	① こども学科 ② 成果と課題 (点検・評価)	
	(7) 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果	
	① 実施経緯 ② 集計結果 ③ 成果と課題 (点検・評価)	

### Ⅳ 学生生活

1	学生の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
	(1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況	
	① 平成 22 年度入学生 ② 平成 23 年度入学生	

(2)	学生の動向	
(3)	成果と課題 (点検・評価)	
2	クラス担任制	48
(1)	クラス担任性の現状	
(2)	成果と課題 (点検・評価)	
3	学外における研修	49
(1)	実施概要	
(2)	成果と課題 (点検・評価)	
4	課外活動	50
(1)	学生会	
(2)	学生会主催行事	
①	学生会オリエンテーション	
②	純真祭	
③	スポーツ大会	
(3)	クラブ活動	
(4)	ボランティア活動	
(5)	研修活動	
①	リーダー研修	
(6)	成果と課題 (点検・評価)	
5	学生生活への配慮・支援	55
(1)	奨学金	
(2)	健康管理	
①	保健室	
②	定期健康診断	
(3)	保険制度	
(4)	学生専用アパート	
(5)	通学の状況	
(6)	学生相談室	
(7)	成果と課題 (点検・評価)	

## V 就職と進学

1	進路支援	58
(1)	就職指導	
①	進路支援委員会の基本方針	
②	平成 23 年度年間就職指導計画	
③	就職指導内容	
④	就職関連諸学会への参加	
(2)	平成 23 年度就職状況	
①	就職決定状況	
②	就職先等内訳及び内定先一覧	
(3)	成果と課題 (点検・評価)	
2	進学	61
(1)	編入学	
(2)	その他の進学	



(3) 成果と課題(点検・評価)	
3 卒業生への支援	62

## VI 教員の研究活動及び社会的活動

1 研究活動	63
(1) 研究活動の概要	
(2) 専任教員の研究業績	
(3) 専任教員の所属学会	
2 社会的活動	65
(1) 講師・助言者等の実施状況	
(2) 専任教員の諸団体への所属状況	
(3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況	
3 成果と課題(点検・評価)	69

## VII 図書館

1 図書館の基本方針	71
2 組織と運営	71
3 施設・設備及び情報サービス	72
(1) 施設・設備	
(2) 情報サービス	
① レファレンス・サービス ② 館外貸出とコミニサービス ③ 視聴覚資料 ④ 情報検索システムの利用	
4 所蔵点数と年間受入状況	73
(1) 所蔵点数	
① 蔵書数 ② 学術雑誌所蔵数 ③ 視聴覚資料所蔵点数 ④ 除籍数	
(2) 年間受入状況	
5 利用状況	75
(1) 入館者数	
(2) 館外貸出	
(3) その他の業務	
① 参考業務 ② 文献複写 ③ 相互利用	
6 研究紀要	76
(1) 埼玉純真短期大学研究論文集	
① 第5号	
7 成果と課題(点検・評価)	76

## VIII 校地・施設・設備

1 校地及び校舎面積	78
------------	----

(1)	概要	
(2)	成果と課題 (点検・評価)	
2	施設及び設備	79
(1)	概要	
(2)	保守・管理体制	
(3)	成果と課題 (点検・評価)	
3	学内見取図	81

## IX 教授会・委員会等

1	教授会	85
(1)	教授会	
①	開催日程及び主な審議事項等	
②	成果と課題 (点検・評価)	
(2)	人事	
①	異動	
②	採用	
③	退職	
④	成果と課題 (点検・評価)	
2	委員会	89
(1)	教務委員会	
①	構成	
②	概要	
③	成果と課題 (点検・評価)	
(2)	学生委員会	
①	構成	
②	概要	
③	成果と課題 (点検・評価)	
(3)	図書館情報委員会	
①	構成	
②	概要	
③	成果と課題 (点検・評価)	
(4)	実習指導委員会	
①	構成	
②	概要	
③	成果と課題 (点検・評価)	
(5)	進路支援委員会	
①	構成	
②	概要	
③	成果と課題 (点検・評価)	
(6)	入試広報委員会	
①	構成	
②	概要	
③	成果と課題 (点検・評価)	
(7)	FD・SD推進委員会	
①	構成	
②	概要	
③	成果と課題 (点検・評価)	
(8)	自己点検・評価委員会	
①	構成	
②	概要	
③	成果と課題 (点検・評価)	

## X 事務組織

1	業務分掌	103
(1)	事務組織の業務分掌	
(2)	事務分掌	
2	成果と課題 (点検・評価)	105

## X I 財政

1 財政の状況	106
(1) 消費収支決算の状況	
① 消費収入 ② 消費支出	
(2) 貸借対照表の現状	
(3) 財務比率	
① 固定比率（固定資産／自己資金×100） ② 固定長期適合率（固定資産／（自己資金＋固定負債）×100）	
③ 流動比率（流動資産／流動負債×100） ④ 人件費比率（人件費／帰属収入×100）	
⑤ 消費支出比率（消費支出／帰属収入） ⑥ 消費収支比率（消費支出／消費収入）	
2 成果と課題（点検・評価）	115

## X II 同窓会（秋桜会）

1 活動状況	117
(1) 役員組織	
(2) 活動状況	
2 成果と課題（点検・評価）	118

## I 本学の概要

### 1 沿革と建学の理念

#### (1) 沿革

##### ① 純真学園の設立と沿革

学校法人純真学園は（以下、「本学園」という。）、日本の戦後初期に民主的諸改革が進行する社会状況の中、医学博士にして社会活動家であった福田昌子女史によって、昭和31年（1956年）2月に学校法人純真女子学園として福岡市に設立された。

学園創設者福田昌子女史は、26歳という史上最年少の若さで医学博士の学位を取得し、医療に従事していた昭和22年、日本国憲法下で行われた初の衆議院議員選挙で初当選し、議員立法優生保護法を自ら執筆するなどをはじめ、女性の社会的地位向上のために国政の場で精力的に活動していた。

ちょうどこの時期、戦後の混乱の中すでに、教育基本法・学校教育法が制定され、6・3・3・4制の男女共学がスタートするなど、民主主義国家の建設とそれに対応した教育制度の改革が進むなど、日本の社会は大きな変革の時期を迎えていた。

福田昌子女史は、戦後復興が進み大きく変化しつつある日本社会の中で、立ち遅れていた女子高等教育の必要性と重要性を強く感じ、「真の女子教育の実現、『気品・知性・奉仕』の精神を備えた女子の育成こそが、新しい日本の基盤に成り得るという信念」の下、昭和31年4月に「“純真な女性の姿”という意味の『純真』を校名に付し」純真女子高等学校を開校し、女性の社会的地位の向上のため教育に未来を託して、教養人として職業を持ち、経済的にも一人の人間として自立できる女性の育成を目指して、本学園における本格的な女子教育が開始された。

その後、昭和32年4月に純真女子短期大学（国文科を設置）、昭和42年4月に東和大学（工業化学科・電気工学科）（平成23年10月閉学）、昭和58年4月には埼玉純真女子短期大学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部）を開学し、さらに平成23年4月純真学園大学（看護学科・放射線技術科学科・検査科学科・医療工学科）開学し、現在に至っている。

(表1)

学校法人純真学園の沿革	
年 月	沿 革
昭和31年2月	福田昌子、学園用地その他私財を寄付し、学校法人純真女子学園を設立
昭和31年4月	純真女子高等学校を開校

## I 本学の概要

昭和32年3月	学校法人名を福田学園に改称
昭和32年4月	純真女子短期大学（国文科を設置）開学，福田昌子，初代学長就任
昭和41年4月	純真女子短期大学附属じゅんしん幼稚園開園
昭和42年4月	東和大学（工業化学科・電気工学科）開学，福田昌子，初代学長就任
昭和43年4月	純真女子高等学校を東和大学付属東和高等学校と改称
昭和51年1月	福田敏南，学校法人福田学園理事長に就任
昭和54年4月	東和大学付属昌平高等学校開校
昭和58年4月	埼玉純真女子短期大学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部）開学 福田敏南，初代学長就任
平成12年2月	福田庸之助，学校法人福田学園理事長に就任
平成19年4月	学校法人名を純真学園と改称
平成19年4月	純真女子短期大学が男女共学化，純真短期大学と改称
平成19年4月	埼玉純真女子短期大学を埼玉純真短期大学と改称
平成19年4月	東和大学付属東和高等学校を純真高等学校と改称
平成19年4月	東和大学付属昌平高等学校を学校法人昌平学園へ移管
平成22年3月	純真短期大学，第三者評価適格認定
平成22年3月	埼玉純真短期大学，第三者評価適格認定
平成23年4月	純真学園大学開学
平成23年10月	東和大学閉学

### ② 埼玉純真短期大学の創立と沿革

本学は、昭和58年4月、羽生市の要請を受け、英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部の3学科をもって現在の地に開学した。

福田昌子女史が昭和31年に創立した純真女子学園の「学園訓」（建学の精神）の理念に基づく女子短期大学が埼玉県に設立されたものであるという意味を込めて、本学は「埼玉純真女子短期大学」と命名された。

開設時の学科・専攻は、英語学科（入学定員100名）・児童教育学科（初等教育学専攻：同50名・幼児教育学専攻：同50名）・幼児教育学科第二部（同50名）の3学科（うち1学科は第二部3年課程）2専攻であった。第1期入学生は、英語学科62名・児童教育学科初等教育学専攻45名・同幼児教育学専攻58名・幼児教育学科第二部42名の計207名であった。

その後、社会情勢の変化による学生数の減少傾向が起り、これをくい止めるために学科名称やコース名称の変更、募集定員の見直しなどを行ったものの、平成18年の英語コミュニケーション学科、平成19年の乳幼児保育学科第二部と相次いで募集停止し、「こども学科」単科による学校運営を余儀なくされた。

しかし、このことが幸いし「保育・幼児教育に特化した女子短期大学」を志向し、幼児教育に特化したことにより、「こども学科」の入学者も年々増加傾向を示し、平成23

年度入学者は定員を確保できるまでに回復した。

これらの本学における復活に向けての取り組みは、平成21年度に実施された短期大学基準協会による「認証評価」の現地調査においても高く評価された。

本学は、開学以来、地域社会に根ざした女性のための高等教育機関として、専門知識と技術を兼ね備えた職業人を養成するとともに、社会奉仕と地域貢献に大きな使命感を抱いて努力してきた。この一例として、教育研究活動などにおいては、「羽生市学びあい夢プロジェクト」をはじめとして、羽生市や羽生市教育委員会との連携や埼玉県東部地区の教育関係者との交流により、地域の大学として認識されているまでに至っている。

(表2)

埼玉純真短期大学の沿革	
年 月	沿 革
昭和58年4月	埼玉純真女子短期大学開学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部） 福田敏南，初代学長就任
平成12年2月	福田順忠，第2代学長就任
平成12年12月	中澤 鐵，第3代学長就任
平成16年4月	学科及び専攻課程の名称を変更 ・英語学科→英語コミュニケーション学科・児童教育学科→こども学科 ・幼児教育学科第二部→乳幼児保育学科第二部 ・初等教育学専攻→こども学専攻，・幼児教育学専攻→乳幼児保育専攻
平成17年4月	入学定員を変更し，こども学科の専攻（こども学専攻，乳幼児保育専攻）を廃止 ・英語コミュニケーション学科:100人→50人・こども学科:100人→150人
平成18年4月	英語コミュニケーション学科募集停止
平成19年4月	埼玉純真短期大学に校名変更し，乳幼児保育学科第二部募集停止 藤田利久，第4代学長就任
平成19年8月	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」採択
平成20年3月	英語コミュニケーション学科廃止
平成20年8月	「教員免許更新制に伴う予備講習」実施
平成22年3月	第三者評価適格認定（財団法人短期大学基準協会）
平成22年3月	乳幼児保育学科第二部廃止
平成23年4月	「こども学科」入学定員を150名から120名へ変更

## (2) 建学の理念

本学の「学則」には、本学設立の目的を次のように規定している。

## ○ 埼玉純真短期大学学則より抜粋

## 第1章 総則

## (目的及び使命)

第1条 この短期大学は教育基本法に則り、学校教育法に定める短期大学として、学術の理論及び応用を研究教授すると共に、純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする。

学則第1条の「目的及び使命」では「学術の理論及び応用を研究教授する」として「学校教育法」第83条に、そして「健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成する」として、同第108条「大学は、第83条第1項に規定する目的に代えて、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる。」に対応させ、本学が職業人養成大学として教育を担うことを明らかにしている。

さらに、「純真学園建学の精神に基づき・・・」として、本学が、学園訓「気品」・「知性」・「奉仕」を中核とする人間教育を継承し、良識ある社会人の育成をとおして社会貢献を目指していることを明確化している。

このように、本学設立の目的は、専門的知識や技術を持って社会に貢献できる「良き職業人」・「良き社会人」の基礎となる、「純真」なる心で人々に接する「良き人間」の育成であり、羽生市を中心として広く地域社会に貢献できる女子高等教育機関としての使命を果たそうとするものである。

**(3) 成果と課題（点検・評価）**

時代の追い風の中で順調に学生確保と教育が進み、短期大学運営には教職員も状況変化に特段の危機意識を持つことのないままに運営がなされてきた。つまり、時代の要請の中で、本学の知的財産をどのように活かし、発展させていくべきか、養成する学生像とはどのようなものか、などについて、綿密な点検と評価、そして実践が必ずしも徹底していたとは言えなかった。これを反省し、平成19年度から点検・評価を基に本学の運営の見直しと教職員の意識改革を行った。

平成23年度も本学のあり方（教育内容・教育方法など含む）、そして教職員のあり方を検討し、実行することとした。さらに時代の変化に迅速かつ適切に対応し、学園訓「気品・知性・奉仕」の建学の精神に則って「幼児教育者養成」にあたることも再確認した。

この平成23年度は、全教職員が復活へ導く強い意識と自信と意欲の高まりをもって取り組んだ年といえる。その結果、学生数では入学者数が23年度は127名、24年度入学予定者は120名と募集定員を満了し、24年度には総定員数を満たすことなどがある。これは前年度に短大基準協会による「第三者評価」で適格認定されたことが教職員の自信と行動に強く影響を与えたことによるものと考えている。

また、「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」実施の経験を元に、教職員が協力して本学独自で事業を継続しようと積極的に取り組んだものに「今、特別支援教育を考える～発達障害に視点をあてて～」をメインテーマに第1回埼玉純真短期大学研究セ

ミナーを開催したことも成果として評価できる。

今後とも、現状に甘んじることなく、教職員が教育と研究の更なる高みを求めて、本学の「保育・教育者養成機関」としての特色を活かし、学園訓・教育目標をより具体化させた学生教育や地域貢献活動を充実させていくことができるかが今後の課題である。この延長線上で質的・量的に「学びの機会と場」を広く提供できる地域密着の大学として、本学の建学の精神の具体化がどれだけ進められるかも大きな課題として考えている。

## 2 教育方針と教育の特徴

### (1) 本学の教育方針

本学の「教育方針」は 「学園訓」と共に「学生便覧」の冒頭に掲げられている。

#### ○ 本学の教育方針

- (1) 相互に相協同しつづつ軽佻浮薄な態度を慎み、優雅で落ち着いた言動を心掛けねばならない。気品を支えるものは洗練された情操と知性である。
- (2) 現実に即応し、正しい判断を下すことの出来るのは広い視野と高い知性にほかならない。従って知識を豊かにし、真理の追求に努力しなければならない。
- (3) 常に研鑽途上にある事を自覚し、謙虚に自己を見つめ自己満足に陥ることなく小我を捨て、大我に徹する精神を養うことを心掛けなければならない。奉仕の精神は小我を捨てる事によって始まる。

これは、「学園訓」の「気品」・「知性」・「奉仕」のそれぞれの意味を具体化したものであり、本学園教育の基本方針を明示したものである。

「気品」の基盤は「洗練された情操と知性」にあること、「知性」は豊かな「知識」と「真理の追求」によって磨かれること、「奉仕の精神」は「小我を捨て、大我に徹する精神を養うこと」によってもたらされることを述べて、本学における学問と知識の探求、人間形成とが表裏一体の関係にあることを説いている。

つまり、「気品」・「知性」・「奉仕」の中心に位置する「純真で豊かな」人間性を核として、人間性を高める深い教養、現実に即応した専門的領域の知識・技能を修得し、職業や實際生活に活かしていくことのできる能力を身に付けることが、本学の教育目標と言える。

これを具現化するために、次の3点を養成目標として、教育活動に取り組んでいる。

1. 「気品」：人間としての豊かな感性や社会的文化的常識（マナーやエチケットなど）を備えた人間性豊かな「良き人間」の養成。
2. 「知性」：知識の習得とそれらを総合しての考える力（課題発見と分析・解決能力など）と積極的な行動力をもった「良き職業人」の養成。
3. 「奉仕」：「気品」と「知性」をもって、他者のために利害を気にすることなく、積極的に行動できる「良き社会人（市民）」の養成。



本学では、この「学園訓」と「教育方針」を全教職員が理解し教育活動に臨むように、学内に「学園訓」を掲示すると共に、学長はじめ教員がそれぞれに入学式や卒業式、入学・進級オリエンテーション、そして教職員会議でも機会あるたびに理解し、行動できるように心掛けている。特に入学予定者にはプレカレッジ（入学前教育）でも「学長講話」などで学園訓を詳しく伝え、在学学生には個々人の建学の精神の解釈を求め、入学希望者とその保護者、そして外部には本学の大学案内パンフレット、ホームページなどでも「学園訓」と本学の「教育方針」を説明し、理解されるよう努力している。

## （２） こども学科

こども学科では、小学校教諭と幼稚園教諭を目指す「こども学コース」と、幼稚園教諭と保育士を目指す「乳幼児保育コース」を設け、学生それぞれの目標にあわせて専門性を追求できるようにしている。しかし、その教育方針は「理論と実践を総合的にバランス良く修得し、常に考えながら行動できる保育・教育の専門職を養成する」ことである。

前者においては、小学校と幼稚園の連携や初等教育の一貫性を考慮して、小学校と幼稚園における教育・保育を総合的に理解した教員として、現場に立てるよう、教育理論と実践をバランス良く習得できるようにカリキュラム編成などで努力している。

後者においては、保育所と幼稚園の相違を正確に理解しながら、子どもの発達理解と発達段階を踏まえた保育や援助方法などの理論と実践を身につけた幼児教育・保育の専門職養成を目指した科目設置をしている。

この目的の実現のため教室内での授業はもとより、現場を理解し、教科理解がより進むように保育・教育現場の経験を重視している。このため実習指導にも重点を置き、2年間を通して実習の事前・事後指導を行い、実習をより実り多いものできるように配慮している。このように実習の事前・事後指導などにおいても、理論と実践を統合できるようにきめ細かく丁寧に行われているところも本学科の特色のひとつである。

さらに、将来、保育・教育の専門職者となる学生が自らで課題を発見し、明確にし、解決する機会として、ボランティア参加など自主的な活動を積極的に提供し、それらを発展させていく態度の指導にも心掛けている。

また、教育・保育に重要である継続的な学習習慣、絵本や幼児向け図書の積極的活用を通して、保育・教育の改善への施設や資料検索などの基礎知識と技術を学べるようにと司書教諭資格も取得できるように科目を設けている。

特に保育・教育の現場ではたとえ新人であっても保育者・教師としての即戦力を求められている。多少ともこの即戦力に近付けるため「こども学コース」では、少人数クラスで模擬授業・授業研究・学校見学など実践的な授業方法と内容を取り入れるとともに、「乳幼児保育コース」でもできるかぎり事例をもとに理解を深められるように、外部から現場の保育士や教諭を招くなどの授業を展開している。

さらに深く学んでみたいと希望する学生には4年制大学編入指導にも力を注いでいる。

### (3) 成果と課題（点検・評価）

本学は「こども学科」単科としたために、目的を同じくする学生を、全教職員が学園訓と教育方針に基づいた共通した考えや方針で、教育することができてきたと考えている。

授業実施においても養成像がある程度クリアであるため、教員間の授業協力や質の均一性も保たれている。実習や就職指導においても学生の希望職種がほぼ共通するため、実習でも指導も行いやすく、特別な問題が発生していないこと、就職においては学生の希望にかなっていることなどから、全体的には順調に教育活動が行えていると考える。

一方、今後、早急に対処と改善を必要とする問題もある。まずは学生の基礎学力向上を図りながら保育・教育の専門教育を行わなければならないことである。

近年のどの大学でも問題となっていることであるが、この基礎学力の不十分さにより「こども学科」における専門的な授業が次第に成立しがたい状況になってきたことである。このこととともに、社会人としての態度、つまり言葉遣いや対人関係を良好に保つための基本的態度を身につけさせることも重要な課題として捉えなければならない。これは、近年多くの大学でも大きな問題として目立ち始めたことであるが、友人関係や集団になじめないことなどが原因で授業に積極的に臨めなくなる学生がいることとも関連している。

前者においての方策は本学の問題として、リメディアル教育の充実などで解決していくが、後者においては、大学と家庭とが協力して解決していかなければならない課題である。これらを解決しなければ、本学の目的が達成できないと考えている。このことが、実習と資格取得、さらには就職活動や就職後の時点での問題として発生し、学生自身が所期の目的を達成することが困難な状況を招く原因となっているのである。これは大学と学生の将来の問題として重大に受け止め、解決していきたいと考えている。

この状況や対処については、詳しくは学生指導の項目に述べるが、今後、全教職員が家庭との連絡を密にしながらも、より真剣に取り組んでいかなければならない問題である。

## 3 組織と構成

### (1) 運営組織

#### ① 運営組織

平成 23 年度の専任教員はつぎの表のとおりである。

○ 各学科の教員配置

こども学科
・藤田 利久 ・伊藤 道雄 ・入江 良英 ・牛込 彰彦 ・小澤 和恵 ・安倍 大輔 ・阿部 峰雄 (特)
・稲垣 馨 ・関根 久美 ・高橋 努 ・細田 香織 (特) ・安村 由希子 (特)
以上 12 名 (常勤専任教員) 3 名 (特任教員)

教授会は、学則第 42 条に基づき、上記の中の専任教員をメンバーとして組織し、これに

事務局長・各セクションの責任者（事務職員）も同席して、意見を述べるができるようにしている。これにより情報共有を図ることができ、教員と事務局職員の意思疎通と業務がスムーズに遂行できていると考える。

教授会にはそれぞれの案件を検討・処理する委員会を下記の表のとおり設けている。これらの委員会の委員配置については、すべての教員ができるかぎり均等に担当することを基本とした。これらの委員会には、原則として、学長と事務局長も出席するとしている。

また、教授会へ提出する議題の整理・審議事項の事前調整・その他の諸問題の情報共有を図るために「運営会議」を設け、学長・図書館長・教務部長・学生部長・進路支援部長と事務局長が参加しての連絡調整をおこなっている。

#### ○ 委員会一覧

教務委員会、学生委員会、図書館情報委員会、進路支援委員会、入試広報委員会、実習指導委員会、FD・SD推進委員会（自己点検・評価委員会を含む）
--

### ② 成果と課題（点検・評価）

教員組織については、「教員の職位と年齢のバランスを考えなければならない。同時に、教員数についても、科目に対する適正配置ができるように増員を考えていかなければならない」との考え方にに基づき教員の新規採用を含めて実施した。このことにより、職位と年齢、そして科目担当のバランスもさらに一歩理想に近づくものとなった。

教授会については、学長が議長となり、原則的に毎月1回（夏季休暇中8月は開催しない）開催された。各委員会より教授会に提出された議案について審議と報告を行ったが、事前に各委員会で検討されたものであり、ほぼ異議なく了承される状況であった。質問や意見を求められる場合もあったが、それらは確認するといった意味と内容であった。昨年度に比べれば、感情的な対立ではなく、常識ある大学人としての学生と教育・研究に深く関わる議論も出始め、教授会も活性化してきたと思われる。

委員会は、昨年度同様、学生対応など突発的事項で日常的に繁忙を極める委員会と、比較的ルーチンワークの多い平静な委員会とに分かれた。すべての教員が3委員会程度の委員を兼務するため、個々の教員の業務は忙しいものとなった。特に各セクションの委員長は兼務の形を取らざるを得ない状況であった。このような状況でも、各委員会では委員長をリーダーとして、各委員がそれをサポートする形で、それらの業務を分担し、的確に対処していった。これは、多くの委員会が、定例以外に適宜、臨時会議などを開催し情報や意見交換を密に行った結果、円滑に運営され、充分機能したと言える。

ただ、あまりに業務が集中し、発展的な業務が予定どおりに進まない委員会、日常的業務を遂行するだけに留まり、積極的活動の見えなかつた委員会もあったことは、大学サービスを向上させることと大学発展のためにも次年度へ向けての反省事項である。

## (2) 学務分掌

### ① 専任教員とその職位

こども学科	
学 長	藤田 利久
教 授	伊藤 道雄・入江 良英・牛込 彰彦
准教授	小澤 和恵
講 師	安倍 大輔・稲垣 馨・高橋 努・関根 久美・阿部 峰雄(特任)・安村 由希子(特任) 細田 香織(特任)

### ② 委員会の委員長

委員会名	委員長名
教務委員会	小澤 和恵
学生委員会	高橋 努
図書館情報委員会	入江 良英
実習指導委員会	牛込 彰彦
進路支援委員会	安倍 大輔
入試広報委員会	小澤 和恵
FD・SD推進委員会	安倍 大輔

### ③ 委員会の委員 (◎は委員長)

委員会名	教員名
教務委員会	牛込 彰彦・◎小澤 和恵・安倍 大輔
学生委員会	安倍 大輔・稲垣 馨・◎高橋 努・関根 久美
図書館情報委員会	◎入江 良英・稲垣 馨・阿部 峰雄・安村 由希子
進路支援委員会	伊藤 道雄・入江 良英・◎安倍 大輔・関根 久美
入試広報委員会	◎藤田 利久・小澤 和恵・高橋 努・細田 香織
実習指導委員会	◎牛込 彰彦・稲垣 馨・高橋 努・関根 久美・細田 香織
FD・SD推進委員会	藤田 利久・◎安倍 大輔・稲垣 馨

### ④ クラス担任

クラス		担 任	
		1年	2年
乳幼児保育コース	A組	高橋 努	関根 久美
	B組	安倍 大輔	入江 良英
	C組	小澤 和恵	伊藤 道雄

1 本学の概要

	D組	牛込 彰彦	—
こども学コース			

⑤ 事務職員

本学の事務職員は専任職員 9 名で、総務・庶務・教務・学生・進路支援・入試広報・実習指導をそれぞれに担当した。なお、年度途中で退職者がでたため、中途採用を行った結果、年度末の人員は 10 名となった。

係名	氏名
事務局長	佐藤 猛
総務担当	大山 富一（平成 23 年 6 月より）
庶務係	大澤 尚子
教務係	橋本 早也佳（平成 23 年 11 月迄）
教務係	矢内 美優
教務係	片山 美冴（平成 23 年 8 月より）
入試広報係主任	田中 淳一
入試広報係	相馬 萌
入試広報係	内田 和泉
学生係・進路支援室	奥貫 慶一郎
実習指導室（実習助手）	原田 智鶴

⑥ 図書館職員

本学の図書館職員は、昨年度までは専任司書 1 名の体制であったが、非常勤司書を採用し 2 名体制での運営となった。

図書館司書	中村 周
図書館司書(非常勤)	宮本 明子(平成 23 年 9 月より)

⑦ 成果と課題（点検・評価）

平成 23 年度も少人数の教職員組織ではあったが、「こども学科」単科で学生数も 219 名程度という少数であるため、教育や学生活動を日常的に支援・推進する委員会やクラス担任、事務組織は順調に運営されたと思われる。

委員会は前年度の教務委員会・学生委員会・図書館情報委員会・進路支援委員会・実習指導委員会・入試広報委員会に、自己点検評価や FD・SD 推進、そして外部評価員による外部評価の準備のため、FD・SD 推進委員会（自己点検・評価委員会を含む）を加え、充実を図った。

事務局においては、各セクションに最小人数と思われる職員配置となり、また、家庭の都合(結婚)で年度途中で職員の退職者が発生したものの十分な補充を行うことができ、特別

大きな支障をきたすことにはならなかった。

教員は出勤日が週4日（研究日1日）であるため、委員会活動や教育活動と学生指導にあたる一方、個人の研究活動にも十分な時間を確保できたと思われる。各組織の担当教職員は責任感を持って自己の職務を遂行する雰囲気があり、さらに、公開講座や近隣の学校の要請に応じて地域教育活動援助など新規事業への取り組みがあったことは評価できる。

しかし、本学の教職員の職務の多忙さや取り組み姿勢は決して均一ではなく、教員も職員も、個々人の慣例的業務スタイルや業務への認識度合いの影響も依然として色濃く残っていたことは、今後、改善の必要があると思われる。

それには、「学生のために」を第一義に考え、教職員個々の経験を集約し、広い視野に立って考え、新たな考え方で、新しい時代環境に適した学生指導及び各種活動に活かしていくことができる運営組織やスタイルの確立が求められるところである。

毎年、「自己点検・評価報告書」を教職員全員が協力して作成し、外部評価委員による評価を受けることにより、より一層本学の「建学の精神」と「教育方針」を教職員が再確認し、個人としてはもちろん組織として、これに則った大学運営、委員会活動等をしていかなければならないと、全教職員が考える機会をもっていることはたいへん素晴らしいことである。

### （3） 入学定員及び学生数

○ 入学定員・学生数一覧

（平成23年5月1日現在・単位：人）

学科・専攻		定員	1年	2年
こども学科	乳幼児保育コース	120	127	84
	こども学コース		0	8
合計		120	127	92

## 4 平成23年度学事日程

### （1） 学事日程

○ 学事日程一覧

前 期		後 期	
日 付	行 事	日 付	行 事
平成23年		9月26日	後期授業開始
4月1日	1・2年生オリエンテーション、身体測定	10月1日	補講日、保護者会
4月2日	平成23年度入学式	10月8日	補講日、進学相談会

I 本学の概要

4月4日	前期授業開始	10月15日	AO入試面談
4月8日	内科検診、胸部レントゲン	10月17日	小学校教育実習（こども学コース2年）
4月9日	補講日	～11月11日	
4月16日	補講日	10月29日	推薦入試Ⅰ期
4月23日	補講日	11月12日	進学相談会
4月29・30日	純真祭 ※中止→10月22日	11月19日	研修会
	学校見学会（進路相談会）	11月25日	スポーツ大会
5月14日	補講日	11月26日	AO入試面談
5月23日	幼稚園教育実習（2年）	12月3日	補講日
～6月11日		12月10日	補講日、進学相談会
5月28・29日	第1回オープンキャンパス	12月17日	推薦入試Ⅱ期、AO入試面談、プレカレッジ
6月18日	補講日、第2回オープンキャンパス		
6月19日	第2回オープンキャンパス	12月26日	冬季休業
6月25日	補講日	～平成24年1月10日	
7月4日	※学外研修	1月11日	後期授業再開
7月4日～19日	保育所実習（乳幼児保育コース2年）	1月14日	補講日、プレカレッジ
7月9・10日	第3回オープンキャンパス	1月21日	表現発表会リハーサル
7月23日	補講日、AO入試面談、第4回オープンキャンパス	1月22日	表現発表会、プレカレッジ
		1月28日	一般入試Ⅰ期、AO入試面談
7月24日	第4回オープンキャンパス	1月30日～2月3日	後期試験期間
7月25日～29日	前期補講期間	2月3日	追再試験発表日
7月30日	補講日、平成27回学位授与式	2月4日	プレカレッジ
8月1日～5日	前期試験期間	2月6日	追再試験発表日
8月5日	追再試験発表日	2月6日～10日	追再試・補講期間
8月6日	AO入試面談、第5回オープンキャンパス	2月13日～25日	施設実習（乳幼児保育コース1年）
8月7日	第5回オープンキャンパス	2月17日	プレカレッジ
8月8日	追再試験発表日	2月25日	一般入試Ⅱ期、AO入試面談
8月8日～12日	追再試・補講期間	3月2日	プレカレッジ
8月9日～9月21日	夏季休業	3月11日	第28回卒業式
8月20・21日	第6回オープンキャンパス	3月21日	AO入試面談
8月26日	AO入試面談、保育所実習補講	3月23日	プレカレッジ
8月27日～30日	公開講座	3月28日～30日	春の学校見学会・体験授業
8月29日	保育所実習（乳幼児保育コース2年）	3月30日	入学前オリエンテーション
～9月12日			
9月1日～3日	キャリアデザイン集中講義（1年）		
9月6日	幼稚園教育実習事前指導（1年）		
9月12日～17日	幼稚園教育実習（1年）		

9月24日	AO入試面談、第7回オープンキャンパス		
9月25日	第7回オープンキャンパス		

## (2) 成果と課題（点検と評価）

授業コマ数15コマ以上を確保した上で、保育所・幼稚園・小学校での実習を組み込んでいくため、補講日の設定などで学事日程はかなり窮屈なものとなったが、これも免許状と資格の取得を目指す短期大学の宿命ともいえよう。

学生に対する親の思いや大学と保護者の関係を密接にし、学生生活を意義あるものしたいという考えから、春と秋に保護者会を開催しているが、今年度は東日本大震災の影響で、春の保護者会を行うことができなかった。

入学式と卒業式は保護者が列席しやすいという理由で、土曜日か日曜日に開催するようにしている。平成22年度の3月の卒業式が、東日本大震災の翌日だったため中止となり、7月に半年遅れの学位授与式を行った。

新入生に対する入学前オリエンテーションや学外（合宿）研修も、東日本大震災の影響で実施することができず、オリエンテーションは、入学式前の一日だけということで、履修説明や学生生活の説明が十分とは言えなかった。学外研修については、東京ディズニーリゾートにてディズニーアカデミーによる研修を7月4日に実施した。

学園祭（純真祭）についても、4月29日と30日の2日間を予定していたが、東日本大震災の影響で一旦は中止となった。後期になってから10月22日（土）に、規模を縮小して実施することができた。

平成23年度は、3月の東日本大震災の影響で、学事日程の変更を余儀なくされたが、できる限り、学生に不利益が生じないように対処した。



## Ⅱ 入試と広報

### 1 入試

#### (1) 組織と運営

##### ① 入試に関する組織

###### (a) 入試広報委員会

入試に関する事項は、各委員長を中心とした入試広報委員会によって審議した。

###### ○ 入試広報委員会構成員

入試広報委員長、学長、教務部長、学生部長、図書館長、進路支援部長、実習指導部長、FD・SD推進委員長  
委員（教員）、事務局長、入試広報事務担当者（書記を兼務）

###### (b) 入試問題作成委員会

本学では、一般入試において学力検査（国語）を実施している。また、社会人入試において作文を課している。問題作成については、国語科を担当する教員を中心として2名の専任教員が担当した。

###### (c) 高等学校等への入試広報

高等学校等への広報活動として、在学生の出身校をはじめ、近隣の高等学校へ大学案内・学生募集要項等を持参し、進路指導部や高等学校3年生の担任と面会した。この活動には、入試広報事務担当者だけでなく、専任教員や職員も積極的に取り組んだ。

##### ② 入試業務

入試広報委員会と入試広報課の協力によって、以下の業務を行っている。各事項について教授会の承認を得る必要のあるものは、定例の教授会に原案をあげ、審議を経たのち決定されている。

###### ○ 入試広報業務一覧

###### ●入試の企画・運営

入試の種類の設定・入試日程（案）作成・指定推薦校（案）作成・入試選考基準（案）作成・学生募集要項作成  
大学案内作成・広報誌等作成・入試問題作成・入学願書受付・入試の実施・合否判定資料の作成・合格通知発送

###### ●広報活動

進学相談会・学校見学会（オープンキャンパスを含む）・募集資料の配布・ホームページ作成・高等学校における  
模擬授業・公開講座などの企画・運営

## (2) 平成 23 年度入試の特徴

### ① 入試の改善点

入試区分については、平成 22 年度の改善点の動向を見守る形で、平成 23 年度の入試区分については特に変更はしていない。

指定校への推薦基準となる評定平均値については、学校偏差値や入学者の現況にあわせて大幅な見直しを行った。

### ② 入試の特徴

#### (a) 入試の動向

指定校推薦入試、公募制推薦入試、専門高校・総合学科等推薦入試、同窓生推薦入試と多様化する進学者のニーズを捉えて推薦入試の区分を 4 区分設定している。

指定校推薦入試は、本学より指定された高等学校（中等教育学校を含む）を平成 24 年 3 月卒業見込みで、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に実施するもので、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価し、推薦基準となる評定平均値については別に定めている。

公募制推薦入試は、2 回実施している。高等学校（中等教育学校を含む）を平成 24 年 3 月卒業見込み、及び平成 23 年 3 月高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者で、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価する。

専門高校・総合学科等推薦入試は、2 回実施している。専門高校とは、商業科・工業科・農業科などをさし、総合学科の高等学校と同じ扱いにした。推薦基準となる卒業年度等は、公募制推薦入試に準じている。

同窓生推薦入試は、2 回実施している。同窓生推薦入試とは、埼玉純真短期大学の卒業生が、母校である本学へ入学を希望する受験生を、責任を持って推薦する制度であり、指定校推薦と同様の扱いとする。また、受験に際して対象者は同窓生名で推薦し、入学金免除規程第 2 条に該当する場合は入学金を免除する。高等学校(中等教育学校を含む)を平成 24 年 3 月卒業見込みの者で、書類審査と面接にて総合的に評価する。

一般人試は、2 回実施している。各コースとも学科試験「国語（古文・漢文を除く）」と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価する。

社会人入試は、社会的経験を有する者で、将来、保育・教育・福祉に従事する事を目指しているか、同分野の学習に興味のある社会人を対象に、作文(800 字以上)と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価しているが、平成 23 年度の入試においては、希望者がいなかった。

AO 入試は、10 回設定している。まず、入学希望者が本学のアドミッションポリシーを理解した上で、担当者が約 30～40 分程度の面接を行う。面接は、10 回のエントリー期間を設けている。面接時には、保護者、高等学校教員等が同伴することを認めている。そして、面接内容は、入学希望者から本学の教育方針・授業内容・学校生活・就職状況等の質

## II 入試と広報

問を受け、本学から入学希望者の志望動機・学習意欲・将来の進路、優れた能力・活動についての質問を行う。本試験を行う前に進路相談会や AO 入試ガイダンスを行い、入学希望者と本学の相互理解を促し、出願・試験に至る入試である。

それぞれの入試における合否判定は、入試終了後、入試委員会、合否判定教授会を開催し公平かつ厳正に行われる。合否は、受験生及び出身学校長に通知し、電話・メール・FAX等による問い合わせには応じていない。

### (b) 志願者の動向

○ 本学志願者の推移

(単位:人)

年 度	志願者数		
	英語コミュニケーション学科	こども学科	乳幼児保育学科第二部
平成 18 年度	8	192	20
平成 19 年度	—	173	6
平成 20 年度	—	86	—
平成 21 年度	—	97	—
平成 22 年度	—	131	—
平成 23 年度	—	127	—

### (3) 平成 23 年度入試結果

○ 入試結果一覧

(平成 23 年 3 月 31 日現在・単位:人)

入試区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
指定校推薦入試	66	66	66	66
公募制推薦入試	5	5	5	5
専門高校・総合学科等推薦入試	2	2	2	2
同窓生推薦入試	1	1	1	1
一般入試	9	8	7	5
社会人入試	0	0	0	0
AO 入試	44	44	42	41
計	127	126	123	120

### (4) 募集要項

#### ① 募集要項の形式

A4 冊子形式とし、記述内容の充実を図った。

② 選考方法

○ 選考方法一覧

入試区分		推薦書	調査書	個人面接	学力検査等	定員 (人)
推薦入試	指定校	○	○	○	—	35
	公募制	○	○	○	—	25
	専門高校・総合学科等	○	○	○	—	10
	同窓生	○	○	○	—	5
一般人試		—	○	○	「国語」 (古文・漢文を除く)	20
社会人入試		—	○	○	作文 (800字以内)	若干
AO入試		—	—	○	—	20

③ 入試日程

○ 入試日程一覧

入試区分		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続 締切日
指定校推薦入試		2011年10月3日(月) ～10月24日(月)	10月29日(土)	11月1日(火)	11月25日(金)
公募制推薦入試	I期	2011年10月3日(月) ～10月24日(月)	10月29日(土)	11月1日(火)	11月25日(金)
	II期	2011年11月28日(月) ～12月12日(月)	12月17日(土)	12月20日(火)	1月13日(金)
専門高校・総合学科等 推薦入試	I期	2011年10月3日(月) ～10月24日(月)	10月29日(土)	11月1日(火)	11月25日(金)
	II期	2011年11月28日(月) ～12月12日(月)	12月17日(土)	12月20日(火)	1月13日(金)
同窓生推薦入試	I期	2011年10月3日(月) ～10月24日(月)	10月29日(土)	11月1日(火)	11月25日(金)
	II期	2011年11月28日(月) ～12月12日(月)	12月17日(土)	12月20日(火)	1月13日(金)
一般人試	I期	2012年1月9日(月) ～1月23日(月)	1月28日(土)	1月31日(火)	2月24日(金)
	II期	2012年2月6日(月) ～2月20日(月)	2月25日(土)	2月28日(火)	3月16日(金)

Ⅱ 入試と広報

社会人入試	I期	2011年11月28日(月) ~12月12日(月)	12月17日(土)	12月20日(火)	1月13日(金)
	II期	2012年2月6日(月) ~2月20日(月)	2月25日(土)	2月28日(火)	3月16日(金)

○ AO入試日程一覧

入試区分	エントリー期間	面接	出願許可 通知	出願期間	合格 発表日	入学手続 締切日
AO入試	2011年7月4日(月) ~7月15日(金)	7月23日 (土)	7月26日 (火)	9月5日(月) ~ 9月16日(金)	9月20日 (火)	10月21日 (金)
	2011年7月18日(月) ~7月29日(金)	8月6日 (土)	8月9日 (火)			
	2011年8月1日(月) ~8月19日(金)	8月26日 (金)	8月30日 (火)			
	2011年8月22日(月) ~9月16日(金)	9月24日 (土)	9月27日 (火)	10月3日(金) ~ 10月14日(金)	10月18日 (火)	11月18日 (金)
	2011年9月19日(月) ~10月7日(金)	10月15日 (土)	10月18日 (火)	10月24日(月) ~ 11月4日(金)	11月8日 (火)	12月16日 (金)
	2011年10月31日(月) ~11月18日(金)	11月26日 (土)	11月29日 (火)	12月5日(月) ~ 12月16日(金)	12月20日 (火)	1月20日 (金)
	2011年11月21日(月) ~12月9日(金)	12月17日 (土)	12月20日 (火)	12月26日(月) ~ 1月13日(金)	1月17日 (火)	2月17日 (金)
	2012年1月9日(月) ~1月20日(金)	1月28日 (土)	1月31日 (火)	2月6日(月) ~ 2月17日(金)	2月21日 (火)	3月9日 (金)
	2012年1月23日(月) ~2月17日(金)	2月25日 (土)	2月28日 (火)	2月29日(水) ~ 3月2日(金)	3月6日 (火)	3月16日 (金)
	2012年2月20日(月) ~3月14日(水)	3月21日 (水)	3月22日 (木)	3月23日(金) ~ 3月26日(月)	3月27日 (火)	3月30日 (金)

## (5) 成果と課題（点検・評価）

大学入試の基本方針は文部科学省で示されている。その中で、各大学独自の特徴をもった入試が多く展開されている。入試形態が複雑化し、受験生に理解されにくい点が見受けられるため、本学の入試形態に関しては極力わかりやすいものをと考えている。

昨年度の入試より、遠隔地からの受験生に対し、受験前日の市内宿泊と入学金の免除という支援をすることとし、今年度も同様に実施して、遠隔地からの受験負担軽減につなげている。また、同じく昨年度より実施している「同窓生推薦入試」は、受験生は卒業生の姿を目指し、卒業生も本学への誇りと思いを次に繋げられる入試として始めたものであるが、今年度の実績は1名であった。もっと同窓生に周知するための方策を考えていく必要がある。

## 2 広報

### (1) 組織と運営

学生の受け入れに関する広報活動は、以下の内容で入試広報課を中心に全教職員で行った。

#### ○ 広報活動一覧

・学校案内・入試ガイドブック・学生募集要項・ホームページ・電飾看板の作成  
 ・受験生や高等学校への窓口業務（学校案内・募集要項・入試問題集などの配布・入試に関する問い合わせへの応答等）と学校見学の案内など・受験雑誌への広告掲載・進学相談会・模擬授業への教職員派遣

### (2) オープンキャンパス

#### ① 日程と内容

平成23年度は、以下の日程で計14回のオープンキャンパスを実施した。

#### ○ オープンキャンパス実施日程一覧

1回目：5月28日（土）29日（日）2回目：6月18日（土）19日（日）3回目：7月9日（土）10日（日）  
 4回目：7月23日（土）24日（日）5回目：8月6日（土）7日（日）6回目：8月20日（土）21日（日）  
 7回目：9月24日（土）25日（日）

内容は、学科の説明・体験授業・個別進学相談・キャンパス見学・学食体験などである。

II 入試と広報

○ オープンキャンパス実施内容詳細

	日 時	プログラム
第1回	5月28日(土) 29日(日) 9:30～受付開始  10:00～14:00	1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 (1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30) A：「話上手は聴き上手」～知り合いから友人へ～ B：「紙芝居の演じ方」 C：「ドキドキワクワクピアノ講座」 3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） *食事終了後、自由解散
第2回	6月18日(土) 19日(日) 9:30～受付開始  10:00～14:00	1 ウェルカムコンサート 2 開会：学科・入試説明等 3 体験授業 (1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30) A：コミュニケーション・ゲームに挑戦 B：「お楽しみシアターがいっぱい」 C：「ドキドキワクワクピアノ講座」 保護者対象在学生との懇談会 11:00～11:40 個人ピアノレッスン（1人：20分）11:10～14:00 4 学食体験 5 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） *食事終了後、自由解散
第3回	7月9日(土) 10日(日) 9:30～受付開始  10:00～14:00	1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 (1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30) A：発達障害について知ろう B：「息を合わせて1(いち)・2(に)・3(さん)」 ～楽しくゲームで遊ぼう！～ C：ドキドキワクワクピアノ講座 保護者対象懇談会「子育ての楽しさ～今だからわかること～」11:00～11:40 個人ピアノレッスン（1人：20分）11:10～14:00 3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） *食事終了後、自由解散

II 入試と広報

<p>第4回</p>	<p>7月23日(土) 24日(日) 9:30～受付開始  10:00～14:00</p>	<p>1 ウェルカムステージ 2 開会：学科・入試説明等／複数回参加者 体験授業 3 体験授業 (1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30) A：「コラージュ体験 こころの芸術作品完成！」 B：「おりがみを楽しもう」 C：「障害のある人の心に寄り添う」アイマスク体験をしよう D：レクリエーションで遊ぼう！  保護者対象在学生との懇談会 11:00～11:40  4 学食体験 5 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） * 食事終了後、自由解散</p>
<p>第5回</p>	<p>8月6日(土) 7日(日) 9:30～受付開始  10:00～14:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等／複数回参加者 体験授業 2 体験授業 (1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30) ○7日(日)のみ特別講演：11:00～11:40 永山友美子先生によるお話とハーブ演奏 「やさしさと愛で人は育つ」～ハーブの調べにのせて～ A：「スマイル幼稚園」by スマイル部(6日のみ) B：「紙芝居の演じ方」 C：「ドキドキワクワクピアノ講座」 D：体験！園の先生～オリジナル園だよりをつくろう  保護者対象懇談会「実習指導室から」 6日(土) 11:00～11:40 7日(日) 11:50～12:30 個人ピアノレッスン(1人：20分) 11:10～14:00  3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） * 食事終了後、自由解散</p>
<p>第6回</p>	<p>8月20日(土) 21日(日) 9:30～受付開始  10:00～14:00</p>	<p>1 ウェルカムコンサート 2 開会：学科・入試説明等／複数回参加者 体験授業 3 体験授業 (1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30) A：「ブラインドウォークにチャレンジ！」～見えるって素敵～ B：レクリエーションで遊ぼう！ C：「ペーパーサートをつくってみよう」 D：「コラージュ体験 こころの芸術作品完成！」  保護者対象懇談会「今だから純真一育てたい学生像」 11:00～11:40  4 学食体験 5 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） * 食事終了後、自由解散</p>



Ⅱ 入試と広報

第7回	9月24日(土) 25日(日)	1 開会：学科・入試説明等／複数回参加者 体験授業 2 体験授業（1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30） A：「脳のおはなし」～子どもの脳の不思議～ B：「しかけ歌あそびを楽しもう」 C：「身振り・手振り・手話等全身でお話をしよう」 保護者対象懇談会「学生相談室から」 11:00～11:40 個人ピアノレッスン（1人：20分）24日(土)10:00～15:00 25日(日)10:00～12:00
	9:30～受付開始  10:00～14:00	3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） ＊食事終了後、自由解散

② 参加状況

○ オープンキャンパス参加状況一覧

(単位：人)

2011年実施結果（出願願率60%）

回	実施日	こども学科				複数回							
		延べ人数 (受験生・ 保護者)	1.2 年生	個別 相談 者数	初回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	
春の 見学会	2011.3.23(水) ～25(金)	中止											
1	2011.4.29(金)	23	11	0	19	23							
2	2011.4.30(土)	12	1	0	5	11	1						
3	2011.5.28(土)	7	6	0	3	6	1						
4	2011.5.29(日)	14	10	0	14	12	2						
5	2011.6.18(土)	15	11	1	10	12	1	2					
6	2011.6.19(日)	18	12	2	6	13	2	3					
7	2011.7.9(土)	31	12	1	14	23	7		1				
8	2011.7.10(日)	20	10	2	4	9	5	4	2				
9	2011.7.23(土)	34	10	7	14	25	6	1		2			
10	2011.7.24(日)	26	9	3	8	22	3		1				
11	2011.8.6(土)	52	18	25	6	41	7	1	3				
12	2011.8.7(日)	43	22	15	8	32	5	2	1	1	2		
13	2011.8.20(土)	31	14	13	6	28	2	1					
14	2011.8.21(日)	37	27	22	16	32	3			1		1	
15	2011.9.24(土)	24	9	0	7	9	10	2		1		1	1

16	2011.9.25(日)	19	9	3	9	16	1	1			1		
合計		406	191	94	149	314	54	17	8	5	3	2	1

### ③ 成果と課題（点検・評価）

オープンキャンパスは、本学を理解していただける絶好の機会と考えている。平成23年度のオープンキャンパスの開催日については、昨年度の実績を基に検討して決定した。

学科説明、入試説明、体験授業、模擬授業、学食体験、キャンパス見学、個別相談などを実施し、本学教職員と学生スタッフで対応している。一人ひとりを大切にしている、単学科で小規模ならではの本学の良さを、来学された高校生や保護者にも感じていただけるように、教職員はもちろん学生スタッフも密に親切、丁寧な対応を心がけている。

また、オープンキャンパスも回を重ねるごとに、数回参加している方が増えてくるので、毎回同じ学科説明や入試説明を聞くのではなく、リピーターに対しは別メニューを置くという対応をしてマンネリにならない対策を取った。

個別相談では、受験生一人ひとりに対応し、より興味を持ってもらえる貴重な機会としている。できる限り高校訪問をしている高校の生徒と面談できるように相談担当者を組み、配慮をして、より相談がスムーズにいくようにした。

## （3） その他の広報活動

### ① 高等学校への訪問

本学では開学以来、県内はもとより隣接県の高等学校を中心に高校訪問を行っている。訪問の目的は、本学の教育理念や取組・入学試験での選考方法、卒業後の進路などについて、高等学校に理解していただくことである。平成23年度も、全教職員を各地区に分担し、春期、夏期、秋期、冬期と4回高校訪問を行った。春期の訪問では、指定推薦校を中心に文書を持参している。夏期は、高等学校の三者面談が終了した時期に訪問し、秋期は、推薦入学試験の願書受付が始まる前に、オープンキャンパスや学校見学などに来ていただいた高校生の出身校を中心に訪問を行った。冬期は、推薦入学試験やAO入学試験で合格者のある高校へお礼の挨拶とプレカレッジのお知らせをして、残る入試（一般入試、AO入試）のご案内をしている。

### ② ホームページ

大学案内パンフレットとならんで、ホームページもまた本学に関する情報を受験生や一般の方へ提供する媒体として重要な役割を担っている。特に、ホームページは、最新の情報を提供できるということにおいて、パンフレットとは異なる利点がある。その利点を活かすという意味で、今年度、大々的にホームページのリニューアルを行い、常に「埼玉純貞短期大学の今」を発信できるホームページとした。具体的には、授業紹介、ピアノレッスン Movie、教職員や学生ブログのアップなど、役に立つ情報の提供と、大学・学生がど

のような活動をし、何を感じているかを発信できるホームページにした。

### ③ Web サイトへの掲載

本学のホームページ以外に、教育関係者を介してインターネット上に本学の状況等を公開している。平成 23 年度は、4 社との契約をしているが、資料請求やオープンキャンパスへの申し込み等を可能にしている。ここでの効果は、他大学を検索中に本学の取り組みや取得可能な資格・免許状を広く知らせることができる。この取組により、資料請求者の居住地が広範囲になった。

### ④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会

毎年、埼玉県を中心に茨城県・群馬県・栃木県等のホテルや高等学校を会場とした進学相談会やガイダンス、模擬授業に積極的に参加している。進学相談会やガイダンスに参加することで、高校生のニーズや様子を感じながら本学を志望する生徒に対しての説明ができています。また、模擬授業では、本学教員の教育への取組みや姿勢、そして大学に入学してから学ぶ内容について理解してもらえるよい機会としている。

随時、キャンパス見学も受け入れており、本学へ直接来校する受験生や保護者に対してキャンパス見学や個別相談を実施し、希望であれば普段の授業参加、学食体験もできるようにしている。

### ⑤ 広報誌作成

本学の学校行事や授業、学生の活動等お知らせする広報誌として「Junshin News Letter」を発行している。平成 23 年度は、春と夏と冬に 3 回発行した。

第 1 号（春号）の主な掲載内容は、第 29 回入学式本学園理事長の入学式祝辞、学長の新生へ祝辞、幼稚園実習、キャリアガイダンスの報告、羽生市学びあい夢プロジェクト、子ども大学はにゅうの報告、パティオ（中庭）整備、学生食堂のリニューアルの報告、「こどもの歌コンサート」の報告、自宅外通学生との懇親会開催の報告、義援金ボランティア活動の報告、学校見学会の報告、2011 オープンキャンパス日程のご案内についてである。

第 2 号（夏号）の主な掲載内容は、学位授与式・卒業を祝う会の報告、第 46 回全国私立短期大学体育大会の報告、東京ディズニーリゾートの学外研修の報告、公開講座の報告、オープンキャンパス実施の報告、進学相談会のご案内、入試日程のご案内、今後の行事予定のご案内などである。

第 3 号（冬号）の主な掲載内容は、就職活動の報告、先輩から後輩への「実習伝え合い」の報告、「女子学生のためのキャリア形成講座」の報告、「入門ゼミ防犯講座」の報告、純真祭の報告、第 27 回秋桜会総会の報告、保護者会開催の報告、「純真スポーツ大会」の報告、「キャッセ羽生まつり」の報告、第 1 回研究セミナーの報告、第 28 回卒業式のお知らせ、進学相談会のご案内、入試日程のご案内、プレカレッジ日程のご案内、今後の行事予定のご案内などである。

⑥ プレカレッジ

推薦入試や AO 入試での合格者は入学までの時間が長いため、入学までの意識や意欲などのモチベーションが下がらないように、入学前教育としてプレカレッジを実施している。合格者に対して入学前の事前教育を行うことによって、新年度からの意識付けになるだけでなく、学力低下を防ぐ対策にもなっている。

実施概要と内容は、以下のとおりである。

○ プレカレッジ概要

・日程
必修科目 2011年12月17日(土)・2012年1月14日(土)・3月2日(金)・3月23日(金) ※中止
選択科目 2011年12月17日(土)・2012年1月14日(土)・2月4日(土)・2月17日(金) 3月2日(金)・3月23日(金) ※中止
特別講演 2012年1月22日(日) 表現発表会開催(羽生市産業文化ホールにて)
・履修方法 1月22日(土)、2月25日(金)の必修科目、1月14日(土)、3月2日(金)の必修科目は どちらか都合の良い日に出席する。 選択科目については、受講したい科目に出席する。 2月17日(金)は、3つの選択科目の中から希望する科目2つに出席する。

○ プレカレッジ日程及び内容一覧

実施日	1時限目 13:30～14:30	2時限目 14:40～15:40
12月17日(土)	必修「文章の書き方基礎講座」 選択「相談援助」	必修「文章の書き方基礎講座」 選択「相談援助」
1月14日(土)	必修「保育者・教育者としての心得」 選択「子どもが楽しめる遊び」 選択「ピアノレッスン」	必修「保育者・教育者としての心得」 選択「子どもが楽しめる遊び」 選択「ピアノレッスン」
特別講演 1月22日(日)	表現発表会 (13:00～16:00 終了予定) 開催場所：羽生市産業文化ホール・小ホール	
2月4日(土)	選択「子どもの困り感に寄り添える 保育者・教師に」 選択「保育・教育実習基礎講座」	選択「子どもの困り感に寄り添える 保育者・教師に」 選択「保育・教育実習基礎講座」
2月17日(金)	選択「保育原理入門(保育士のコンピテンシー)」 選択「造形表現～陶芸入門～」 選択「ピアノレッスン」	選択「保育原理入門(保育士のコンピテンシー)」 選択「造形表現～陶芸入門～」 選択「ピアノレッスン」
3月2日(金)	必修「保育者・教育者としての心得」 必修「文章の書き方基礎講座」	必修「保育者・教育者としての心得」 必修「文章の書き方基礎講座」

	選択「子どもと文化(雑祭り)」	選択「子どもと文化(雑祭り)」
3月23日(金) ※中止	必修「建学の精神を理解する」 選択「心理学入門」 選択「特別支援保育～こんな時どうする?～」	必修「建学の精神を理解する」 選択「心理学入門」 選択「特別支援保育～こんな時どうする?～」

#### (4) 成果と課題(点検・評価)

オープンキャンパス以外の広報活動として行っている高等学校への訪問や模擬授業、進学ガイダンスは、本学教職員ができる限り担当高校を決めて何うようにして、高校側との信頼関係を築きながら行うようにした。

本学を広く理解してもらうために、ホームページや広報紙「Junshin News Letter」は大変重要である。ホームページについては、今年度、大幅にリニューアルをして、常に新しく魅力ある情報を発信できるような体制にした。アクセス数も増えて反響も大きい。広報誌「Junshin News Letter」についても、定期的に刊行することが定着してきた。内容も充実してきており、高校や高校生、在学生、保護者に配布して、本学への理解を深めていただいている。

入学前教育(プレカレッジ)は5年目を迎え、合格内定者からはもちろん、高等学校からも理解と評価を得られている。

## Ⅲ 教育活動

### 1 教育課程

#### (1) 教育課程の編成

本学において授与する学位は短期大学士であり、取得可能な免許状・資格は次のとおりである。

○ 学科別授与称号及び免許状・資格証の名称一覧

学科名	教育課程	称号・免許状・資格証
こども学科	卒業課程	短期大学士（こども学）
	教員養成課程 教員養成課程 保育士養成課程 司書課程 司書教諭課程 社会福祉主事任用資格 レクリエーション・インストラクター資格 ビアヘルパー受験資格	小学校教諭二種免許状 幼稚園教諭二種免許状 指定保育士養成施設卒業証明書 図書館司書資格証明書 司書教諭課程修了証書

こども学科では、子どもに関する専門分野の知識を授け、向上心にあふれ、優れた人格と協調性を持つ人材の育成を目的としている。本学科における教育課程は教養教育科目及び専門科目をもって編成する。教育における質を保持しながら、保育・教育の専門職を養成する本学の教育目的を達成するために必要な授業科目を開設し、専門科目に偏ることのないようにバランスよく、体系的なカリキュラム編成をしている。

今年度は、厚生労働省からの「指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法の一部を改正」の告示を受け、告示された条件を満たして本学の状況に沿うように、新科目の設置、科目の統合、科目名や単位数の変更など、カリキュラムの改定を行った。

#### (2) 成果と課題（点検・評価）

厚生労働省からの告示を受け、カリキュラムの改定を行った。これを機会に、今までのカリキュラムをより「変化する時代の要請と求められる大学像、専門職像に対応した人材育成」を目指したカリキュラムになるよう科目編成を行った。また、通年で学ぶべき科目はⅠ・Ⅱという形で半期ずつにするなど、ほとんどの科目を半期で完結させる Semester 制にした。そのことによって、履修計画の見直しが行いやすく、万一不合格科目があった時も、そのリカバリーが早期にできるようになると考える。

基礎ゼミとして置いている「入門ゼミ」が、半期ではその成果を十分に果たすことがで

きず、もう少し時間が欲しいというのが昨年度の課題であったが、「入門ゼミⅠ・Ⅱ」として、通年にわたる時間を取ることができた。2年生においても、引き続き、専門性と幅を広げる意義を深められるようにゼミの充実を図り、「保育実践演習」「教職実践演習」を置いた。

レクリエーション・インストラクター資格やピアヘルパー受験資格は、本学学生にとってそれほど負担もなく付加価値をつける資格・免許となりえるが、司書・司書教諭免許については、履修科目の負担も多く、就職につながらないことから、ここ数年の懸案事項であった。来年度は、司書課程を廃止する方向性である。

## 2 時間割編成と履修指導

### (1) 時間割編成

#### ① 時間割編成

学生にとって効果的な授業となるように、授業における学生数を講義科目では50名以下、演習・実習科目では40名以下となるように配慮した時間割編成を行っている。

乳幼児保育コースにおいては、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格及び司書資格の取得が可能になるように、こども学コースにおいては、小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状及び司書教諭資格が取得可能となるように配慮した。また、小学校課程の科目について、模擬授業などが効果的、効率的に行えるように、1、2年生合同で受講できるよう編成し、その科目については隔年開講とした。

#### ② 成果と課題（点検・評価）

講義科目の履修者は50名以下、演習・実習科目では40名以下となるように配慮した時間割編成を心がけて時間割を作成したが、今年度の人学者が予定より上回ったため、前期の一部の講義科目において、50名を超えた授業になってしまった。後期の時間割編成において、その点を改善し、50名以下、演習・実習科目では40名以下の授業を実施できるようにした。

今年度は、こども学コースの希望者がいなかった。コース選択希望は、入学直前でのオリエンテーションで行っているため、時間割の再編成と授業担当の変更等が新年度当初に行われることになる。コース選択がもう少し早いタイミングになると良いと考える。

### (2) 履修指導

#### ① 履修指導

4月のオリエンテーションにおいて、教務委員と教務事務担当者によって学年別に履修説

明が行われ、さらに、授業の選択方法と免許状及び資格の取得方法などについてクラス担任からも指導を行った。

最終的な履修指導と履修登録は1年生についてはクラス指導が可能な「入門ゼミⅠ」において、2年生についてはゼミにあたる「総合演習(旧カリキュラム)」の時間において、担任によって行った。

履修登録と同時に「免許状・資格の取得希望調査」を提出させ、クラス担任・教務委員と教務事務担当者が全学生の取得希望の免許状・資格と履修状況を把握し、指導と対応を行った。さらに教務事務担当者は随時、学生に対し個別の履修指導も行った。

## ② 成果と課題(点検・評価)

新入生に対しては、入学前オリエンテーションにおいて履修説明を行う予定であったが、3月の東日本大震災によって中止となってしまった。そのため4月のオリエンテーションでの説明と指導となり、時間が充分に取れなかったと感じているが、最終的な履修指導と履修登録をゼミの時間で行うことで、履修確認がされて、履修登録期間も守られた。

クラス担任・教務委員・教務事務担当者との連絡体制と、年度を超える時点での申し送りの徹底が図られているので、再履修等の指導もスムーズに行うことができた。

## 3 授業実施状況

### (1) 授業科目の履修者

#### ① 前期

(単位：人)

授業科目の履修人数 (名)	(教養教育科目) 教養科目H	専門教育科目	司書資格に関する専門科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
0	1	3	0	0	0	4
1-9	0	15	0	1	0	16
10-19	1	7	7	0	0	15
20-29	0	13	0	0	0	13
30-39	22	20	0	0	0	42
40-49	0	12	0	0	0	12



Ⅲ 教育活動

50-59	2	0	0	0	0	2
60-69	6	14	0	0	0	20
70-79	0	0	0	0	0	0
80-89	0	0	0	0	0	0
90-99	0	0	0	0	0	0
100-109	0	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0	0
120-129	0	0	0	0	0	0
130 以上	0	0	0	0	0	0
計	32	84	7	1	0	124

② 後期

(単位：人)

授業科目の履修人数 (名)	(教養教育科目) 教養科目	専門教育科目	司書資格に関する専門科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
0	2	7	0	0	0	9
1-9	0	21	0	0	0	21
10-19	2	9	8	4	0	23
20-29	3	19	0	0	0	22
30-39	11	32	2	0	0	45
40-49	0	11	0	0	0	11
50-59	0	1	0	0	0	1
60-69	0	1	3	0	0	4
70-79	0	4	0	0	0	4
80-89	0	7	0	0	0	7
90-99	0	0	0	0	0	0
100-109	0	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0	0
120-129	3	9	0	0	0	12
130 以上	0	0	0	0	0	0
計	21	121	13	4	0	159

③ 成果と課題（点検・評価）

講義科目の履修者は50名以下、演習・実習科目では40名以下の授業実施を心がけているが、今年度の人学者が予定より上回ったため、前期の一部の講義科目において、50名を超えた授業になってしまった。後期の時間割編成で改善し、後期は50名以下、演習・実習科目では40名以下の授業を実施できるようにした。履修者50名以上という授業もあるが、これらの科目は、その授業内容から学生への効果を考慮してのことであり、複数教員で担当し、1教員に対する学生数は50名以内となるようにしている。

(2) 授業の開講・休講及び補講の状況

① 授業時数

平成23年度の授業は、厚生労働省の通達に基づき、前期・後期ともに15回開講された。

② 休講の状況

(a) 前期

(単位:科目)

教育課程の区分	休講回数別授業科目数										計
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	
教養科目	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	4
専門科目	0	0	0	0	1	0	2	1	6	2	12
司書に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	1	0	3	1	10	3	18

(b) 後期

(単位:科目)

教育課程の区分	休講回数別授業科目数										計
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	
教養科目	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	4
専門科目	0	0	0	0	4	1	7	7	4	7	30
司書に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	5	2	8	7	6	9	37

Ⅲ 教育活動

前期・後期ともに保育所実習及び幼稚園・小学校・中学校教育実習のために休講となった授業は、この表には含まない。

③ 補講の状況

(a) 前期

(単位:科目)

教育課程の区分	補講回数別授業科目数										計
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	
教養科目	0	0	0	0	0	0	2	0	4	0	6
専門科目	11	2	1	0	4	6	3	3	3	2	35
司書に関する専門科目	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	11	2	1	1	4	6	5	3	8	2	43

(b) 後期

(単位:科目)

教育課程の区分	補講回数別授業科目数										計
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	
教養科目	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
専門科目	0	1	0	0	2	3	7	7	8	6	34
司書に関する専門科目	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	5
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	1	0	1	2	4	8	7	8	10	42

④ 成果と課題(点検・評価)

すべての授業において、前期・後期ともに全教科15回以上の授業を実施した。この回数実施にあたり、実習などでやむを得ず休講になった科目は、補講の実施を行った。

(3) 授業履修者の問題状況

① 授業欠席調査該当者数

(a) 前期

(単位:人)

学科・専攻	学年	欠席要注意授業科目数別該当者数									計
		10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	

Ⅲ 教育活動

卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	1	0	0	0	7	12	11	31
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	4
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	7	1	1	1	1	2	1	6	7	22	49
		こども学コース	1年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計				7	1	1	2	1	2	1	14	19	36	84

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	欠席要注意授業科目数別該当者数											
			10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	1	1	4	8	20	34
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	4
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	5	0	3	3	2	4	7	8	9	23	64
		こども学コース	1年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計			5	0	3	3	2	5	8	13	18	45	102	

② 受験無資格者調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	受験無資格科目数別該当者数											
			10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
		こども学コース	1年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計			1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	4	

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	受験無資格科目数別該当者数											
			10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
		こども学コース	1年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	

③ 再試験該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	再試験科目数別該当者数											
			10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅲ 教育活動

学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	1	0	1	1	15	18
		こども学コース	1年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計				0	0	0	0	0	1	0	1	1	22	25

(b) 後期

(単位:人)

	学科・専攻	学年	再試験科目数別該当者数												
			10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計		
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	14	20
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	3	13	16	
		こども学コース	1年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計				0	0	0	0	0	0	0	0	9	27	36	

④ 追試験該当者数

(a) 前期

(単位:人)

	学科・専攻	学年	追試験科目数別該当者数												
			10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計		
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		こども学コース	2年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	6	
		こども学コース	1年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
計				0	0	0	0	1	0	1	1	1	3	6	

(b) 後期

(単位:人)

	学科・専攻	学年	追試験科目数別該当者数											
			10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
		こども学コース	1年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計				0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	2

⑤ 成果と課題 (点検・評価)

学則に「各授業科目について出席すべき時間数の3分の2に達しない者は、その授業修了の認定を受けることができない」との定めがある。授業の出席回数不足による定期試験受験無資格者をなくすために、昨年度より、毎日授業担当者から欠席状況を教務に報告してもらい、これを集計し、全学生の全科目の欠席状況が毎日教員全員に配信した。これによって、出席状況が不十分な学生を日々把握し、授業担当者及びクラス担任から指導を行うことができた。このことにより、出席回数不足による受験無資格者はほとんどなくすることができた。

(4) 免許状・資格取得状況

① 免許状・資格課程履修者数

(単位：人)

卒業学年・非卒業学年	学科・専攻		学年	司書資格	司書教諭資格	小学校教諭二種免許状	幼稚園教諭二種免許状	保育士資格	免許・資格を取得しない者	人数(実数)
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	11	-	-	76	77	1	79
		こども学コース	2年	-	3	8	3	-	0	8
	小計				11	3	8	79	77	1
非卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	1年	12	-	-	123	123	0	123
		こども学コース	1年	-	-	-	-	-	-	-
	小計				12	0	0	123	123	0
合計				23	3	8	202	200	1	210

② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数

(単位：人)

免許・資格の 組み合わせ	卒業学年			非卒業学年			合計	
	こども学科		小計	こども学科		小計		
	乳幼児保育コース	こども学コース		乳幼児保育コース	こども学コース			
	2年	2年		1年	1年			
小学	-	4	4	-	-	0	4	7
幼稚	1	0	1	0	-	0	1	
保育	2	-	2	0	-	0	2	
司書	0	-	0	0	-	0	0	177
小学・司書	-	-	0	-	-	0	0	
小学・司教	-	1	1	-	-	0	1	
幼稚・司書	0	-	0	0	-	0	0	
幼稚・小学	-	1	1	-	-	0	1	
幼稚・保育	64	-	64	111	-	111	175	
保育・司書	0	-	0	0	-	0	0	

### Ⅲ 教育活動

小学・司書・司教	-	-	0	-	-	0	0	25
小学・幼稚・司書	-	-	0	-	-	0	0	
小学・幼稚・司教	-	2	2	-	-	0	2	
幼稚・保育・司書	11	-	11	12	-	12	23	
小学・幼稚・司書・司教	-	-	0	-	-	0	0	0
無免許・無資格	1	0	1	0	-	0	1	1
計	79	8	87	123	-	123	210	

注) 表中の表記は以下のように省略する。

小学：小学校教諭二種免許状 幼稚：幼稚園教諭二種免許状 保育：保育士資格 司書：司書資格 司教：司書教諭資格

### ③ 成果と課題（点検・評価）

100%に極めて近い比率で、教員免許状や保育士資格の両方あるいはいずれかを取得している。また、92%近くの学生が、2つ以上の資格・免許を取得している。このことから、免許状や資格取得に対して、学生は意欲的であることがうかがえ、入学時の所期の目的を果たして卒業しているといえよう。

## （５） 教育実習・保育実習・介護等体験

### ① 実習等の位置づけと目標

こども学科は、その教育課程に幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程がおかれ、関係科目を履修し単位を取得することにより、こども学コースでは、小学校教諭二種免許状及び幼稚園教諭二種免許状が取得できる。一方、乳幼児保育コースでは、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格が取得できる。

これらの免許状・資格を取得するためには、以下のような実習が必修となる。

#### ○ 実習内容一覧

免許状・資格	実習内容
小学校教諭二種免許状	小学校における教育実習および介護等体験
幼稚園教諭二種免許状	幼稚園における実習
保育士資格	保育所及び施設における実習

本学では、1年次に施設実習および幼稚園前期実習、2年次に幼稚園後期実習、保育実習、小学校教育実習、介護等体験などが組みられるが、いずれもこれらの実習は、次のような位置づけがなされる。

まず、大学で学んだ理論を教育や保育の現場で自ら体験し検証することである。これは、理論と実践とを関係づけ、学習の成果を現場において試すことによって新たな課題を見つけ出すものである。次に、教育や福祉の現場に触れることによって、現状の把握や理解と自らの将来像を見つめ、教育や福祉に関する造詣を深めることである。

② 実習等の実施状況

各実習に関する指導は「実践研究」の授業を中心に行われた。

まず、事前指導において、小学校・幼稚園・保育所・施設等の実際的な理解を図る一方、実習指導案・実習日誌・記録・実習ノートなどの作成指導を中心として、教育・保育現場等で必要とされる実践的な技術を習得させた。そして、実習中は、各実習先へ専任教員が巡視を行い、実習先への挨拶とともに、学生の様子を観察し、対面による指導・助言等を行った。実習後は、学生一人ひとりと面談を行い、評価票などを参考にしながら、個人の実態に応じた指導・助言を行った。

(a) 小学校教育実習

平成 22 年度の「初等教育学演習」（小学校実習の事前指導を目的とした授業）と平成 23 年度の「実践研究（小学校）」（事前指導）を通して、小学校実習における心構えや諸注意、またサービスの理解等を教授した。更に、授業計画の立て方等については、実際に模擬授業を行い互いに検証し、より良くするための方策を考える等、実践的な教授技術の養成を行った。

平成 23 年度は、4 年生大学を卒業してから入学した学生、就職を経験して入学した学生、結婚出産を経験して一念発起して入学した学生等があり、様々な年齢層を含んでいた。特に、前述した 3 名は、勉強や資格取得に対して意識の高いことが伺えた。

様々な経験を持つ 8 名の学生が集まったため、それぞれが意見を言う機会を大事に、全体のポテンシャルが高まるように実習指導を行った。個々によって能力や意識の差はあったものの、教育実習においてはそれぞれ頑張ることが出来た。前述の 3 名は、S 評価をいただき、高評価であった。実習中は、担当教官が研究授業を参観し、反省会に出席した。実習後には、学生一人ひとりと面談を行い、個人の实態に応じた指導・助言を行った。

○ 小学校教育実習概要

実習期間	実習生数（単位：人）	実習校数（単位：校）
平成23年10月17日～11月11日	8	8

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(b) 幼稚園教育実習

実習への参加に当たっては、1 年次に「幼児教育者論」「教育原理」の履修、そして単位取得が必要となっている。特に、「幼児教育者論」では実習園の選定や交渉に際しての事前指導をも行い、初めての实習である「前期/基本実習」に向けて、幼稚園教育実習の意義、具体的内容、心構えやサービスの諸注意、日誌の書き方、提出の仕方等の指導を行った。実習終了後は、「後期/応用」実習での課題に繋がる評価の伝達をし、「実践研究（幼稚園）」へ実習指導の展開を移行していった。23 年度後半には、2 年生と実習の実際について情報交換を行い、実習期間の具体的な活動の様子や日誌のまとめ、準備物や心構え等について学習



している。

2年次の実習では事前指導の段階において、1年次での実習の振り返りを基に「後期/応用実習」での各自の自己課題を設定させた。また、責任実習においての事前指導として、児童文化財の作成と実践、指導計画の立案、具体的場面での保育方法の理解等を個々の状況に応じて行わせた。さらに、人間関係における不安を軽減するために、教職員との関わり方などをも説明した。そして、幼稚園実習への参加許可は、1年次の施設実習の取り組みや成果にもよることを知らせ、実習の事前事後指導への取り組みの態度、園との関係、地域における私生活上の留意事項など繰り返し指導した。

終了後は個別に面談を行い、実習園の評価表を基に、担当教員が実習を終えての自己課題を明らかにさせながら、園による評価を自身の反省として、また、保育所保育実習の課題へとつながるよう伝えた。

○ 幼稚園教育実習概要

	実習期間	実習生数(単位:人)	実習園数(単位:園)	実施学科・学年
前期/ 基本	平成23年9月12日～17日	118	99	乳幼児保育コース1年
後期/ 応用	平成23年5月23日～6月11日	82	71	乳幼児保育コース2年 こども学コース2年

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(c) 保育所保育実習

実習を実施するにあたっては、「実践研究」の授業を中心に事前・事後指導を行った。事前指導においては保育所保育指針を参考に、保育所の位置づけや活動内容といった理論的な内容の理解を図る一方、指導案の作成や実習ノートの記録の仕方といった具体的な内容についても指導を行った。また講義だけでなく、外部からの講師も招聘し、実習にあたっての留意点や心構えなどを伺った。ビデオ教材も活用し、保育現場の実際を視聴させた。その他、絵本の読み聞かせや製作の紹介等、実践的な内容も取り扱った。

実習中は、電話での個別相談や、巡回指導を通じて実習の把握や指導を行った。

本年度は、前半実習と後半実習の間に約1か月の期間があり、前半実習の振り返りを行う事ができた。実習先からの評価表を基礎資料とし、面談をする中で前半実習の反省と後半実習への課題を明確にした。

事後指導については、実習のまとめや反省を作成させた。また、それらと実習先からの評価表を用いて個別の面接を実施し、今後の課題などを話し合い、保育者としての役割について改めて認識を深めるよう指導を行った。

### Ⅲ 教育活動

#### ○ 保育所保育実習概要

	実習期間	実習生数 (単位:人)	実習園数 (単位:園)	実施学科・学年
前半	平成 23 年 7 月 4 日～7 月 19 日	78	76	乳幼児保育コース 2 年
	合計	78	76	
後半	平成 23 年 8 月 29 日～9 月 12 日	75	73	乳幼児保育コース 2 年
	平成 23 年 11 月 28 日～12 月 10 日	1	1	乳幼児保育コース 2 年
	合計	76	74	

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

#### (d) 施設実習

本学において「施設実習」は、観察実習を中心とする「幼稚園実習(前期/基本)」の次に行われる初めての長期の実習である。施設実習においては、「幼稚園実習」・「保育所実習」の二つとは異なり、原則的に大学が実習先として決定した施設に学生を紹介し、原則、宿泊で実習を行っている。ただし、遠方より来学している学生や、特に、学生本人が強く希望した場合、自己開拓した施設で実習することも例外的に認めている。実習巡視においては、こども学科専任教員 9 名が、県内及び、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、千葉県、東京都の施設を訪問した。

また、保育実習Ⅲ(施設)については、履修学生がいなかったため実施していない。

#### ○ 施設実習概要

##### 保育実習Ⅰ(施設実習)

実習期間	実習生数 (単位:人)	実施施設数 (単位:施設)	実施学科・学年
平成24年2月13日～2月24日	105	61	乳幼児保育コース1年、2年

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

#### (e) 介護等体験

本学では、こども学コースの小学校教諭二種免許の取得を希望する学生に対し、介護等体験事前指導については、前年度の平成 22 年度後期に集中授業で実施した。講義においては社会福祉施設、養護学校の概要、役割、機能等についての理解を深めるとともに、実際にブラインドウォークの体験や、車いす等の操作や介助の方法を学ぶことにより、具体的な介護・支援の基本的部分についての取り組みにも努めた。

介護等体験の体験実習については、平成 23 年 6 月下旬から平成 24 年 1 月上旬に社会福祉施設にて、平成 23 年 5 月 26 日・28 日および平成 23 年 9 月 21 日～22 日に埼玉県立行

田特別支援学校において体験実習を行った。

特別支援学校および社会福祉施設の実習先は、東京都社会福祉協議会ならびに埼玉県社会福祉協議会の配属に基づき特別支援学校 2 日間、社会福祉施設 5 日間を実施した。これらの実習は、短期間の体験ではあったが、それぞれの学生が明確な目的を持って体験に取り組んでいた。

この介護等体験で、学生たちは支援が必要な生徒や施設利用者の方と接することにより、コミュニケーションの取り方など新たな課題を持つことができた。今後は、実際の介護や支援方法について等、実技授業・社会福祉援助技術演習授業の充実を図っていかねばならないと考える。

### ③ 成果と課題（点検・評価）

本年度は、3月に東北を中心とする大きな地震に見舞われ、東北に住所のある学生の実習の実施にも少なからず、影響があった。東北地方において、実習や就職の受け入れ先になっている幼稚園、保育園等にお見舞いという形で、文書を送らせていただいた。

幼稚園の実習に関しては、1年次における前期/基本実習も2年目となり、軌道に乗ってきたところである。やはり期待していた通り、1年次に現場体験をする意味は大きく、特に保育者になる意識付けや、実際の子どもの姿を確認することが重要であることを感じた。しかしながら、入学時期が4月、実習が9月と時期が近いため、実習受け入れ先の選定や交渉にかかる絶対的な時間が少なく、困難を伴っている。今後、スムーズな実習先選定ができる方法があるかを検討することが課題である。

小学校の実習に関しては、9月を実習時期としているが、教員採用試験の時期が7月であり、試験を受ける時点では、まだ実習を行っていない。教員採用試験では、現場の教育内容に関する問題も多く出ており、結果として、本学の受験者が不利になることも考えられる。小学校実習に関しては、実習実施時期の検討が必要である。

## （6） 授業内容と教育方法の工夫・研究

### ① こども学科

各教員は、教育者・保育者として必要な理論のみならず、実践において必要な諸能力を学生に身につけさせるために、教育内容や教育方法および教材の工夫を行っている。

具体的な授業方法としては、教員が一方的に知識を伝達するような、従来型の板書に頼る授業ではなく、パワーポイントで作成した資料や新聞記事なども活用し、学生が理解しやすい授業を行っている。また、学生の積極的な授業参加を促すために、グループワークや学生が発表する場を積極的に取り入れている。

授業内容を学生に定着させるために、保育・教育現場等で活躍している外部講師を招き、現場をより身近にリアリティを持って感じられる講演を行ったり、学生自身が体験し授業で学んだことを考察できるような学外授業も実施された。

## ② 成果と課題（点検・評価）

今年度も、各教員がそれぞれの専門性を活かし、日頃の研究成果を授業にフィードバックすることで、授業をより魅力的なものとする努力がなされた。また、教授方法においても、学生が学習内容を理解しやすいように工夫をすることに加え、常に実践とのつながりを意識した授業が行われた。

入学する学生の特性やニーズは毎年少しずつ変化するので、今後とも各教員は研究と教材研究・授業研究を続ける必要がある。教員同士での授業参観や授業実践検討会の開催なども行いながら、今後も大学全体の教育力の向上を図っていきたい。

## （7） 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果

### ① 実施経緯

本学の学生が授業に対して求めていることを把握し、授業内容・運営方法等の様々な改善を図ることによって、学生の学習意欲や学習効果の向上を図れるものである。授業内容・授業方法・授業に対する満足度等に関して学生の声を聞き、今後の教育活動を改善し、教員と学生の相互理解と協力関係を豊かにする一助として、今年度も、以下の要領で「学生による授業評価アンケート」を実施した。

#### ○ 「学生による授業評価アンケート」実施要領

- 1 アンケート調査の所轄は教務係とする。
- 2 対象科目について
  - (1) 調査対象科目及び時期
    - (a) 対象科目：全科目（半期科目及び通年科目）
    - (b) 科目種類：講義・演習・実習・実技
    - (c) 実施時期：前期及び後期の定期試験直前あるいは最終授業
  - (2) 調査実施手順について
    - (a) 教務係において実施要項及びアンケート用紙を準備
    - (b) 調査実施予定日までに、担当教員へアンケート用紙を配布する。
    - (c) 担当教員は、実施要領（別紙）を見ながら方法を説明し、実施する。
    - (d) 回収後、アンケート用紙は教務係において保管
  - (3) 調査結果の集計について
 

教務係において保管するアンケート用紙は、担当教員別にファイルして担当教員の間覧に供するようにすると共に、同係において集計処理する。
  - (4) 調査結果の公表について
 

集計処理した調査結果は対象科目の担当教員に通知し、その結果に対しての感想や改善策を提出してもらう。
  - (5) アンケート内容について
 

授業評価にとって重要なアンケートの質問事項日は、数回にわたり審議を行って決定した。その結果、講義・演習用及び実技・実習用の次のような二通りのアンケート用紙が用意されることになった。

○ 資料：「授業評価アンケート実施要領」

授業評価アンケートは担当教員により、下記の要領で実施していただけますようお願いいたします。

平成 23 年度 期 授業評価アンケート【用紙：  】	
【実施日】  月  日(  ) 時限／【クラス】  (  人)	
【授業科目】  (  先生)	

【平成 23 年度  期授業評価アンケート実施要領（所要時間 20 分程度）】

「封入物」	<ul style="list-style-type: none"> <li>●調査用紙[用紙 A(講義・演習)／用紙 B(実験・実習・実技)]                (表面：マークシート記入方法) ……………履修者分+予備</li> <li>●マークシート……………履修者分+予備</li> </ul>
-------	--

【授業評価アンケート実施手順】 下記手順のうち「」内の文を学生に対して読み上げてください。

① 記入前準備

教員「調査用紙・マークシートを各 1 枚ずつ配布します。

調査用紙はボールペン、マークシートは鉛筆で記入するようにして下さい。」

(調査用紙・マークシートを各 1 枚ずつ学生に配布する。余りは封筒に入れたままで良い。)

教員「まず、調査用紙上部の[曜日・時限・科目名・実施日・担当教員]を記入してください。

マークシートは調査用紙表面の記入方法に従い、[曜日・時限・科目名・日付・担当教員] を記入し、[学年・クラス] のマークをしてください。

[曜日・時限]は通常時間割の曜日・時限、[実施日]は今日の日付を記入してください。」

② 記入～提出までの説明

教員「回答は、調査用紙の質問 1～10 は○をつけ、質問 11・12 は記述をしてください。

それが終わった学生は、質問 1～10 の回答をマークシートにマークをしてください。

これから 10 分、時間を取りますので、その間に記入を終えてください。」

教員「記入終了後は、回収を○○さんと△△さんをお願いします。

調査用紙は○○さんに、マークシートは△△さんに提出してください。

○○さんと△△さんは、集まったら全てを封筒に入れ、封をしてください。」

(回収担当の学生を 2 名程度指定し、1 人に封筒を渡す。回収が終わったら、声をかけるよう指示)

教員「では、回答を始めてください」

③ 記入させる(10 分程度)：この間、教員は退出する

④ 回収終了後、学生から封筒を受け取り、教員から教務係へ提出

Ⅲ 教育活動

② 集計結果

(a) 学生の授業への取組について

○ 集計結果 (前期)

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	69.2%	18.4%	7.4%	3.2%	0.4%	1.4%	0.0%
2	61.4%	30.2%	6.9%	0.9%	0.3%	0.3%	0.0%
3	40.6%	21.9%	19.4%	8.7%	8.9%	0.4%	0.0%

○ 集計結果 (後期)

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	52.7%	22.1%	11.8%	6.7%	4.3%	2.3%	0.0%
2	64.4%	26.4%	6.5%	0.2%	0.2%	2.3%	0.0%
3	50.9%	22.5%	17.3%	3.7%	2.9%	2.7%	0.1%

注)

- ・項目1「1：0回・2：1回・3：2回・4：3回・5：4回以上」
- ・項目2「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」
- ・項目3「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」

(b) 授業内容について

○ 集計結果 (前期)

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	67.9%	20.4%	7.7%	2.4%	1.0%	0.5%	0.0%
5	69.2%	17.1%	9.5%	3.4%	0.5%	0.3%	0.0%
6	72.4%	17.8%	6.4%	2.0%	1.0%	0.3%	0.0%
7	73.7%	17.0%	5.5%	2.7%	0.8%	0.3%	0.0%
8	69.5%	17.2%	8.6%	3.4%	1.0%	0.4%	0.0%
9	69.9%	16.2%	10.4%	1.8%	1.2%	0.5%	0.0%
10	70.0%	17.4%	8.0%	1.7%	1.4%	1.5%	0.0%

### Ⅲ 教育活動

#### ○ 集計結果（後期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	73.6%	17.1%	5.6%	0.7%	0.4%	2.7%	0.0%
5	75.3%	16.3%	4.9%	0.8%	0.2%	2.5%	0.0%
6	76.9%	15.3%	4.5%	0.4%	0.2%	2.7%	0.0%
7	77.1%	15.3%	4.4%	0.5%	0.2%	2.5%	0.0%
8	75.4%	15.5%	5.5%	0.8%	0.3%	2.5%	0.0%
9	75.6%	16.2%	4.4%	0.7%	0.3%	2.7%	0.0%
10	74.6%	14.9%	4.7%	0.7%	0.3%	4.8%	0.0%

注) 1：思う 2：まあまあ思う 3：どちらともいえない 4：あまり思わない 5：思わない

#### ③ 成果と課題（点検・評価）

「学生による授業評価アンケート」は、前期・後期末に専任教員の全科目と希望する非常勤教員の授業について実施した。実施にあたっては、学生がありのままを評価しやすいように、学生がアンケートを書く際、授業担当者は席をはずし、代表学生が回収し封をして提出させている。

集計は教務係職員が行い、その結果は各教員に配布される。教員は担当科目の集計結果と学生からの自由記述に対するフィードバックとして「授業評価アンケート結果に対するコメント」を出す。各教員は学生の授業評価を参考にしながら、今後の授業改善に活かしている。

この「学生による授業評価アンケート」の集計結果と教員からのコメントは、1冊のファイルにまとめ、図書館に置き、教員も学生も自由に閲覧できるようにしている。

ここに掲載されている集計結果は全体の平均であるので、細かい点検と評価はできないが、概ね適切な授業が実施されていると考える。

Ⅲ 教育活動

○ 資料：「学生による授業評価アンケート」調査用紙（用紙 A）

学生による授業評価アンケート調査用紙			用紙 A（講義・演習）
曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
		月 日	

この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。

**※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも、自分の選んだ数字をマークしてください。**

(I) 授業への姿勢について  
該当する項目に○を付けてください。

質問1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上

質問2 熱心に授業に取り組んだか。  
[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

質問3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。  
[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

(II) 授業内容について  
該当する項目を○で囲んでください。

[1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない

質問4 授業の内容がまとまっていて、よく理解できたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問8 授業の進め方が適切であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問9 教材（テキスト・視覚教材・板書・配布資料など）・教具（設備使用）などが適当であったか。  
[1] [2] [3] [4] [5]

質問10 授業内容は満足するものであったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問11 この授業に出て具体的にどんなものが得られたかを書いてください。  
[ ]

質問12 この授業をさらに良くするためにはどうしたら良いと思われるかを書いてください。  
[ ]

(III) この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。（必須）

-----

-----

-----

-----



Ⅲ 教育活動

○ 資料：「学生による授業評価アンケート」調査用紙（用紙B）

学生による授業評価アンケート調査用紙			用紙B(実験・実習・実技)
曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
		月 日	

この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。

※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも、自分の選んだ数字をマークしてください。

(I) 授業への姿勢について

該当する項目に○を付けてください。

- 質問1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上
- 質問2 熱心に授業に取り組んだか。  
[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ
- 質問3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。  
[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

(II) 授業内容について

該当する項目を○で囲んでください。

- [1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない
- 質問4 実技・実習の指導が的確で理解しやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]
- 質問5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]
- 質問6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]
- 質問7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]
- 質問8 授業の進め方が適切であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]
- 質問9 教材（テキスト・視覚教材・板書・配布資料など）・教具（設備使用）などが適当であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]
- 質問10 授業内容は満足するものであったか。 [1] [2] [3] [4] [5]
- 質問11 この授業に出て具体的にどんなものが得られたかを書いてください。

[ ]

質問12 この授業をさらに良くするためにはどうしたら良いと思われるかを書いてください。

[ ]

(III) この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。（必須）

-----

-----

-----

-----

-----

## IV 学生生活

## 1 学生の動向

## (1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況

## ① 平成 22 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻		入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
こども学科	乳幼児保育コース	86	-	79	0	7	0	0
	こども学コース	8	-	8	0	0	0	0
合計		94	0	87	0	7	0	0

## ② 平成 23 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻		入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
こども学科	乳幼児保育コース	127	122	-	0	4	0	1
	こども学コース	0	0	-	0	0	0	0
合計		127	122	-	0	4	0	1

## (2) 学生の動向

平成 23 年度の入学生は 127 名であり、定員を上回る入学者数となった。全員が乳幼児保育コースを希望し、こども学コースの希望者はなかった。こども学科 1 学年全体を 1 クラス 31 名～32 名の 4 クラスに編成にした。1 年次における退学・休学者は、退学者が 4 名、休学者が 1 名であった。退学者の主な理由は、進路変更によるものであるが、実際には、精神的な不安定さや経済的な理由を抱えている場合が多い。休学者については、健康上の理由で入院の必要があった学生である。

2 年生は、1 年生とのバランスを考え、こども学科 2 学年全体の 94 名を 31 名～32 名の 3 クラスに再編成をし、4 月のオリエンテーションで発表した。2 年次になっても、精神的ストレスや経済的理由などから退学者が出た。

しかしながら全体的には、積極的で前向きな学生が多く、皆勉強熱心である。

## (3) 成果と課題（点検・評価）

平成 18 年度から平成 19 年度にかけて「英語コミュニケーション学科」と「乳幼児保育学科第二部」を募集停止とし、「こども学科」のみの募集としたことにより、「埼玉純真短

期大学は閉鎖される」との風評が埼玉県を中心とした高校に広まった。このことにより入学希望者も平成20年度・21年度と募集定員の半数をやっと上回る程度までに激減するといった状況となった。

しかしながら、本学は「学生教育や研究活動の真摯に向き合う姿勢とその成果こそが、このような風評を打ち消してくれる」との、全教職員一致した考えと姿勢で学生教育や地域活動に積極的に臨んだ。

この「こども学科」単学科にしたことで全員の目標が明確になり、その結果、教職員も学生達も「社会に求められる保育者・教育者を目指す」との一致した目的意識を持って、授業をはじめとする学生生活を展開することとなった。また、平成22年度からは入学定員を120名とし、教職員が学生ひとり一人の顔と名前を認識できる人数とした。

このようにして学生に問題が生じた場合、教授会において学生の動向が報告され、全教職員が共通理解のもとに適切な学生指導が行われるようにし、学生教育の質の向上を図った。

しかしながら、課題として浮かびあがるのは、昨今は、学生の抱える問題も多様化し、経済的な問題・友人関係の問題・精神面な問題に加え、家族の問題までが学生を取り囲み、学生のみで解決できる問題ばかりでなく、保護者を交えて、それに対する支援や対応のあり方について考えなければならない状況になってきている。

このような状況の下で、ひとり一人に多方面から状況を把握し、学生に適切なアドバイスができ、これらを解決できる環境を創る必要があると考えている。

このような地道であっても真摯な態度や行動は学生にも周囲の社会に認められるもので、このことを通して、やはり「教育は人格と人格の触れ合いから生まれる活動である」と教職員全員で再認識し、今後の学生教育に取り組んでいかなければならない。

## 2 クラス担任制度

### (1) クラス担任制の現状

入学当初、物理的環境、人的環境など様々な周辺の変化に不安を抱え、それ以降の大学生活へのスムーズな移行に困難を伴う学生が年々増加する傾向にある。本学では、これらの学生に対応するためクラス担任制と入学前教育を取り入れている。クラス担任制では、1年生を30名程度の学級に編成し1名の担任を置いている。担任業務は、学生の把握と指導である。出席に関しても担任が出席状況を確認し、本人への指導と家庭への連絡協力の依頼等をしている。また、定期的に指導ができるように担任が担当する「入門ゼミ」を1年次に置き、1週間に一度は必ずクラス単位で集まり、授業の目的はもとより、担任と担当学生の情報交換や意志の疎通を図る機会を持った。定期的に会う機会を持つことは学生の把握に役だつとともに、学生の不安を取り除くことに役立った。クラス成員間の人間関係とともに学級担任との人間関係も構築でき、個に応じた指導体制の礎となった。

2年次においては「教職実践演習」および「保育実践演習」の担当者が担任としての業務に当たった。

## (2) 成果と課題（点検・評価）

初年次教育の重要性が叫ばれる中、本学でも「入門ゼミ」の導入や学生個々のファイル管理などを取り入れ、個に応じた学生対応に取り組んでいる。その中心にあり欠かせない制度がクラス担任制であり、その効果を発揮している。学生は何かしらの不安を抱えた時、担任制を置かないと誰に相談して良いのかがわからず、更に不安を大きくすることがある。その点、担任制を置くことにより、大学内では、常に担任が傍にいてサポートしてくれるという、安心感を持つことができる。また、個を把握するために定期的な個人面談も取り入れており（1年生）、きめ細やかな指導に役立っている。学生に問題が生じた場合などには、クラス担任やゼミ担当教員は学年主任や学生部長、教務部長、学生相談室相談員そして学長との話し合いを持つと共に、教授会において学生の動向が報告され、共通理解のもとに学生に適切な指導が行われている。学生個々のファイルは、教職員が必要のある時は自由に閲覧することが出来、情報共有に大きな力を発揮している。学生の抱える問題も多様化し、それに対する支援や対応のあり方をさらに組織的に行うための検討を継続する必要がある。

## 3 学外における研修

### (1) 実施概要

平成23年度の学外オリエンテーションは、東日本大震災のため、当初予定していた国立女性教育会館に宿泊の学外研修が実施できなかった。そのため、時期を変え、東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートと東京ディズニーリゾートで実施した。当日は以下のプログラムに従って実施され、学生125名と教職員10名が参加した。

東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートでは実際に東京ディズニーリゾートで働いているキャスト（スタッフ）が講師となり、ゲスト（お客）に接する際に心がけている「ホスピタリティ」について学んだ。午後のワークショップでは、それぞれディズニーランドとディズニーシーのどちらか希望するグループに分かれて、講義で学んだホスピタリティの精神に基づいて、実際にキャストがどのようにゲストと接しているか、また施設がどのように作られているかを体験しながら学んだ。

#### ○ こども学科学外研修プログラム

平成23年7月4日（月）	
時間	内容
10:45	集合 東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾート
11:00	ホスピタリティ研修

13:00	昼食
14:00	ワークショップ
18:00	解散

## (2) 成果と課題（点検・評価）

新入生が新しい友達関係を構築していくにあたり、例年行っている入学式直前の宿泊による学外研修を行うことの意義は大きい。今年度は東日本大震災の影響で宿泊の学外研修を実施できなかったことは、そうした貴重な機会を持たずに残念であった。しかし、東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートでのホスピタリティを学ぶ研修は、実習や就職にも多いに役立つ内容であり、学生にとって有意義であった。

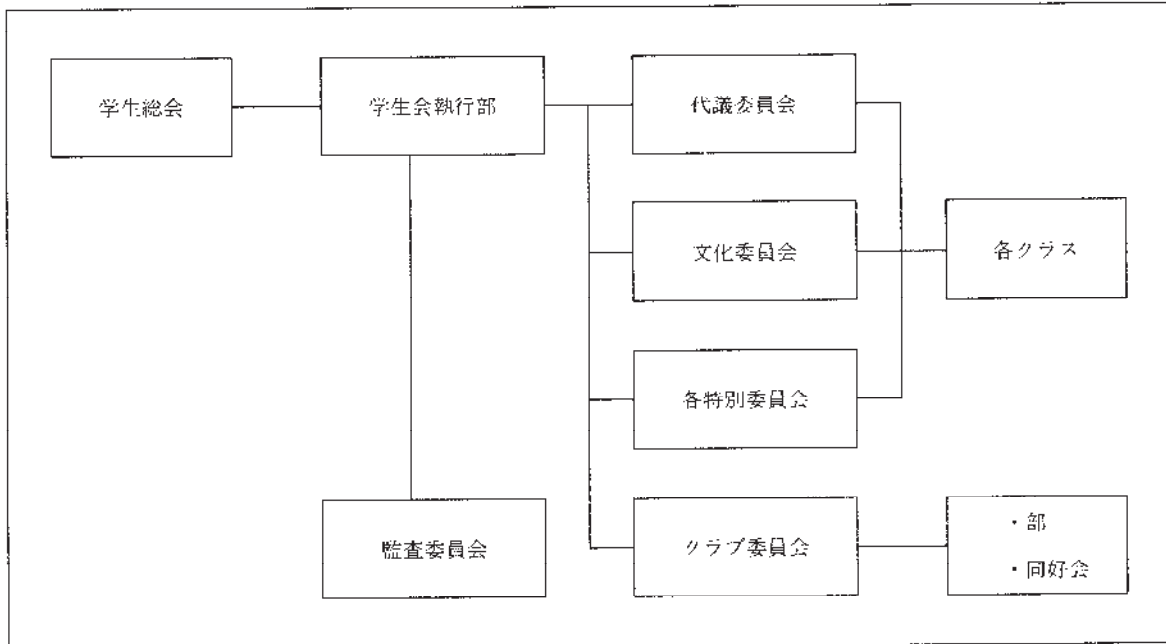
今後は、入学直前の宿泊研修と東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートでの研修を上手く組み合わせていくことを検討したい。

## 4 課外活動

### (1) 学生会

本学の学生会は、本学の教育精神を旨とし、学生生活の向上と充実をはかるために組織された自治組織であり、全学生が会員として加入する。また学生会執行部は、会長 1 名・副会長 2 名以内・書記 2 名・代議委員長 1 名・文化委員長 1 名・クラブ委員長 1 名・各特別委員長 1 名から構成されている。学生部長（学生委員会委員長の教員）・学生委員会委員（教員）・事務局の学生事務担当者等から指導・助言を受けながら、執行部を中心に主催行事等の企画・運営を行っている。

## ○ 学生会組織

**(2) 学生会主催行事****① 学生会オリエンテーション**

学生会では、年度当初に行われるオリエンテーション期間の最終日に、学生会執行部が中心となり新入生を対象にした学生会オリエンテーションを実施しており、内容としては、学生会組織の説明、スポーツ大会や純真祭の説明、部・同好会活動の紹介などを行っていた。とくに、平成22年度から純真祭の開催が4月となったため、純真祭の今後の取り組み等について会長・副会長・文化委員長が中心となって説明を行う予定であったが、東日本大震災の発生により、オリエンテーションの内容変更に伴い、純真祭を中止することなどを伝えるにとどまった。

大学生生活のイメージがまだ漠然としている新入生にとって、こうした新2年生が中心となって企画・実施されたオリエンテーションが行われることは、本学の学風に親しみを持ち、これからの学生生活に期待を抱かせるきっかけを得る機会になっている。また、新2年生にとっては最終年度における意識の高まりと責任感を促す機会にもなる行事であり、今後も継続して行きたいと考える。

**② 純真祭**

純真祭は、学生会執行部、各クラスから選出された文化委員が中心となり企画・運営されている。特に地域に根ざした大学を掲げる本学にとっては、大学のみならず地域との協力を得ながら行われる、学生会主催行事の中でも最も規模の大きい行事である。学生委員会の教員が学生会執行部の活動をサポートしているが、あくまで学生主体で企画・運営が行われている。

また、本年度は震災の影響により 4 月開催を一度は中止決定したが、学生の希望もあり急遽 10 月開催とした。そのため、9 月にテーマの再検討、企画案の策定を行ったことで、学生にとっては、毎日の授業に加え、実習と純真祭の準備に追われ多忙を極めた。学生会執行部や教職員の助言、支援を得ながら準備を進め、1 日限りの純真祭を開催し、学生一人ひとりが純真祭と関わりを持ち、達成感を得られる行事となった。

### ③ スポーツ大会

スポーツ大会は、スポーツを通してクラスの結束を強めるのみならず、学生と教員の交流を深めることも目的として実施されている。学生会執行部、各クラブの部長や代表者、各クラスから選出された特別委員（スポーツ大会委員）が企画・運営にあたり、11 月に行われた。

2 年生にとってはクラス全体で参加する最後の学校行事であり、学生生活の良き思い出を作る機会となった。また 1 年生にとっては純真祭で仲良くなったクラスメイトとの絆を一層深めることができる機会となっている。今年のスポーツ大会では、クラス発表を取り入れ、クラスメイトと協力しながら競技に参加するだけでなく、クラスメイトや担当教員と協力して大会を盛り上げることを体験するという、保育者を目指す本学の学生にとっての貴重な体験となっている。

#### ○ 学生会主催行事及び学生会執行部が参加した行事一覧

月	行事名
4 月	入学式・新入生オリエンテーション・在校生オリエンテーション・健康診断
4 月～9 月	オープンキャンパス
7 月	学位授与式およびパーティー
10 月	純真祭
11 月	スポーツ大会
1 月	表現発表会
3 月	卒業式・卒業記念パーティー

### (3) クラブ活動

本学の部活動は学生主体の自主的な課外活動であり、一覧にあるようにスポーツ系、文化系、福祉系とその活動は多彩である。各部の活動を円滑に行うため、各部の部長や代表者がクラブ委員会を組織し、学生会執行部と連携しながら、適宜、クラブ委員会の会議を開いている。クラブ委員会では、学生会予算の中から各部に配分される予算の作成や決算の報告を行っている。

また、スポーツ系の部の中には毎年 8 月に開催される全国私立短期大学体育大会に参加し、普段の練習の成果を発揮すると共に、他大学との交流を図っている。

特に今年度は、バレーボール部が B ブロックで準優勝を果たし、素晴らしい成果を収め

ている。

○ 部・同好会一覧

分類	クラブ・同好会名
スポーツ系 (6)	バレーボール・バスケットボール・フットサル・バドミントン・フィットネス・テニス
文化系 (3)	Music Lovers・軽音楽・茶道
福祉系 (2)	スマイル・国際福祉研究会

#### (4) ボランティア活動

本学は地域における各種活動を重視しており、学生のボランティア活動も活発に行われている。ボランティア担当の事務は、専任の職員により一元管理されており、外部からのボランティア要請を受付、学生への周知のための掲示及び諸連絡を行っている。

また、授業科目の中に「ボランティア概論」「ボランティア実習」の2科目があり、多くの学生が履修している。ボランティアを行う学生には、「ボランティア参加願」及び「ボランティア活動の記録」の提出を義務付けており、これらは「ボランティア実習」科目の評価に活用され、あわせてボランティア保険の適用にも活用されている。

平成23年度に実施された主なボランティア活動は、以下の通りである。

- \* 東日本大震災募金活動                      羽生市青年会議所
- \* キャッセ公園まつり                        羽生市三田ヶ谷運動公園
- \* むじなもん学寮 in 川俣                    羽生市川俣公民館
- \* 「お姉さんと学ぼう」                      羽生市教育委員会学校教育課
- \* 母と子のふれあい広場                      羽生市母子愛育会
- \* ゆるキャラサミット in 羽生               羽生市商工観光課
- \* スマイル幼稚園                              埼玉県立羽生水族館
- \* 保育ボランティア                            各地の保育園、幼稚園

#### (5) 研修活動

##### ① リーダー研修

2年生および1年生の学生会役員で研修会を開催した。概要および日程は以下のとおりである。

○ リーダー研修の概要

期日：平成23年2月8日～9日（2日間）
場所：210
参加者：学生会1、2年生メンバー
目的：平成23年度スポーツ大会および純真祭についての話し合い



IV 学生生活

○ リーダー研修日程

平成 22 年 2 月 8 日 (水)		平成 22 年 2 月 9 日 (木)	
時 間	内 容	時 間	内 容
9:30	開式 学生部長挨拶、学生会メンバー自己紹介	9:30	開会、日程確認
10:00	スポーツ大会での役割分担 昼食	10:00	1 日目に話し合った内容の確認 2 日目の話し合う内容の確認
13:30	スポーツ大会のテーマ決め	10:30	作業チームごとの話し合い
14:00	各作業チームワーク	12:00	昼食
16:00	報告会、2 日目の作業内容の確認	13:00	セクションごとの話し合い 作業チームごとの話し合い
17:00	解散	15:00	全体での話し合い 報告会、意見交換、今後の予定の確認 (純真祭・オープンキャンパスサポート・学外研修プレゼン・卒業式およびバーティーカーのサポートについて)
		17:00	解散

(6) 成果と課題 (点検・評価)

平成 23 年度は、これまでの本学の取り組みの良い点を引き継ぎ、学校行事やクラブ・同好会活動等、学生主体の活動に対して教職員が助言や指導を行うという形をとり、大学全体で支援する体制で行われた。

とりわけ本年度は、純真祭が従来の 11 月開催から 4 月開催へと変更になった 2 年目であったが、東日本大震災のため、4 月開催を中止した。3 月に開催することができなかった卒業式を「学位授与式」として 7 月に開催、10 月に「第 29 回純真祭」を 1 日限りで開催するなど、年間行事予定の変更を行いながらの 1 年であった。これらのことは、学生にとっては手探りの中での企画・立案・準備となった部分もあり、思った通りに準備が進まず苦労した点も少なくなかった。しかしながら、学生会執行部が中心となり、学生全員の参画により純真祭を成功裏に実施できたことは、貴重な経験になったであろう。そうした経験は、11 月のスポーツ大会の運営にも反映され、純真祭・スポーツ大会ともクラスにとって思い出深い行事となった。

一方で、実習と春休みの合間を縫い、短期間で純真祭の準備を行うことは学生にとっても教職員にとっても少なからぬ負担となった。これらの反省を基に、次年度は、4 月に新入生歓迎の意味を持たせた「スポーツ大会」、10 月以降の秋に「純真祭」を開催するなど、具体的な時期を挙げての再検討をして行くこととした。

## 5 学生生活への配慮・支援

### (1) 奨学金

本学では、学生の経済的支援として毎年4月に行われるオリエンテーションにおいて、日本学生支援機構の奨学金申込み・利用説明会を行っている。そのほか、希望者には「あしなが育英会奨学金」ならびに「交通遺児育英奨学金」を紹介している。また平成21年度には「福田南記念育英学生」を新たに創設し、経済的な理由で修学困難な学生への支援制度を充実させた。本学で利用できる奨学金等の概要は以下のとおりである。

#### ○ 奨学金等一覧

名称	概要
福田南記念育英学生	埼玉純真短期大学初代学長福田南氏を記念して、子女の教育活動を経済的側面から援助し本学がめざす有為な人材育成を図ることを目的とし、入学金を除く納入金の減免を行う制度である。
日本学生支援機構奨学金	経済的な理由により就学困難な学生に対し、奨学金の貸与を行っている。学生の多様なニーズに合わせ、奨学金制度の充実や申請手続きの改善、また、奨学金に関する情報提供が行われている奨学金である。
あしなが育英会奨学金	1967年、あしなが育英会の「遺児と共に歩む」運動が始まり、保護者等が病気や災害により死亡した学生や、後遺症のために働けなくなってしまった家族を対象にした奨学金である。
交通遺児育英奨学金	自動車等の交通機関による事故で死亡、または後遺症のため働くことができなくなってしまった保護者等に変更、経済的援助する奨学金である。

### (2) 健康管理

身体の健康は、充実した学生生活を可能にする基礎であり、また学習を行う土台である。本学では学生の健康管理ならびに健康維持のために次のような措置をとっている。

#### ① 保健室

学内の保健衛生と救急措置を目的として保健室を設置しているが、急に身体の変調をきたしたときや負傷の場合には、事務室に申し出て同室を利用するなどの処置を受けさせるよう努めている。

#### ② 定期健康診断

毎年1回4月に学生の定期健康診断を実施している。検査項目は、身体測定・内科検診・

胸部レントゲン撮影である。そしてこの健康診断の結果、要注意または要治療の者については、できるだけ速やかにその旨を本人または保護者に通知している。

飲酒・喫煙については、本学の学生の多くは未成年であることから、法を遵守することを理解させるだけでなく、年度当初のガイダンスにおいて、健康に及ぼす影響を説き、学業に専念できる健全な生活の維持への理解を得るように努めている。特に学生の喫煙については、保育者・教育者として児童と係わることを念頭に、学生の健康と他への迷惑を考慮し、禁じている。

### (3) 保険制度

本学では、学内外で行われる授業及び実習中、学内におけるクラブ活動や学生の自主的活動中、登下校等において、学生が不慮の事故によって傷害を負った時に補償される「学生教育研究災害傷害保険」に全員加入している。入学と同時に加入することから、学内では学生事務担当者が保険について管理している。

### (4) 学生専用アパート

本学の学生の多くは埼玉県及び隣接県からの自宅通学生であるが、遠隔地からの入学生や家庭の事情により自宅外通学を希望する学生のために、民間委託の形態で学生専用アパートを設けている。

また、これらのアパート等に居住する学生のために、年 2 回、教職員も参加する「自宅外通学生懇親会」を開催している。懇親会は、学生同士の親睦をはかることを第一の目的とし、1 人暮らしの悩みや苦労をお互いに話したり、先輩の体験談やアドバイスが聞ける機会となっており、1 人暮らしの不安を解消し今後の充実した学生生活の一助となっている。

なお、学生委員会の教員及び学生事務担当者は、月 1 回程度、学生を集めて生活指導や相談にのるよう努めている。

### (5) 通学の状況

本学の学生の居住地・出身地は、埼玉県下を中心に、栃木県、群馬県、茨城県などの近隣諸県から東北・信越の諸県に及んでいる。近隣諸県の自宅などから通学している多くの学生は、羽生駅まで J R 高崎線・宇都宮線や東武伊勢崎線、秩父鉄道秩父線などを利用し、羽生駅からは徒歩や自転車で通学している。遠隔地出身で上記アパートなどに居住している学生や羽生市内に居住する学生は、徒歩や自転車で通学している。

通学に際して自転車を利用する場合には、羽生駅と学内の所定の駐輪場を利用し、学生本人が責任をもって管理することになっている。原動機付自転車もこれに準ずるが、自動二輪車（オートバイ）については、人命に係わる事故の危険度が高いので、通学の手段と

しては禁止している。自動車通学に関しては、「学内自動車駐車場利用規程」を設けて学内駐車場の利用を認めている。

○ 駐輪場および駐車場の利用状況一覧

(単位:人)

自転車駐輪場	30
自動車駐車場	60

## (6) 学生相談室

学生相談室及び学生カフェは、学生生活上の悩みに直面する学生に対し、カウンセリングを中心とした専門的支援を行うことを通して、学生の成長を支えるために設置されている。本学の学生相談室では、心理・性格、心身の健康を始めとするさまざまな相談に応じているが、学生のプライバシーを守りながら、一人ひとりを尊重し個性を伸ばし可能性を探す手伝いを心がけている。本年度の概況は以下のとおりである。

○ 学生相談室の概況

相談員：稲垣 馨（専任講師）

相談場所：学生相談室及び学生カフェ

相談日時：月曜日から金曜日までの間、相談員の在室時間帯に相談活動を行っている。学生カフェは昼休みのみ。

相談体制：個人面接およびグループ面接。必要に応じて、保護者・学内教職員・医療機関との連携を取っている。

主訴別来談者実数：本年度の来談者実数は145名で、学生カフェの利用が75名、学生相談の利用が70名であった。

主訴内容は次のとおりであった。（括弧内は相談者数）

心理・性格 (82)・心身の健康 (10)・人間関係（家族・友人・教員・その他）(48)・履修・勉学・就職 (5)

相談内容では、心理・性格についての相談（自分の適性、これからの生き方など）と人間関係についての相談（クラスやクラブでの友人関係や家族との関係）が全体の9割を占めた。また本年度は昨年度と比較すると、相談件数が1割減となったが、これは昼休みに学生カフェを利用するケースが減ったことが主な理由である。相談員としては担当の授業時間も含めて、青年期の成長・発達に有用な心理教育を行うことで、学生のその時々ニーズに応じた対応（発達支援）を心がけた。

## (7) 成果と課題（点検・評価）

遠方から本学に入学した学生はもちろん、自宅から通う学生であっても友人関係や学習など様々な悩みや問題を抱えるケースが少なくない。そのため学生相談室でのカウンセリングを利用したり、担任やゼミ担当に相談をする学生が増えている。特に学生専用アパートで暮らす学生に対しては月1回程度巡視を行うとともに、半期に一度、自宅外懇親会を開き、一人暮らしにおける不安の解消に努めている。個々の学生ニーズに適切に応えられるよう、教員間の情報交換や情報共有を行うとともに、教職員が一体となって支援できる体制をより一層固めることが今後必要であろう。

## V 就職と進学

### 1 進路支援

#### (1) 就職指導

##### ① 進路支援委員会の基本方針

専任教員と職員が連携しながら学生の就職・進学の指導ならびに支援を行っている。具体的には、原則として毎月1回開催しているキャリアガイダンスをはじめ、個別の進路相談や履歴書の作成の指導、模擬面接、礼状の作成の指導など、学生一人ひとりのニーズに対応した指導及び支援を行った。

指導の際には、学生の希望に加え、個性や求人先の特性とのマッチングを考慮しながら指導を行った。本学の場合は、幼稚園実習・保育所実習先に就職するケースやこれまで実習生を受け入れてもらっている幼稚園・保育園から求人を頂くなど、就職と実習との関わりが深い。また、卒業生の就業状況も求人に与える影響が少なくないため、各実習指導担当との連携を密にし、求人先との関係を大切にしながら学生指導にあたった。

##### ② 平成23年度年間就職指導計画

○ 平成23年度就職指導年間計画一覧（平成23年度卒業生対象）

開催日	内容
平成23年4月15日	進路登録票記入、履歴書の下書きの返却・指導、各担当教員の紹介
4月29日	卒業生による職場説明会
5月13日	各領域別指導、履歴書の再提出について
6月17日	履歴書の作成について、群私保・群私保・栃幼連・公務員試験について、
6月24日	各領域別指導、チューターズルームの使用について
7月22日	実習中における試験や内定連絡の対応について
9月30日	後期キャリアガイダンスについて、園見学について、内定決定後の対応について
10月7日	内定決定後の対応について、各領域別個別指導
10月14日	各領域別個別指導
12月9日	冬休みの過ごし方について、就職圏でのボランティア等について
平成24年1月13日	卒業生による職場説明会
2月3日	就職先での研修について、卒業までの過ごし方について
随時	履歴書作成指導、就職活動（連絡・見学等）相談、進学相談、模擬面接等

## V 就職と進学

### ○ 平成 23 年度就職指導年間計画一覧（平成 24 年度卒業予定者対象）

期 日	ガイダンス内容
平成 23 年 12 月 8 日	履歴書の下書きの作成について、今後の取り組みについて
平成 24 年 1 月 13 日	卒業生による職場説明会

### ③ 就職指導内容

2 年生に対しては、4 月に行われた第 1 回キャリアガイダンスにおいて、就職登録斡旋カードにその時点での進路希望を記入させた。就職登録斡旋カードは進路支援担当事務職員が管理し、学生一人ひとりのニーズに応じた指導を行うために適宜活用した。キャリアガイダンスでは、就職活動の心構え・マナー、公務員等試験対策、履歴書作成、内定後の過ごし方などを指導した。また、日常的な支援としては、求人票の送付依頼、求人先の開拓、求人票や情報の収集整理、相談に訪れた学生に対する個別の指導・対応を行った。特に、各職種・領域については、進路支援委員の専門性に応じて、公立幼稚園・保育所受験、教員採用試験受験、私立幼稚園・保育園希望、施設職員希望等、各領域の指導を担当する教員を決め、全体指導ならびに個別指導を行った。

### ④ 就職関連諸会合への参加

平成 23 年度も各地で行われる就職関係の情報交換会や連絡調整会等に、進路支援担当事務職員をはじめ、専任教員が参加した。こうした諸会合に参加することで、埼玉県をはじめ隣接県の幼稚園・保育所の採用時期や試験方式のみならず、求められる人間像や専門的な技術・知識を把握し、それを学生指導に活かすことで、現場の求める人材育成が出来るている。

また統一試験や就職説明会を設けている地域の就職活動については、日程等を出来るだけ早く学生に知らせることで、学生は実習等の予定を考えながら余裕を持って準備を行うことができる。そのためには常に近隣県の情報収集をすることを今後も続けていきたい。

## (2) 平成 23 年度就職状況

### ① 就職決定状況

#### ○ 平成 23 年度卒業生進路一覧 （平成 24 年 3 月 31 日現在・単位：人）

		こども学科		合計
		乳幼児保育コース	こども学コース	
学生数		79	8	87
就職希望者数		76	8	84
就職先	小学校	-	6	6
	幼稚園	28	0	28

V 就職と進学

	保育園	43	—	43
	その他の施設	3	1	4
	図書館	0	0	0
	企業	1	0	1
	未決定者	0	0	0
	進学者希望	3	0	3
	その他	1	1	2

② 就職先等内訳及び就職内定先一覧

	就職内定先			
小学校	さいたま市立大砂土東小学校、羽生市立北小学校、行田市立桜ヶ丘小学校、さいたま市立上落合小学校 鶴ヶ島市立栄小学校、坂戸市立坂戸小学校			
幼稚園	楠エンゼル幼稚園 うさぎ幼稚園 原市文化幼稚園 草加氷川幼稚園 春山幼稚園 ひかり幼稚園 戸ヶ崎幼稚園	幸手さくら幼稚園 まつざわ幼稚園 みよし第二幼稚園 まこと幼稚園 えのき幼稚園 大平みなみ幼稚園 鴻巣幼稚園	増子幼稚園 矢場川幼稚園 境杉の子幼稚園 松原幼稚園 せんだん幼稚園 やなぎ幼稚園	しらさぎ幼稚園 今町天使幼稚園 せいほう幼稚園 文化幼稚園 幸手ひまわり幼稚園 騎西中央幼稚園
保育所	そらいろ保育園 大井保育園 戸川保育園 こばと保育園 葛西第二おひさま保育園 みよし保育園 スダナ保育園 ホガナ保育園 風の森保育園 新里保育園	あさひ保育園 紅花保育園 古河保育園 しらこばと保育園 エンゼル保育園 あゆみ保育園 白鳩保育園 加須保育園 みつまた保育園 たま保育園	若葉保育園 まごやま保育園 牛沢保育園 羽生市第一保育所 星の子幼児園 たんぼぼ保育園 ひがしのもり保育園 花園第二保育園 奈良保育園	こばと保育園 三愛保育園 あいう園浦和美園駅前 保育園 そうか草花保育園 城の星保育園 みどりのこ保育園 双葉保育園 ピノ保育園 名崎保育園
施設等	千葉リハビリテーション センター	ひまわり	希望の家	理光

### (3) 成果と課題（点検・評価）

平成 23 年度卒業の学生においては、キャリアガイダンスでの全体指導に加え、一人ひとりの希望に応じた個別の指導を繰り返し行い、就職希望者のほぼ全員が正規職で就職することができた。特に幼稚園・保育所希望の学生については、全員が就職することができた。そうした成果の要因としては、キャリアガイダンスへの参加状況や進路支援室への来訪状況を把握しながら、進路支援委員会と各ゼミ担当の教員が情報を共有し連携を取りながら支援を行ったことが大きいと思われる。

中には、希望する就職先から求人をやきもきして待っていたり、何度も就職試験を受けることになった学生が数名いたが、励ましながら学生の気持ちに寄り添った指導を行うことで、最終的には就職をすることができた。

一方で学生の中には実習が思うようにいかなかったために、幼稚園・保育所への就職に対して必要以上に不安になってしまった学生がいたので、今後より一層、進路支援委員会と実習委員会とゼミ担当の教員の三者が情報共有ならびに連携を取っていく必要がある。

## 2 進学

### (1) 編入学

平成 23 年度も本学を卒業後、4 年制大学に編入学を希望する学生がいた。4 年制大学への編入学を希望する学生に対しては、本学で取得できる免許状（小学校教諭・幼稚園教諭）や資格（保育士）、編入先でどのように単位が認定されるかによって何年次に編入が可能かが決まるので、それらを考えながら編入学先を選ぶように指導した。こうした学生には、進路支援委員会及び進路支援担当事務職員が個別に指導している。

（平成 24 年 3 月 31 日現在・単位：人）

編入学	十文字女子大学児童幼児教育学科幼児教育専攻	1
-----	-----------------------	---

### (2) その他の進学

他分野への進学を考えている学生に対しては、卒業後の就職先も見据えて進学先を選ぶように指導した。そうした学生についても、進路支援委員会及び進路支援担当事務職員が個別に対応している。

（平成 24 年 3 月 31 日現在・単位：人）

進学	植草学園短期大学福祉専攻科	1
進学	大原簿記専門学校	1



### (3) 成果と課題（点検・評価）

学生は本学で学んだ専門知識をより深めたり、新しい分野に対する知的好奇心から編入学や進学を希望している。4年制大学は学ぶ内容に加え、大学の雰囲気も本学と大きく違うことも少なくないため、学生の目的意識を明確にさせるとともに、自分に合った大学に編入学できるよう支援することが重要であると考え。その点においては、今年度は達成できたと考えている。

また、近年は保育・幼児教育とは全く違う分野への進学を考える学生が出てきているので、今後も学生の希望をよく聞きながら、将来を見据えた進路相談のあり方を一層工夫していきたい。

## 3 卒業生への支援

本学では例年、前年度の卒業生に対し「ホームカミングデー」を開催している。今年度は、東日本大震災のため平成22年度の卒業式が開催できなかった代わりに、7月30日に卒業証書授与式を行った。その卒業証書授与式の後のパーティーを今年度の「ホームカミングデー」を兼ねることとした。例年とは違った形になったが、就職後の様子や悩みを聞く機会となり、学生と教職員ともに大変有意義な機会となった。

## VI 教員の研究活動及び社会的活動

### 1 研究活動

#### (1) 研究活動の概要

本学教員は、日々の講義や実習指導等の教育活動やそれに伴うさまざまな校務に従事する一方で、それぞれの専門分野の領域の研究活動、講演、制作活動においても意欲的に取り組んでいる。「埼玉純真短期大学研究論文集」をはじめ、その他の雑誌、著作や講演、制作等の形で発表された本年度の教員の成果の一端は以下の通りである。

#### (2) 専任教員の研究業績

○ 研究業績一覧

専任教員名	研究業績
安倍 大輔	<p>【執筆】 「親子であそびたい…遊びは子どもの生活・文化」草土文化『子どものしあわせ』8月号、47-51頁（平成23年8月）</p> <p>【研究発表】 「オーストラリアにおけるスポーツ政策の転換」第21回日本体育・スポーツ政策学会（平成23年12月）</p>
伊藤 道雄	<p>【執筆】 特別支援教育研究会60周年記念誌（平成23年7月）分担執筆 「知的障害教育における教科別の指導」「よい特別支援学級と特別支援学級でのよい授業」</p>
稲垣 馨	<p>【執筆】 「心とからだを育む子どもの保健1」第8章3節（89-92頁） 保育出版社 平成24年3月 「理論と子どもの心をつなぐ保育の心理学」第2章7節（47-50頁） 第9章4節（153-156頁） 保育出版社 平成24年3月</p> <p>【研究発表】 「治療構造として、情動交流のあいだにあるカウチ」日本精神分析学会 第57回大会（平成23年11月）</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

入江 良英	<p>【執筆】</p> <p>「Die eche Postmoderne (本当のポスト・モダン)」ペーテル出版 平成 23 年 8 月 共著</p> <p>「新しい能力」(保育上のコンピテンシー)とは何か」埼玉純真短期大学研究論文集 第 5 号」平成 23 年 3 月</p> <p>【研究発表】</p> <p>「ペーテルの障害児保育」全国保育士養成協議会 第 50 回研究大会 (平成 23 年 9 月)</p>
牛込 彰彦	<p>【研究発表】</p> <p>「保育所実習における自己評価と実習評価の関係」全国保育士養成協議会 第 50 回研究大会 (平成 23 年 9 月)</p>
小澤 和恵	<p>【演奏活動】</p> <p>「サロンコンサート」企画・出演</p> <p>ピアノ独奏：ドビッシ作曲『版画』より「塔」他</p>
関根 久美	<p>【研究発表】</p> <p>「保育者養成における実習指導のあり方についてー児童文化財実践に着目してー」日本保育学会第 64 回大会 (平成 23 年 5 月)</p>
藤田 利久	<p>【パネル座談会】</p> <p>「実践的な秘書ビジネス実務教育を目指してーヒューマンスキルを支えるマインドの教育ー」秘書サービス接遇教育学会 (平成 23 年 8 月)</p>

(3) 専任教員の所属学会

○ 所属学会一覧 平成 23 年度の教員調書で確認

氏名	所属学会
安倍 大輔	日本体育学会・日本スポーツ社会学会・日本福祉文化学会・日本子ども社会学会 日本体育・スポーツ政策学会
阿部 峰雄	日本図書館研究会
伊藤 道雄	日本 LD 学会
稲垣 馨	日本心理臨床学会・日本精神分析学会・日本保育学会
入江 良英	日本教育社会学会・アメリカ教育学会・日本社会史学会・日本社会理論学会・日本発達障害学会 など
牛込 彰彦	日本神経科学会・日本生理学会・日本薬学会・日本赤ちゃん学会
小澤 和恵	全国大学音楽教育学会・日本音楽療法学会・日本ダルクローズ音楽教育学会
関根 久美	日本保育学会
高橋 努	日本社会福祉学会・日本高齢者虐待防止学会・立正社会福祉学会 (評議員)

VI 教員の研究活動及び社会的活動

藤田 利久	National Business Education Association・日本環境教育学会・日本秘書教育学会・秘書サービス接遇教育学会・日本キャリアデザイン学会・日本秘書サービス教育学会
細田 香織	日本国語教育学会・人文科教育学会・筑波大学 日本語日本文学会
安村 由希子	日本LD学会・日本コミュニケーション障害学会・日本発達障害支援システム学会

## 2 社会的活動

短期大学教員の職務の第一は、学内における教育および研究であるが、その他にそれぞれの専門を活かして、学外の地域社会においてさまざまな形で貢献することもその職務のひとつである。本学においても、多くの教員がそれぞれの専門領域において、地域社会に講師・助言者等として貢献している。本年度の実施状況および各種団体の所属の一端は以下の通りである。

### (1) 講師・助言者等の実施状況

○ 講師等実施状況一覧

氏名	活動
安倍 大輔	<p>「ボールを使ったゲーム・レクリエーション」講師 そよかぜ保育室 平成23年6月</p> <p>「親子レクリエーション」講師 親子ふれあいスポーツ教室 羽生市立新郷第2小学校 平成23年6月</p> <p>「レクリエーションを担当する授業実践の立場から」話題提供者 日本レクリエーション協会関東甲信越研修会 平成23年8月</p> <p>「キャリアデザイン研修会」レクリエーションプログラム担当 埼玉県短期大学協会 平成23年9月</p> <p>「手作りおもちゃで遊ぼう」埼玉純真短期大学 公開講座 平成23年8月</p> <p>「子どもが楽しめる遊び」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成24年1月</p>
伊藤 道雄	<p>&lt;講演講師&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年5月12日 さいたま市立植竹小学校学習支援ボランティア講演会「我が誇り植竹小学校」植竹小学校</li> <li>・平成23年6月25日 埼玉県立騎西特別支援学校ボランティア養成講座講演会「発達障害児の理解と支援～人の絆を大切に～」騎西特別支援学校</li> <li>・平成23年7月6日 行田市小・中学校校長会研修会講演会「今こそ、特別支援教育の推進を」行田市産業文化会館</li> <li>・平成23年7月12日 さいたま市小学校校長会研修会講演会</li> </ul>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

<p>「特別支援教育を推進する学校経営」さいたま市宇宙科学館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年 7 月 23 日 埼玉県立行田特別支援学校ボランティア養成講座講演会「障がいって何だろう」行田特別支援学校</li> <li>・平成 23 年 7 月 25 日 羽生市教育研究会全体研修講演会 「特別支援教育からの発信」羽生市産業文化会館</li> <li>・平成 23 年 7 月 26 日 さいたま市立日進小学校校内研修会 「特別支援教育からの発信！さいたま市立日進小学校</li> <li>・平成 23 年 7 月 29 日 埼玉県立羽生ふじ高等学園校内研修会 「障がいの特性を踏まえて」羽生ふじ高等学園</li> <li>・平成 23 年 8 月 12 日 さいたま市特別支援学級担当教員研修会 「生活単元学習の在り方」さいたま市職員研修センター</li> <li>・平成 23 年 8 月 19 日 加須市立北川辺中学校校内研修会 「発達障害児の理解と指導」加須市立北川辺中学校</li> <li>・平成 23 年 8 月 25 日 さいたま市立馬宮東小学校校内研修会 「発達障害児の理解と支援」さいたま市立馬宮東小学校</li> <li>・平成 23 年 8 月 30 日 加須市立三俣小学校校内研修会 「発達障害児の理解と支援」加須市立三俣小学校</li> <li>・平成 23 年 9 月 29 日 羽生市就学指導調査専門員研修会 「専門員としての心得」羽生市役所</li> <li>・平成 23 年 11 月 11 日 和光特別支援学校授業：総合的な学習の時間・進路学習： 高等部 1・2 年生徒 4 名 2 時間「私の誇り和光特別支援学校」「大切な生命を輝か せて」埼玉県立和光特別支援学校</li> <li>・平成 23 年 11 月 17 日 さいたま市立植竹小学校学習支援ボランティア講演会「改 めて発達障害児を理解する」植竹小学校</li> <li>・平成 24 年 1 月 10 日 寄居町教育委員会特別支援教育コーディネーター研修会 講演「発達障害児の理解と支援」寄居町庁舎</li> <li>・平成 24 年 3 月 4 日 NPO 法人 Lights 実践講座講演 「教育機関との連携」埼玉福祉専門学校</li> </ul> <p>&lt;助言者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年 8 月 5 日 埼玉県特別支援教育研究会夏期研究協議会 「高等学校教育」分科会 文教大学</li> <li>・平成 23 年 12 月 2 日 第 28 回日本教育大学協会全国特別支援教育研究集会埼玉 大会・埼玉大学附属特別支援学校第 41 回研究協議会 「中学部」分科会 埼玉大学附属特別支援学校</li> <li>・平成 24 年 1 月 26 日北埼玉特別支援教育研究協議会 行田市地域文化センター</li> <li>・羽生市教育委員会平成の田舎教師授業研究会 (羽生市立新郷第一小学校) 第一回授業研究会 平成 23 年 7 月 7 日</li> </ul>
--

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>第二回授業研究会 平成 23 年 10 月 19 日</p> <p>第三回授業研究会 平成 24 年 2 月 21 日</p> <p>・公開講座「障害のある人の生き方に学ぶ」平成 23 年 8 月 27 日（土）</p> <p>・プレカレッジ「子どもの困り感に寄りそう」平成 24 年 2 月 4 日（土）</p>
稲垣 馨	<p>埼玉県教育委員会委託巡回相談員</p> <p>須影保育園おしゃべりタイム（子育て支援）</p> <p>ノーバディーズ・パーフェクト実施（子育て支援）</p> <p>「子育てお助け隊 其の壱」講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成 23 年 8 月</p> <p>「子育てお助け隊 其の弐」講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成 23 年 8 月</p> <p>「心理学入門」 埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成 24 年 3 月</p>
入江 良英	<p>「たった 6 時間でドイツ語の日常会話が身につく授業」「自己紹介」と文法 講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成 23 年 8 月</p> <p>「たった 6 時間でドイツ語の日常会話が身につく授業」「買い物」と文法 講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成 23 年 8 月</p> <p>「たった 6 時間でドイツ語の日常会話が身につく授業」「ホテルで」と文法 講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成 23 年 8 月</p> <p>「たった 6 時間でドイツ語の日常会話が身につく授業」「レストランで」と文法 講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成 23 年 8 月</p> <p>「たった 6 時間でドイツ語の日常会話が身につく授業」「友人との会話」と文法 講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成 23 年 8 月</p> <p>「たった 6 時間でドイツ語の日常会話が身につく授業」「家族との会話」と文法 講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成 23 年 8 月</p> <p>「保育原理入門」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成 24 年 2 月</p>
牛込 彰彦	<p>埼玉県教育委員会委託巡回相談員</p> <p>「文章の書き方基礎講座」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成 23 年 12 月</p> <p>「保育・教育実習基礎講座」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成 24 年 2 月</p> <p>「漢方薬ってなあに？」講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成 23 年 8 月</p> <p>「気球にのってどこまでも」講師 子ども大学はにゅう 平成 23 年 9 月</p>
小澤 和恵	<p>「子育てのママへ」講演 母と子のふれあい広場 羽生市母子愛育会 平成 23 年 10 月</p> <p>「母と子のふれあいコンサート」出演 母と子のふれあい広場 羽生市母子愛育会 平成 23 年 10 月</p> <p>「こどもの歌コンサート」企画・出演 キヤッセ羽生まつり 平成 23 年 10 月</p> <p>「ピアノドキドキ・ワクワク講座」埼玉純真短期大学オープンキャンパス</p> <p>「育てたい学生像」埼玉純真短期大学オープンキャンパス 保護者対象講座</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>「1曲弾ければあなたもピアニスト」埼玉純真短期大学 公開講座 平成23年8月</p> <p>「1曲弾ければあなたもピアニスト」埼玉純真短期大学 公開講座 平成23年8月</p> <p>「1曲弾ければあなたもピアニスト発表会」埼玉純真短期大学 公開講座 平成23年8月</p> <p>「ピアノレッスン」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成24年1月</p> <p>「ピアノレッスン」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成24年2月</p>
関根 久美	<p>「日常で使える折り紙講座」講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成23年8月</p> <p>「子どもと文化」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成24年3月</p>
高橋 努	<p>「発達障害について」講師 埼玉県立羽生高等学校 平成23年9月</p> <p>巡回教育相談 羽生市立新郷第一小学校 平成23年7月</p> <p>巡回教育相談 羽生市立西中学校 平成23年9月</p> <p>「自己紹介上手講座」講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成23年8月</p> <p>「相談援助」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成23年12月</p>
藤田 利久	<p>「保育者・教育者としての心得」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成24年1月</p> <p>「保育者・教育者としての心得」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成24年3月</p> <p>「建学の精神を理解する」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成24年3月</p>
細田 香織	<p>「子育てお助け隊 其の式」講師 埼玉純真短期大学 公開講座 平成23年8月</p> <p>「ノーマライゼーション・障害理解を伝える絵本の読み聞かせ」講師 茨城県立結城第二高等学校 平成23年9月</p> <p>「読み聞かせの楽しみ講座」須影保育園子育て支援センター 平成23年11月</p> <p>「文章の書き方基礎講座」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成23年12月</p> <p>「出前おはなし会」ゼミ生とともに参加 羽生市立図書館 平成24年1月</p> <p>「文章の書き方基礎講座」埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成24年3月</p> <p>「ノーバディーズパーフェクト」ファシリテーター 埼玉純真短期大学 平成24年3月</p>
安村 由希子	<p>「特別支援保育～こんな時どうする？～」 埼玉純真短期大学 プレカレッジ 平成24年3月</p>

(2) 専任教員の諸団体への所属状況

○ 諸団体への所属状況一覧

氏名	所属団体
安倍 大輔	日本子どもを守る会常任理事

## VI 教員の研究活動及び社会的活動

阿部 峰雄	日本図書館協会 羽生市図書館協議会 新潟県聖籠町図書館建設委員会
伊藤 道雄	埼玉県特別支援教育研究会 参与 日本生活中心教育研究会 会員 さいたま市立口進小学校 学校評議員 埼玉大学教育学部附属特別支援学校 学校評議員 埼玉県立特別支援学校就労支援総合推進事業就職支援アドバイザー 埼玉県特別支援教育巡回支援員 全日本特別支援教育研究連盟 個人会員 全日本特別支援教育研究連盟編雑誌「特別支援教育研究」編集委員 授業のユニバーサルデザイン研究会 会員
稲垣 馨	日本精神分析協会研修生・九州臨床心理士ネットワーク (KCPN) 会員
牛込 彰彦	NPO 法人脳の世紀推進会議会員・社会福祉法人「共愛会」第三者評価委員
小澤 和恵	羽生市女性会議会長・羽生市都市計画審議会委員
関根 久美	玉川大学保育実践研究会
高橋 努	特定非営利活動法人 埼玉チームケアさぼ〜と (理事)・立正大学社会福祉学部同窓会 (代議員)・日本社会福祉士会・日本社会福祉士会埼玉県支部・埼玉県介護支援専門員協会・介護福祉・教育・実践研究会
藤田 利久	羽生市子育て協議会・日本秘書協会・埼玉県私立短期大学協会・羽生市学びあい夢プロジェクト協議会

### (3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況

#### ○ 学外兼務状況一覧

氏名	学外兼務先
安倍 大輔	浦和大学総合福祉学部 非常勤講師, 立教女学院短期大学 非常勤講師
稲垣 馨	お茶の水女子大学 心理相談室相談員, お茶の水女子大学 リサーチアシスタント
入江 良英	東京学芸大学 非常勤講師
関根 久美	千葉敬愛短期大学 非常勤講師
高橋 努	学校法人服部学園服部栄養専門学校 非常勤講師, NHK 学園 非常勤講師

## 3 成果と課題 (点検・評価)

短期大学の教員は、教育活動はもとより研究活動も並行して行わなければならない。このため本学では教員は 1 年間に、著作・論文執筆・学会発表の内、最低 1 本を遂行義務と



している。これら教員の研究活動は、学生教育に還元できなければならないと考えている。この点から見ても本学教員の研究活動に関しては、それぞれの教員が専門分野で著作・論文執筆・講演活動等に意欲的に取り組んでおり、それを学生教育に還元しているといえる。

また、本学のような地域に根ざした短期大学の任務のひとつに地域社会への貢献が挙げられる。この点においても本学の教員は、学会活動はもとより地域社会における活動にも積極的に参加していることは評価に値する。

教員の研究を支える環境を考えた場合、本学が決して十分な環境を提供しているとはいえず、今後、外部からの研究費獲得を含めて研究費の充実や研究時間の確保などを課題と捉え、研究に適した環境を整えていきたいと考える。

## VII 図書館

### 1 図書館の基本方針

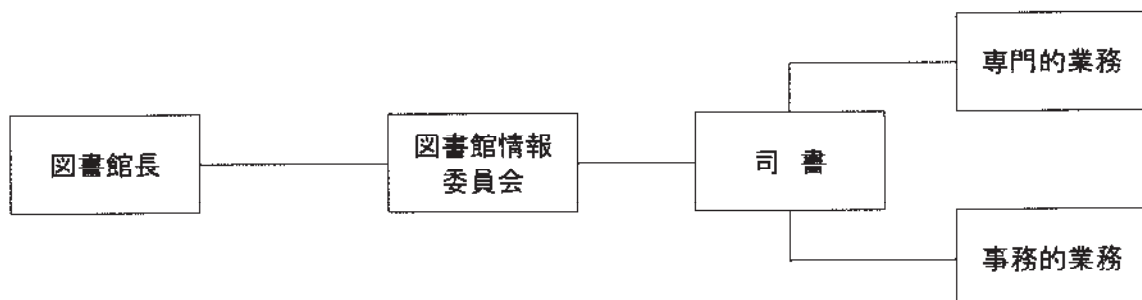
本学は、設立趣旨にあるように、埼玉の県北で地域の女子教育に貢献することを目的としている。それは、女性の自立と社会的貢献に向けた専門教育の場となることをめざしたものである。図書館はそのような本学の目的実現の追求に寄与する方向での充実を意図している。

図書館では、開学以来、学科構成に合わせた選書を行ってきた。現在は、こども学科に関連する保育・幼児教育・特別支援教育関連の資料や絵本、紙芝居などの児童書に重点を置いた収集を行い、学生・教職員からのリクエストにも積極的に応えて、蔵書の充実を図ってきた。

### 2 組織と運営

図書館長は、図書館の管理および運営を統括し、全学的な連絡調整を行っている。また、図書館の運営を円滑にかつ大学や学科の教育方針に即応したものにしていくため、館長をはじめ、専任・特任教員から選出された委員と図書館司書で構成される「図書館情報委員会」を組織し、図書館の運営、図書館資料の購入計画、購入文献の選定、図書館の利用に関する事項などについて協議している。

通常の業務は図書館司書2名があたっている。本学図書館の場合、この2名の図書館司書が、情報サービス、目録作成・管理などの図書館の専門的業務、ならびに一般的な事務的業務を行っている。



図書館の基幹業務は、コンピュータ化されるに至っていないので、予算管理、発注受入、図書整理、貸出返却、利用統計、蔵書点検に至るまでの業務を、従来の手工業的な方法で行わざるを得ない状況である。なお、蔵書検索については、コンピュータによる簡易目録とカード目録を併用して運用している。

### 3 施設・設備及び情報サービス

#### (1) 施設・設備

本学図書館は昭和 58 年 4 月に開館し、総面積は 266.2 平方メートルで、一階は 147.6 平方メートル、二階は 118.6 平方メートルである。一階は書架および司書室、二階は閲覧室および参考図書室として使用している。

蔵書数（図書・視聴覚資料）は 49,188 点（平成 24 年 3 月 31 日現在）である。なお、ほとんどの外国書は、104 サーバ室のスペースの一部を書庫として使用し、ここに別置している。この書庫は閉架式のため、自由に利用することはできない。

一階の書庫は、開架方式を採用しているため、利用者は自由に書庫へ入り利用できる。大型本、新聞のバックナンバーなどは集密書架に排架している。また、ブラウジングコーナーを設けている。

二階は閲覧室で、閲覧席 46 席（スツール 10 脚含む）を設置し、閲覧室の周囲には参考図書、学術・専門雑誌、視聴覚資料を排架して、利用に供している。

在籍学生数は、1 年 125 名、2 年 90 名、全学年 215 名（平成 23 年 10 月 1 日現在）である。学生一人あたりの蔵書数は約 229 冊、平成 23 年度の受入冊数は 6.7 冊である。（以下、削除）

#### (2) 情報サービス

図書館の業務は、図書館利用者である学生および教職員に対する図書館資料の提供が中心的業務である。主なサービスは次のとおりである。

所蔵調査を求める学生や教職員に対しては、要求文献のおおよその NDC（Nippon Decimal Classification＝日本十進分類法）を判定し、当該排架場所を案内して探索させ、該当文献を探しあてたならば、二階の閲覧室またはブラウジングコーナーで閲覧してもらう。

所蔵の有無が不明瞭な場合には、蔵書検索システム（OPAC＝Online Public Access Catalog）、または書名目録・著者名目録等のカード目録での検索を案内する。そして該当文献が発見できたならば、閲覧室で利用してもらう。

##### ① レファレンス・サービス

文献調査などの参考調査依頼を来館者から受けたときは、図書館司書室またはカウンタに排架している参考図書を使用するなどをして回答する。しかし、利用者が自分で調査を希望する場合には、調査ツールを提供して調べてもらう。例えば、簡単な事実調査、新規購入図書の価格、出版社等の情報である。

## ② 館外貸出とコピーサービス

学生への館外貸出の冊数・期間は、10冊・2週間以内として、実習などで必要な場合には返却期限を延長するなどの特別貸出を行っている。なお、教職員への館外貸出の冊数は20冊、期間は1ヵ月以内としている。コピーサービスについては、著作権法第31条に従い、予め文献複写申請をしてもらい、館内資料に限り許可している。本学図書館で所蔵していない資料については、図書館間相互利用による複写文献あるいは現物の取寄せで対応し、他の図書館を利用できるように照会サービスも行っている。

## ③ 視聴覚資料

図書館サービスにおける文献資料の情報源は、主に図書や雑誌であるが、DVD、CD、CD-ROMなどの視聴覚資料の収集が必要不可欠でもある。保育・幼児教育や一般教養として必要な視聴覚資料を購入して利用に供している。また、図書館情報学分野の資料も購入して、司書・司書教諭課程の授業の補助手段として利用している。

二階閲覧室には、DVD・CD/ビデオ一体型の再生装置と液晶13型ディスプレイを設置し、館内でのCD、DVD、ビデオテープ等の視聴が可能である。

## ④ 情報検索システムの利用

コンピュータで蔵書を簡易に検索できるシステム(Simple-OPAC:OPAC社)を活用し、正規のMARC(Machine Readable Cataloging = 機械可読目録)を取り入れてはいないが、利用者サービスの向上を図っている。

今後は、国立情報学研究所が提供する目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL)を導入して、共同分担目録システムや図書館間相互利用システムを活用するため、本学図書館の基幹業務のコンピュータ化を実施することが必要である。また、共同分担目録システムを導入した場合、書誌レコードの流用が可能となり、作業を省力化できるメリットがある。

この学術情報システムは、国内の高等教育機関の図書館における導入の普及傾向をみると、近々の検討課題であると思われる。

# 4 所蔵点数と年間受入状況

## (1) 所蔵点数

### ① 蔵書数

蔵書数は、平成24年3月31日現在で、図書47,221冊である。そのうち和書は42,428冊、外国書は4,793冊である。

### ② 学術雑誌所蔵数

購読している学術雑誌のタイトル数(平成23年度)は次のとおりである。なお、一般雑

誌は除く。

- 学術雑誌タイトル数

和雑誌：49 点	外国雑誌：6 点
----------	----------

### ③ 視聴覚資料所蔵点数

視聴覚資料の受入点数（平成 24 年 3 月 31 日現在）は次のとおりである。

- 視聴覚資料の受入点数

視聴覚資料：1,967 点	
内 訳	
DVD	343 点
ビデオテープ	986 点
カセットテープ	263 点
CD	264 点
CD-ROM	76 点
スライド	35 点

### ④ 除籍数

平成 23 年度は、蔵書の除籍を実施していない。

## (2) 年間受入状況

平成 23 年度の資料別受入状況は、図書 1,413 冊、視聴覚資料 25 点で、合計 1,438 件である。これを学生 1 人あたりの受入件数で算出すると、約 6.7 件（受入件数／学生数）となる。

- 受入状況の内訳（平成 23 年度）

受入種別	冊数・点数	
図 書	合計 1,413 冊	
	和 書	1,413 冊
	外国書	0 冊
視聴覚資料	合計 25 点	
	DVD	24 点
	ビデオテープ	0 点
	CD	0 点
	CD-ROM	1 点
	カセットテープ	0 点
図書＋視聴覚資料	合計 1,438 件	

## Ⅶ 図書館

今年度より、図書購入と雑誌購読の予算配分を見直し、購読雑誌を減らして図書購入予算に 300 万円を確保して執行した結果、受入件数が増加した。なお、図書館資料の購入経費は、学生からの学費納入金に含まれる図書費（一人当たり 2 万円）を算出基準としている。

### 5 利用状況

#### (1) 入館者数

平成 23 年度の年間入館者数は 5,458 人（教職員 1,950 人、学生 3,508 人）、1 日平均入館者数は 25.4 人（年間入館者数／開館日数）である。学生 1 人あたりの年間入館回数は約 16.3 回（学生年間入館者数／学生数）である。学生所属別の入館者数と利用率は次のとおりである。

○ 学生所属別入館者数および学生 1 人あたりの利用回数（科目履修生等を除く）

	こども学科	
1 年	1,470 人	11.8 回
2 年	2,038 人	22.6 回

昨年度よりも入館利用者が減少した理由は、図書館に常駐できる司書が 1 名のみ状態が前期まで続き、業務の都合により不在時は臨時閉館にしたため、一時的に利用者の利便性が低下したことが考えられる。後期からは司書を増員し、2 名体制で対応することにより、常時開館できる状況へ改善されつつある。

#### (2) 館外貸出

館外貸出については、先述のとおり、学生、教職員によって貸出期間が異なる。通常の期間、学生は 1 人 10 冊までで 2 週間以内である。教職員は 1 人 20 冊までで 1 ヶ月以内となっている。ただし、夏休み等の長期休暇および保育・幼稚園実習、施設実習等の場合は特別長期貸出を認めている。

○ 学生貸出冊数（括弧内は一人あたりの平均貸出冊数）

	こども学科
1 年	663 冊 (1.7 冊)
2 年	1,515 冊 (3.1 冊)

平成 23 年度の教職員の館外貸出冊数は、599 冊である。

### (3) その他の業務

#### ① 参考業務

平成 23 年度のレファレンス受付数(クイックレファレンスを含む)は、3,791 件である。

#### ② 文献複写

図書館内に設置しているコピー機の平成 23 年度の利用は、次のとおりである。

##### ○ 学内文献複写の申請人数と枚数

	人 数	枚 数
学内文献複写	94 人	380 枚

なお、図書館に設置しているコピー機は、著作権法第 31 条による図書館資料の複製のため、館内資料の複製に限定して許可している。

#### ③ 相互利用

平成 23 年度の図書館間の相互利用の内訳は、次のとおりである。

##### ○ 相互利用の受付・依頼件数

	受 付	依 頼
文献複写	0 件	3 件
現物貸借	0 件	1 件

## 6 研究紀要

### (1) 埼玉純真短期大学研究論文集

#### ① 第 5 号

平成 23 年 10 月に原稿募集を行い、その結果 4 件の論文と 4 件の教育研究報告が集まり、200 部(抜刷り 30 部×8 件)を平成 24 年 3 月 31 日に刊行した。

## 7 成果と課題(点検・評価)

環境面では、従来より懸案であった 1 階書庫の遮光について、遮光物をカーテンからブラインドにし一新することにより図書資料の保管状況の改善を図った。また、2 階閲覧室にツールセットを配置し、利用者が気軽に図書を閲覧できるように利便性の向上を図った。予算面では、図書と雑誌に関する予算の配分を見直し、図書購入予算として 300 万円を確保した。図書の購入に関しては、本来副本購入は、幅広い資料を収集するという観点から避けていたが、保育実習等で使用する絵本については、同時期に同一資料への利用希望が

多いため、本年度は、利用頻度が高そうな絵本については、副本購入し排架することで利用者の利便性の向上に努めた。また、選書においては、教員や学生のリクエストに加え、事務職員からも希望を募り選書の幅を広げるようにした。研究論文集に関しては、従来の論文だけでなく、本学が実践してきた地域活動に関しても報告として掲載し、本学の教育活動の一端を紹介するべく情報発信を行った。

課題としては、年来の懸案事項である「図書館情報システム」を導入し、全国の大学図書館とネットワークを構築して、相互協力体制を整備しなければならない。しかし、導入経費が高額になることが予想されるため、早急な整備は現実的に困難であると考えている。その代りとして、「大学図書館協議会」等の団体を通じての相互協力活動を模索したい。また、環境面では、蔵書が増えて排架スペースの確保が困難になってきている。現状でのこれ以上の書架増設は、閲覧スペースの圧迫にもなりかねないので、蔵書の除籍を検討するか、または、移転・新築・増築等の将来的な図書館像を考えなければならない岐路に立っている。



## VIII 校地・施設・設備

## 1 校地及び校舎面積

## (1) 概要

本学は広大な関東平野の北部埼玉県羽生市にあり、利根川を境にして、すぐ北側は群馬県、北東側は栃木県、東側は茨城県の県境に位置し、関東地方全体から見れば、地理的にはほぼ中心をなす場所に存在する。政治・経済の中核である東京へも、1時間強の時間で出られることもあり、文化・観光都市の散在する関東北部地方に挟まれ、いたって恵まれた環境にある。

校地面積は短期大学設置基準(2,400 m<sup>2</sup>)の約14.57倍の広さを有する34,970 m<sup>2</sup>、そこに校舎は7,064 m<sup>2</sup>、運動場8,059 m<sup>2</sup>、その他の土地19,847 m<sup>2</sup>がある。校地内には屋外体育施設としてグラウンド(一周300m)が設けられており、学生、および来客者用駐車場(111台)、自転車置場が設置されている。研修棟の1階部分にある食堂の南側はテラスとなっており、ベンチ、テーブルが備えられている。また平成23年度末には学生増への対応及び憩いの場が得られるような学生サービスの向上をねらい、新しくカフェテリア(仮称「赤い屋根」)を設置した。学内東側には、体育用具入れ、テント収納入れなどのために利用されている倉庫がある。

校地総面積(大学専用校地)	34,970 m <sup>2</sup>
校舎	7,064 m <sup>2</sup>
運動場	8,059 m <sup>2</sup>
その他	19,847 m <sup>2</sup>

## (2) 成果と課題(点検・評価)

本学の校地、及び校舎の現況面積は設置基準を満たしているが、設置基準と対比すると校舎は必要面積に対して6.33倍、校地は14.57倍の面積を有している。校舎との比較では校地がより多く基準面積を上回っており、かなり余裕のある校地を有している点特徴的である。

大学周辺は、徐々に開発の動き(国道沿いに大型量販電機店、ベビー用品店等の開店)が見られてきた。ただ、開発にはある程度の時間を要する。そのために、大学の周りはまだいたるところ昔と変わることなく農地が広がり、都会よりこの地を訪れる人々は、時が止まったような安らぎを得ることが出来る。そういった意味では、本学の立地条件は恵まれており、都会の喧騒から離れて、じっくりと教育・研究に取り組むことの出来る、優れた教

育環境を備えていると言えよう。また、緑地部分が校地の 20%を占める現状からも、情報環境としては貴重かつ最適であると自負できる。

## 2 施設及び設備

### (1) 概要

本学校舎は管理棟・研究棟・学習棟・研修棟・体育館から構成されている。管理棟には事務室・学長室・応接室・会議室・保健室等が設けられている。管理等に接続する形で研究棟があり、1階・2階部分は図書館、3階・4階・5階は教員研究室となっている。低層階の多い本学の校舎にあって唯一5階建てのこの建物は本学のモニュメント的存在である。

2階建ての学習棟は、普通教室、演習室、大講義室、小児栄養実習室、リズム音楽室、ピアノレッスン室(20室)、実習指導室、進路支援室、パソコン教室、学生会室等から構成され、学習棟正面入口にはラウンジが設けられ、連絡事項伝達のための掲示板が設置されている。

学習棟の東側に位置する3階建ての研修棟は、1階部分が学生食堂、絵画工作室、理科・社会実験室、陶芸室、2階部分が普通教室、中講義室、3階部分が普通教室、和室がそれぞれ設置されている。

棟名称	階数	延床面積 (㎡)
学習棟	2	2,459 ㎡
研修棟	3	1,773 ㎡
研究棟	5	766 ㎡
管理棟	1	641 ㎡
体育館	1	934 ㎡
その他	—	491 ㎡

校舎延床面積合計	7,064 ㎡
----------	---------

### (2) 保守・管理体制

平成 23 年度に実施した主な保守点検は、以下の通りである。

浄化槽、電気設備、ガス器具、消火器、自働火災報知機、非常用設備、冷暖房設備、危険物(地下タンク)、電話交換機、ピアノ調律等。

### (3) 成果と課題（点検・評価）

平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災に伴う地震により、校舎の一部に損害が生じた。体育館天井部の部材落下、建物内部のガラスの損傷、建物外部の亀裂、雨樋の損傷等の被害があり、加えて、水道管の破損による大量の漏水も発見された。これらの復旧に、約 1 ケ月を要し、その間、体育館の使用を禁止した。

本学の施設設備は、開学以来約 30 年を経過していることから、様々な部分で老朽化が目立つ状態になっている。こうした中、学生の安全を最優先に考え、各種法律・条例等に基づき、基準に合った業者により、滞りなく点検を実施し、問題点があれば即刻対応をしている。

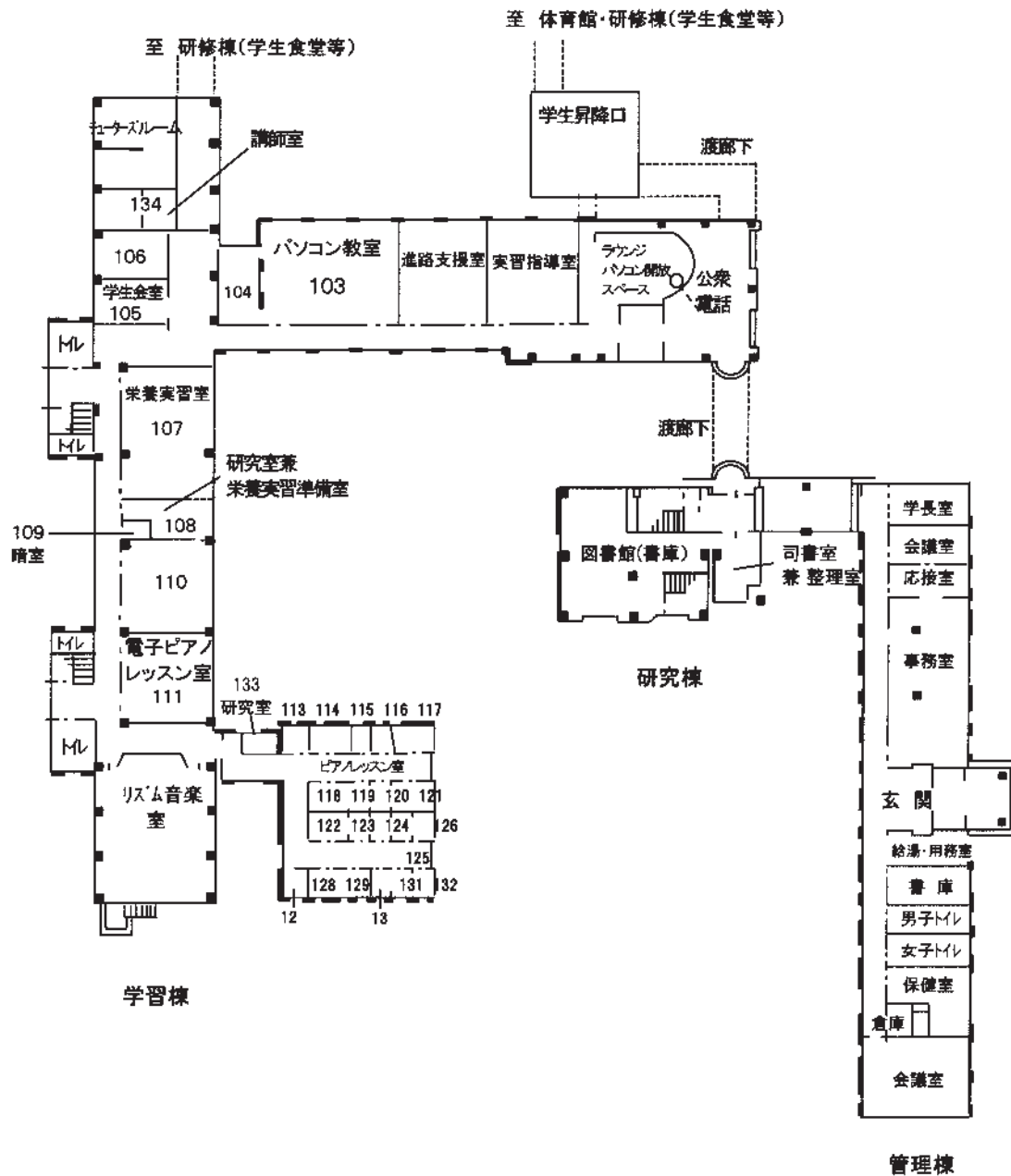
昨年度は、施設のより効率の良い使用を目指して、教室の集約化をはかった。これにより、学生の移動距離の短縮と、各種エネルギー消費の軽減等に効果があったものと考えている。

また、平成 23 年度には、快適に学ぶための環境改善として、主に下記の内容を見直し充実させた。

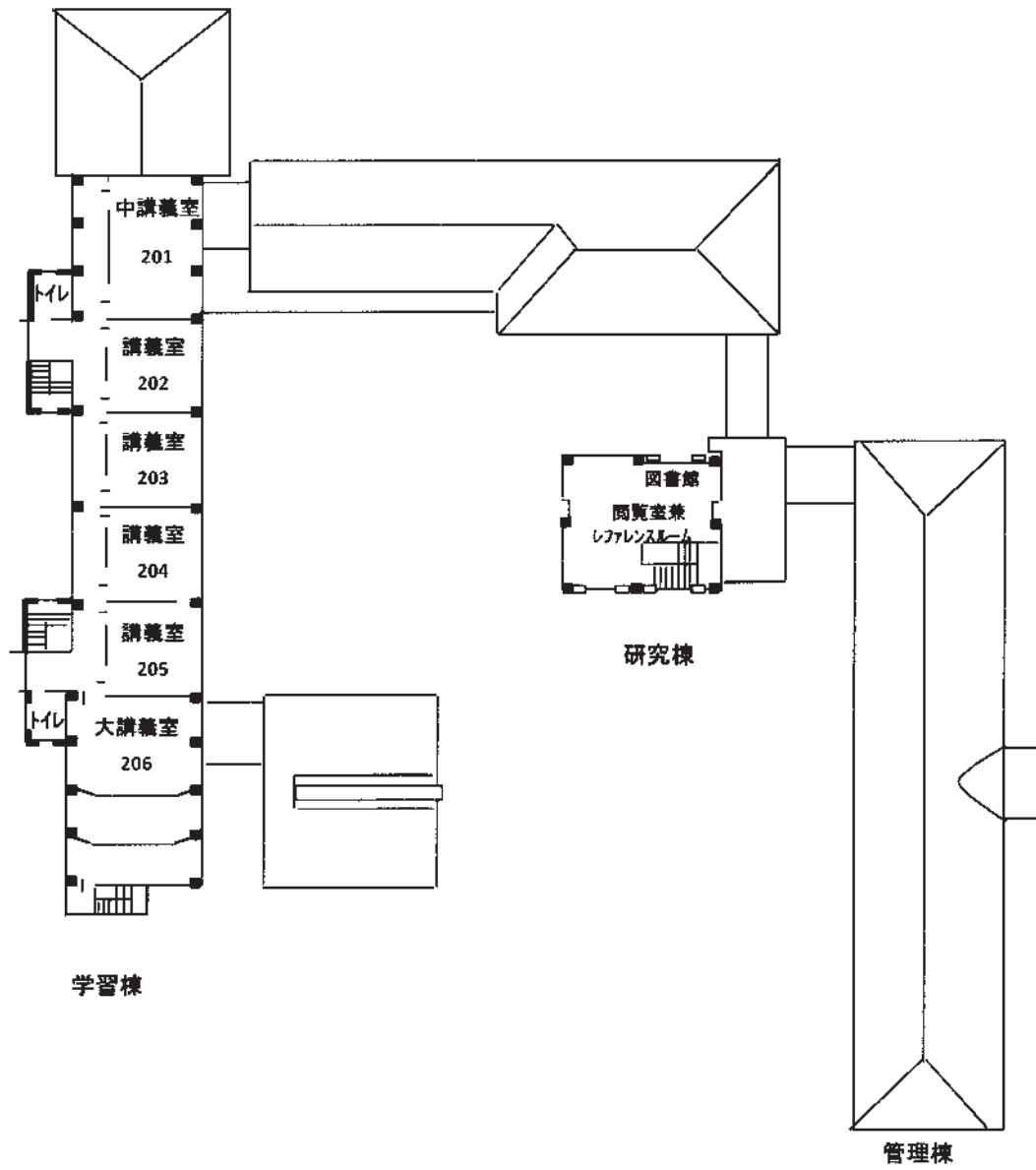
- ・ 各教室、廊下の床面再コーティング
- ・ 教室（暗幕）カーテンの見直し整備
- ・ 各教室の椅子の全面入れ替え
- ・ 学習机天板のイメージアップ更新張り替え
- ・ トイレの一部洋式化追加改善
- ・ 一部教室のプロジェクターの最新化更新等

### 3 学内見取図

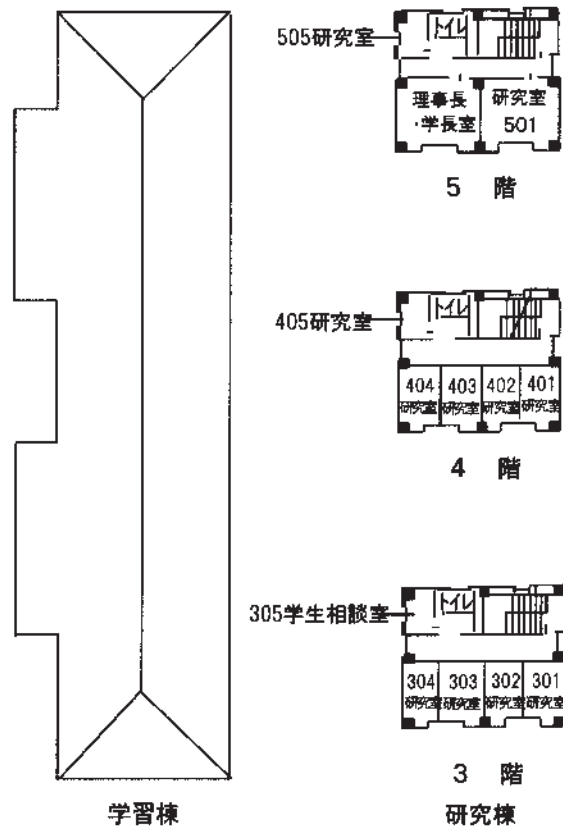
#### 1階 平面図



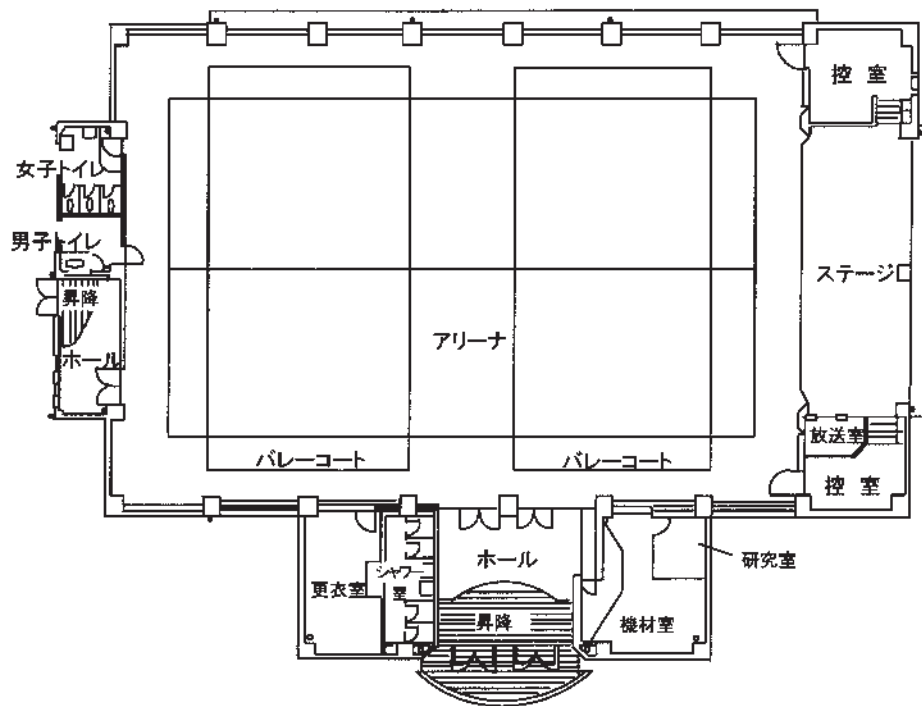
## 2階 平面図



3・4・5階 平面図

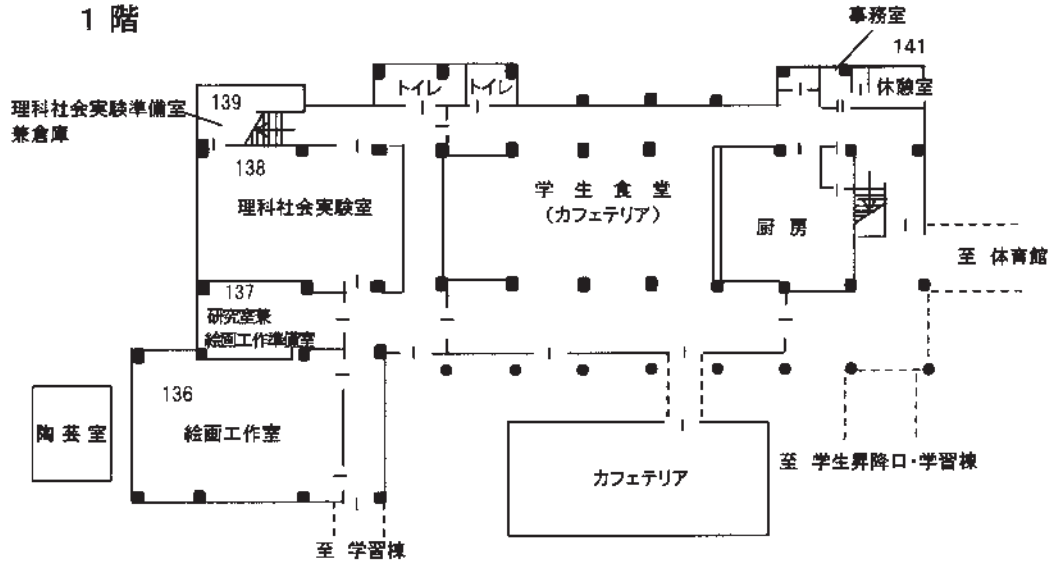


体育館 平面図

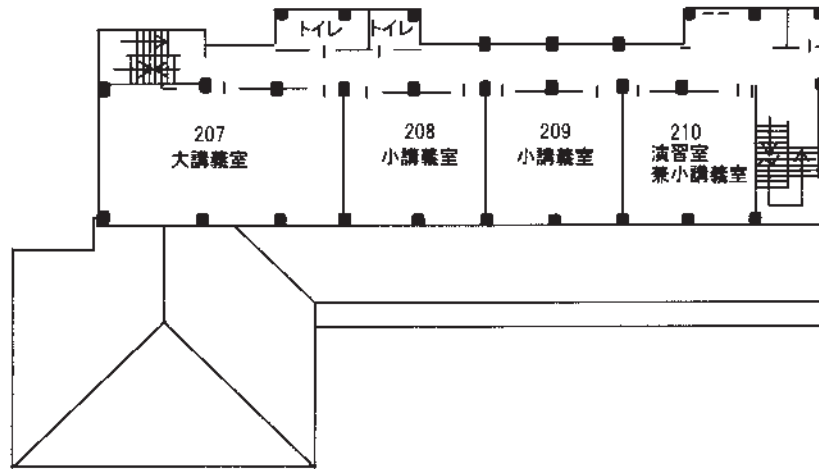


# 研修棟 平面図

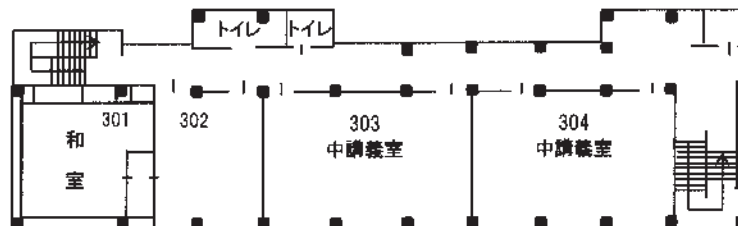
## 1 階



## 2 階



## 3 階



## IX 教授会・委員会等

## 1 教授会

## (1) 教授会

## ① 開催日程及び主な審議事項等

## ○ 教授会内容一覧

開催日	審議事項	報告事項
第1回定例教授会 平成23年4月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度年間予定表の訂正</li> <li>・平成23年度前期時間割表の訂正</li> <li>・平成23年度前期補講予定</li> <li>・幼稚園実習、保育所実習期間の授業実施</li> <li>・学籍異動および学生の動向</li> <li>・成績追加認定（カウンセリングⅠ）</li> <li>・部活動顧問の調整について</li> <li>・東日本大震災にかかる義援金について</li> <li>・幼稚園（後期／応用）実習における審査</li> <li>・保育所実習における審査</li> <li>・指定推薦校（案）</li> <li>・高校訪問（案）</li> <li>・オープンキャンパスの実施内容（案）</li> <li>・埼玉純真短期大学事務組織事務分掌規則の改正（案）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
第2回定例教授会 平成23年5月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度前期集中講義（案）</li> <li>・平成23年度前期試験実施計画（案）</li> <li>・学生の動向</li> <li>・平成23年度前期履修登録ミスの学生の対応について</li> <li>・クラブ・サークル顧問について</li> <li>・学生総会について</li> <li>・部活動顧問の調整について</li> <li>・東日本大震災にかかる義援金について</li> <li>・平成23年度介護等体験に係る実習審査について</li> <li>・年間業務予定について</li> <li>・幼稚園実習巡視手順について</li> <li>・実習期間における緊急時対応について</li> <li>・巡視報告書の形式について</li> <li>・オープンキャンパスについて</li> <li>・公開講座について</li> <li>・大学案内パンフレットのモデルについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
第3回定例教授会 平成23年6月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度後期時間割表（案）</li> <li>・平成23年度前期試験時間割表（案）</li> <li>・試験監督上の留意点（教員向け）、試験での留意点（学生向け）</li> <li>・学生の動向</li> <li>・平成23年度学外研修について</li> <li>・学則改正（案）</li> <li>・小学校教育実習に係る実習審査について</li> <li>・指定校推薦（追加）について</li> <li>・第3回オープンキャンパス実施要領（案）について</li> <li>・プレカレッジの日程について</li> <li>・公開講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>



## IX 教授会・委員会等

<p>第4回定例教授会 平成23年7月20日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度後期時間割表(案)</li> <li>・平成23年度前期試験時間割表(案)</li> <li>・図書館司書、司書教諭課程募集停止に伴う学則改正(案)</li> <li>・「ボランティア実習」成績認定</li> <li>・学生の履修登録と受講の実態について</li> <li>・「幼稚園教育実習(前期/基本)」に係る実習審査</li> <li>・平成24年度大学案内パンフレットについて</li> <li>・オープンキャンパス(7/23, 24)実施要領(案)</li> <li>・AO面接(7/23)について</li> <li>・公開講座の申込み締切日について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>第5回定例教授会 平成23年9月28日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成23年度後期時間割表(案)</li> <li>・平成23年度前期成績認定</li> <li>・平成23年度後期補講予定について</li> <li>・10月1日(土)保護者会について</li> <li>・平成24年度年間行事予定表(案)</li> <li>・純真祭、スポーツ大会の授業コマ数カウントについて</li> <li>・AO面接合否判定</li> <li>・進学相談会について</li> <li>・入学試験について</li> <li>・平成24年度大学案内について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>第6回定例教授会 平成23年10月19日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・退学、休学、復学願の許可証について</li> <li>・平成23年度前期成績追加認定</li> <li>・平成23年度前期成績の保護者への送付について</li> <li>・平成24年度年間行事予定表(案)</li> <li>・表現発表会について</li> <li>・指定校、公募制、専門高校総合学科等、同窓生推薦入試実施要領(案)</li> <li>・2011ブレカレッジ時間割(案)</li> <li>・平成24年度オープンキャンパス等日程について</li> <li>・AO面接合否判定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>臨時教授会 平成23年10月29日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校、公募制、専門高校総合学科等、同窓生推薦入試合否判定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>第7回定例教授会 平成23年11月16日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度前期成績追加認定</li> <li>・平成24年度年間行事予定表(案)</li> <li>・表現発表会について</li> <li>・証明書発行願について</li> <li>・教職実践演習の発表及び1年生の次年度保育実践演習選択方法について</li> <li>・平成24年度科目等履修生募集要項について</li> <li>・平成23年度施設実習に関する実習事前審査(乳幼児保育コース1年、乳幼児保育コース2年)</li> <li>・AO面接合否判定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>第8回定例教授会 平成23年12月14日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成24年度年間行事予定表(案)</li> <li>・平成23年度後期試験時間割(案)、第16週目のゼミ発表会について</li> <li>・試験及び追再試補講期間に施設実習に参加する学生の対応について</li> <li>・新年度のオリエンテーションについて</li> <li>・ジャージの色について</li> <li>・卒業記念品について</li> <li>・現行写真業者について</li> <li>・新年度学生健康診断について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>第9回定例教授会 平成24年1月25日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業アルバム製作者について</li> <li>・卒業生からの贈呈品について</li> <li>・卒業式式次第について</li> <li>・実習関係文書管理規則(案)について</li> <li>・教職実践演習(幼、小)発表会について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>

## IX 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生に対する会長表彰者の推薦について（平成23年度全国保育士養成協議会）</li> <li>卒業生に対する会長表彰者の推薦について（平成23年度全埼玉私立幼稚園連合会）</li> <li>平成23年度第28回卒業式次第</li> <li>平成24年度担当科目一覧</li> <li>平成24年度前期時間割表（案）</li> <li>新年度の連絡について</li> <li>平成23年度後期集中講義</li> </ul>	
第10回定例教授会 平成24年2月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度前期時間割表（案）</li> <li>平成24年度年間行事予定表（案）</li> <li>こども学科1,2年生クラス分けについて</li> <li>平成24年度オリエンテーションについて</li> <li>平成24年度入学式</li> <li>司書課程科目の可書教諭課程科目への読替文について</li> <li>卒業式について</li> <li>指定推薦校について</li> <li>高校訪問について</li> <li>学校見学会について</li> <li>学則、規程、規則等の制定及び改正</li> </ul>	各委員会からの報告
臨時教授会 平成24年2月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度後期成績認定（卒業年次生）</li> <li>平成23年度卒業認定及び学位取得認定</li> <li>平成23年度免許状、資格取得認定</li> <li>平成23年度卒業式各代表者候補の選出について</li> </ul>	各委員会からの報告
臨時教授会 平成24年3月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度後期成績認定（在学生）</li> <li>保育実践演習の編成について</li> <li>1年生及び2年生のクラス担任について</li> <li>オリエンテーションについて</li> <li>入学式について</li> <li>学生の退学希望について</li> <li>卒業式について</li> </ul>	各委員会からの報告
第1回正教授会 平成24年3月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉純真短期大学教育職員の昇格について</li> </ul>	
第11回定例教授会 平成24年3月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度後期成績追加認定/GPA一覧（在学生）</li> <li>オリエンテーションについて</li> <li>入学式について</li> <li>保護者会について</li> <li>平成24年度前期休講科目一覧</li> <li>学生動向について</li> <li>卒業要件単位チェックリストについて</li> </ul>	各委員会からの報告

## ② 成果と課題（点検・評価）

教授会は、「学則第48条第2項」に則り、教授・准教授・専任講師（特任含む）で構成した。これは、本学の全教員が12名であることと、内、教授職が4名であることが理由である。また、

教授会は、上記の専任教員をメンバーとして組織し、これにオブザーバーとして事務局長・各セクションの責任者（事務職員）も同席することにより、教員と事務職員が時間的・空間的場の共有をすることにより意思疎通と共通理解が進み、認識の違いにより業務が滞ることを防ぐことができ、スムーズな運営ができた。

教授会への議案は、それぞれの委員会で案件を検討の後、各委員会からの提案に基づいて審議が行われた。とかく報告会的になりがちな教授会に、全員が参画意識と当事者意識を持って教授会に参加し、それぞれに意見や感想を述べ合うこともできた。その結果、全

員が大学全体の状況を把握でき、意思疎通が図れたと思われる。これらのことから教授会運営は、概ね順調に推移したと思われる。

今後の課題として、委員会からの議題が、現状に対する対処・対応策になりがちであることがあげられる。また、本学の将来や授業の質の向上、地域貢献など、未来を見据えての創造的建設・的な問題を議題として討論の場へ上げていかなければならないと考える。

## (2) 人事

### ① 異動

氏名	職位	異動日
相馬 萌	教務係 ↓ 入試広報係	平成 23 年 4 月 1 日

### ② 採用

氏名	職位	採用日
伊藤 道雄	こども学科教授	平成 23 年 4 月 1 日
大山 富一	総務担当	平成 23 年 6 月 1 日
片山 美冴	教務係員	平成 23 年 8 月 16 日
宮本 明子	図書館司書（非常勤）	平成 23 年 9 月 7 日

### ③ 退職

氏名	職位	退職日
橋本 早也佳	教務係員	平成 23 年 11 月 30 日

### ④ 成果と課題（点検・評価）

平成 23 年度を迎えるに当たって、女子職員が 1 名退職したもののこれまで数年間とは比較にならないほどの安定した人事となった。一時の危機的経営状態から教職員の努力で学生数も定員を確保でき、財政的にも安定した状況になったことが職場の信頼に繋がったことと考えている。ただし、本学のような小規模短期大学における採用や退職などの人事異動は組織にかなりの影響を与えることも事実である。それゆえ、退職や採用は頻繁になつてはならない。また、配置転換においても職場に限られるので、難しいものとなる。そこで、個々人の意欲や能力の“有・無”が担当部門の強弱に大きな要素となって影響を与えるので、十分は配慮と教職員の教育（FD・SD など）が重要であると考えている。

今回の採用については、教員は本学の「特別支援教育」への強化のために実力と経験を兼ね備えた見識高い教授を採用し、事務職員についても高い能力を持つ人物で担当部署の補充をした。

課題は、教職員がより安心して力を発揮できるような職場環境を作らなければならないことである。適材適所の配置を行い、業績に見合った昇進・昇格や経済的側面を含めた就労条件も妥当な根拠に基づいて行われるよう、規程の整備に取りかからなければならないと考えている。

## 2 委員会

### (1) 教務委員会

#### ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
小澤 和恵	安倍 大輔・牛込 彰彦・※片山 美冴・※橋本 早也佳・※矢内 美優

#### ② 概要

開催日	内容
第1回 平成23年4月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度 年間予定表の訂正について</li> <li>・平成23年度前期 時間割表の訂正について</li> <li>・講義コード一覧（追加訂正）</li> <li>・平成23年度前期 補講予定について</li> <li>・教職実践演習カルテ、グループについて</li> <li>・欠席調査について</li> <li>・幼稚園実習・保育所実習期間授業実施について</li> <li>・学生の動向について</li> <li>・その他：総合演習Ⅱ新編成について</li> </ul>
持ち回り審議 4月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績追加認定</li> </ul>
第2回 5月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度前期 集中講義（案）</li> <li>・平成23年度前期 幼稚園実習・保育所実習期間授業実施について</li> <li>・平成23年度前期 試験実施計画（案）</li> <li>・平成23年度前期 授業評価アンケート</li> <li>・成績認定（追加）ボランティア実習</li> <li>・学生の動向</li> <li>・その他：キャリアデザイン履修登録、教職実践演習カルテ・グループ</li> <li>・平成23年度前期 各科目の履修者数について</li> <li>・平成23年度前期 時間割表</li> <li>・平成23年度前期 補講予定について</li> </ul>

## IX 教授会・委員会等

<p>持ち回り審議 5月13日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザイン履修登録までの流れ（案）</li> </ul>
<p>拡大 5月25日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度前期 集中講義（案）</li> <li>・平成23年度前期 試験実施計画（案）</li> <li>・学生の動向</li> <li>・その他：キャリアデザイン履修登録、教職実践演習カルテ・グループ、オープンキャンパスを手伝う学生の補講の公欠、履修登録ミスの学生の対応について</li> <li>・平成23年度前期 各科目の履修者数について</li> <li>・平成23年度前期 時間割表</li> <li>・平成23年度前期 補講予定について</li> <li>・平成23年度前期 幼稚園実習・保育所実習期間授業実施について</li> <li>・平成23年度前期 授業評価アンケート</li> <li>・成績認定（追加）ボランティア実習</li> </ul>
<p>第3回 6月10日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度後期 時間割表（案）</li> <li>・平成23年度前期 試験時間割表（案）</li> <li>・試験監督上の留意点（教員向け）・試験での留意点（学生向け）</li> <li>・教職実践演習カルテ、グループについて</li> <li>・学生の動向</li> <li>・平成23年度 学外研修について</li> <li>・その他：平成24年度より収容定員変更、新入生アンケート結果、「ゆずり葉」DVD鑑賞について</li> <li>・平成23年度前期 補講予定について</li> <li>・指定保育上養成施設の平成23年度自己点検・平成22年度業務報告について</li> <li>・幼稚園実習事前指導について</li> </ul>
<p>拡大 6月15日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度後期 時間割表（案）</li> <li>・平成23年度前期 試験時間割表（案）</li> <li>・試験監督上の留意点（教員向け）・試験での留意点（学生向け）</li> <li>・教職実践演習カルテ、グループについて</li> <li>・学生の動向</li> <li>・平成23年度 学外研修について</li> <li>・その他：平成24年度より収容定員変更、新入生アンケート結果、「ゆずり葉」DVD鑑賞について</li> <li>・平成23年度前期 補講予定について</li> <li>・指定保育上養成施設の平成23年度自己点検・平成22年度業務報告について</li> <li>・幼稚園実習事前指導について</li> </ul>
<p>第4回 7月6日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度後期 時間割表（案）</li> <li>・平成23年度前期 試験時間割表（案）</li> </ul>

## IX 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司書資格・司書教諭資格募集停止に伴う学則変更</li> <li>・教職実践演習カルテ、グループについて</li> <li>・7月22日(金) 総合演習Ⅱ メイク講座の振り分けについて</li> <li>・平成23年度 学外研修について</li> <li>・ボランティア実習成績認定</li> <li>・学生の動向</li> <li>・その他：遠方の実習に伴う移動日の取り扱いについて</li> <li>・平成23年度前期 補講予定について</li> <li>・年間行事予定表</li> <li>・定期試験受験資格無資格者について</li> </ul>
<p style="text-align: center;">拡大 7月20日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度後期 時間割表(案)</li> <li>・平成23年度前期 試験時間割表(案)</li> <li>・司書資格・司書教諭資格募集停止に伴う学則変更</li> <li>・教職実践演習カルテ、グループについて</li> <li>・ボランティア実習成績認定</li> <li>・学生の動向</li> <li>・その他：履修登録ミスの学生の対応について</li> <li>・平成23年度前期 補講予定について</li> <li>・年間行事予定表</li> <li>・定期試験受験資格無資格者について</li> <li>・7月22日(金) 総合演習Ⅱ メイク講座の振り分けについて</li> <li>・平成23年度 学外研修について</li> <li>・その他：追・再試補講期間に全国私立短期人学体育大会に出場する学生の対応について</li> </ul>
<p style="text-align: center;">8月19日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度前期 履修登録ミスの学生、試験資格のなくなった学生の対応</li> <li>・心理学入門不正再試に関するご報告</li> <li>・平成23年度 前期 追・再試験に関する検討事項</li> <li>・除籍者の在籍証明書について(経緯)</li> <li>・その他：学生の動向、就職試験に伴う移動日の取り扱い、後期授業開始の流れ</li> </ul>
<p style="text-align: center;">第5回 9月14日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度後期 時間割表(案)</li> <li>・平成23年度前期 成績認定</li> <li>・平成23年度後期 履修登録の流れについて</li> <li>・保育内容応用指導法、教職実践演習(幼・小)履修選択について</li> <li>・教職実践演習カルテ、グループについて</li> <li>・平成23年度後期 補講予定について</li> <li>・10月1日(土) 保護者会について</li> <li>・学生の動向</li> <li>・その他：履修登録ミスの学生の対応について、キャリアガイダンス日程、後期集中講義の</li> </ul>

## IX 教授会・委員会等

	<p>予定、純真祭の準備、平成 24 年度年間予定表、休学者の履修登録の無効化、再履修学生の成績読み替え、後期教科書販売について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年度前期 補講予定について</li> </ul>
<p>第 6 回 10 月 12 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成 23 年度前期 成績追加認定</li> <li>・平成 23 年度後期 試験実施計画(案)</li> <li>・施設実習に参加する学生の対応について</li> <li>・平成 24 年度 年間行事予定表(案)</li> <li>・表現発表会について</li> <li>・その他：保育士登録説明会について</li> <li>・平成 23 年度前期 補講予定について</li> <li>・平成 23 年度後期 補講予定について</li> <li>・平成 23 年度後期 時間割表</li> <li>・平成 23 年度後期 履修登録の流れについて</li> <li>・教職実践演習カルテ、グループについて</li> <li>・10 月 1 日（上） 保護者会について</li> </ul>
<p>持ち回り 10 月 14 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績追加認定</li> </ul>
<p>第 7 回 11 月 9 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年度後期 成績追加認定</li> <li>・平成 24 年度 年間行事予定表（案）</li> <li>・表現発表会について</li> <li>・証明書発行願について（HP からダウンロードするもの）</li> <li>・平成 23 年度後期授業評価アンケート実施について</li> <li>・施設実習に参加する学生の対応について</li> <li>・試験監督上の留意点（教員向け）・試験での留意点（学生向け）</li> <li>・教職実践演習の発表と 1 年生の次年度総合演習選択方法について</li> <li>・教職実践演習カルテ、グループについて</li> <li>・平成 24 年度 科目等履修生募集要項について</li> <li>・平成 23 年度後期 補講予定について</li> <li>・平成 23 年度後期受講者なしの科目について</li> <li>・社会福祉主事任用資格について</li> <li>・全国保育士養成協議会 卒業生に対する会長表彰者の推薦について</li> <li>・平成 24 年度出校予定アンケートについて</li> </ul>
<p>持ち回り審議 11 月 16 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績追加認定</li> </ul>

## IX 教授会・委員会等

<p>第8回 12月7日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成24年度 年間行事予定表(案)</li> <li>・平成23年度後期 試験時間割(案)、第16週目のゼミ発表会について</li> <li>・試験及び追再試補講期間に施設実習に参加する学生の対応について</li> <li>・学位記準備</li> <li>・平成23年度 集中講義</li> <li>・新年度の連絡について</li> <li>・平成23年度後期 授業評価アンケート実施に関するアンケート</li> <li>・その他：施設実習未実施の学生の保育士資格取得見込みについて、履修者名簿に氏名が反映されなかった学生について</li> </ul>
<p>持ち回り 12月12日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> </ul>
<p>第9回 平成24年1月18日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職実践演習（幼・小）発表会について</li> <li>・学納金未納者の資格申請及び卒業認定に係る日程について</li> <li>・平成23年度 全国保育士養成協議会 卒業生に対する会長表彰者の推薦について</li> <li>・平成23年度 第28回卒業式次第</li> <li>・平成24年度前期 時間割表（案）</li> <li>・平成24年度 担当科目一覧</li> <li>・平成24年度 学生便覧・シラバスについて</li> <li>・新年度の連絡について</li> <li>・平成23年度後期 集中講義</li> <li>・その他：全埼玉私立幼稚園連合会会長表彰者の推薦について、2年生最終キャリアガイダンス日程、第三者評価執筆分担、教職実践演習カルテの回収について</li> <li>・平成23年度後期 補講予定について</li> <li>・平成23年度後期 試験監督について</li> <li>・平成24年度 年間行事予定表（案）</li> <li>・その他：試験での留意点（学生向け）の配布日について</li> </ul>
<p>持ち回り 1月25日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全埼玉私立幼稚園連合会会長表彰対象者について</li> </ul>
<p>第10回 2月8日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度前期 時間割表(案)</li> <li>・平成24年度 年間行事予定表(案)</li> <li>・こども学科1、2年生クラス分けについて</li> <li>・平成24年度 オリエンテーションについて</li> <li>・平成24年度 入学式</li> <li>・平成24年度 1年生 学外研修について</li> <li>・司書課程科目の司書教諭課程科目への読替えについて</li> <li>・学生動向</li> </ul>



## IX 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉純真短期大学 規程集の見直しについて</li> <li>・平成 24 年度 担当科目一覧</li> <li>・平成 23 年度 全国保育士養成協議会 会長表彰表彰状</li> </ul>
2 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年度後期 成績認定(卒業年次生)</li> <li>・平成 23 年度 卒業認定及び学位取得認定</li> <li>・平成 23 年度 免許状・資格取得認定 (1)教員免許状 ①小学校教諭 2 種免許状 ②幼稚園教諭 2 種免許状 (2)保育士 (3)司書 (4)司書教諭</li> <li>・平成 23 年度卒業式 各代表者候補の選出について</li> </ul>
3 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年度後期 成績認定(在学生)</li> <li>・保育実践演習の編成について</li> <li>・1 年生、2 年生のクラス担任について</li> <li>・オリエンテーションについて</li> <li>・入学式について</li> <li>・その他：履修登録ミスの学生の対応について、学生動向、平成 24 年度授業用ファイルの配布日程、平成 24 年度時間割表の教室配置</li> </ul>
第 11 回 3 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年度後期 成績追加認定・GPA 一覧(在学生)</li> <li>・オリエンテーションについて</li> <li>・入学式について</li> <li>・保護者会について</li> <li>・平成 24 年度前期 休講科目一覧</li> <li>・学籍異動</li> <li>・その他：卒業要件単位チェックリストの様式、平成 24 年度 1 年生の学外研修について、履修登録ミスの学生の対応について、新入生の学籍番号付番日程、研究会の日程</li> </ul>

## ③ 成果と課題（点検・評価）

平成 23 年度も、月 1 回の定例会議と必要に応じて臨時会議を開催し、学生の動向や履修に関する事、成績認定や教務管轄の学校行事などの審議が適切になされた。その内容は議事録に残され、教授会に審議事項、報告事項として提出している。

## (2) 学生委員会

## ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
高橋 努	・安倍 大輔・稲垣 馨・関根 久美・※奥貫 慶一郎

## ② 概要

開催日	内 容
平成 23 年 4 月 13 日	・学位授与式 ・卒業式 ・部活顧問 ・学生総会 ・自宅外通学生懇親会 ・純真祭・義捐金
5 月 25 日	・全国短期大学体育大会 ・クラブ顧問 ・役割分担（各行事担当） ・学位授与式 ・自宅外通学生懇親会 ・学生総会 ・自転車
6 月 15 日	・自宅外通学生懇親会 ・学位授与式 ・食堂 ・掲示板 ・学生総会 ・卒業アルバム
7 月 6 日	・学位授与式・学生会予算・純真祭
9 月 14 日	・純真祭 ・卒業式 ・スポーツ大会 ・全国短期大学体育大会報告
10 月 12 日	・卒業式 ・卒業行事（卒業パーティー） ・スポーツ大会 ・純真祭 ・自宅外通学生懇親会 ・学生生活
11 月 9 日	・卒業式 ・卒業記念パーティー ・スポーツ大会 ・純真祭報告 ・インフルエンザ対策 ・学生生活 ・加湿器
12 月 7 日	・健康診断 ・卒業記念パーティー ・卒業アルバム（業者選定） ・奨学金 ・インフルエンザ報告 ・自宅外通学生懇親会 ・卒業記念品 ・ジャージシューズ（新年 度用）
平成 24 年 1 月 18 日	・卒業アルバム ・卒業式 ・卒業記念品 ・リーダー研修会 ・奨学金 ロッカーキー ・学生会執行部公募について・学校指定ジャージ ・秋桜会とお顔合わせ会
2 月 8 日	・卒業式（学長賞選定・卒業記念品選定・卒業パーティーほか）学生会執行部公募 ・新年度準備（学外研修、スポーツ大会準備）
3 月 21 日	・新年度役割分担表 ・次年度卒業式および卒業アルバム、健康診断ほか

## ③ 成果と課題（点検・評価）

平成 23 年度は、学生部長が前年度からの留任のためスムーズに新年度に臨むことができた。月 1 回を原則として学生委員会を開き、学生の動向について教職員間で情報共有を図り学生がより充実した学生生活を送れるように支援を行った。また学校行事等について、必要に応じて臨時の委員会を開き、円滑な運営・実施ができるように臨機応変に対応した。

学校行事の計画・運営の中心として活動する学生会執行部に対しては、学生委員会が助言・指導をすることにより、学生にとっては学校行事もまた貴重な学びの機会になったと言える。

本学はキャンパスの立地条件を考慮し自動車通学を許可しているが、学内の駐車場の利用や保険、運転マナー等について説明と指導を行い、適宜、適切な対応と学生に対する指導を行っており大きな問題が起きなかった。電車通学や自転車通学者においては、羽生駅と本学との間の通学路に不審者が出没したという情報が学生から寄せられたため、学生に注意喚起を促すとともに、羽生警察署生活安全課と連絡を取り合いながら、教職員による巡回体制を強化し、学生が安心して通学できるような対応をした。親元を離れ学生アパー

トに住んでいる学生はもちろんであるが、全ての学生が安全且つ安心して学生生活を送れるよう、地域との連携をより一層深めていくことが必要であろう。

これらのことを鑑み、羽生駅と大学間のスクールバス運行についての検討を行った結果、次年度よりスクールバスの運行を行うこととなった。

### (3) 図書館情報委員会

#### ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
入江 良英	・稲垣 馨・安村 由希子・阿部 峰雄・※中村 周（司書）

#### ② 概要

開催日	内 容
平成 23 年 4 月 13 日	・平成 23 年度予算（図書館関連） ・図書の選書 ・研究論文集について ・今年度の図書館活動について ・その他
5 月 13 日 5 月 25 日	・平成 22 年度の受入状況 ・図書の選書 ・平成 23 年度廃棄雑誌について ・図書館の開館対応等について ・学生図書委員の取扱い ・研究論文集について ・リニューアル Web サイトの図書館情報について ・ブックフェア ・地域連携 ・その他
6 月 8 日 6 月 15 日	・図書の選書 ・研究論文集について ・ブックフェア ・羽生市立図書館との相互協力 ・その他
7 月 8 日 7 月 20 日	・図書の選書 ・研究論文集について ・ブックフェア ・その他
10 月 14 日	・図書の選書 ・2012 年外国雑誌の購読 ・「読み聞かせの会」について ・ブックフェアについて ・研究論文集について ・図書館情報委員と学生図書委員の懇談 ・その他
11 月 9 日	・図書の選書 ・研究論文集について ・純真出前お話し会 ・ブックフェア ・教員と学生図書委員の懇談会 ・図書館の環境整備について ・その他
平成 24 年 1 月 18 日	・平成 24 年度の和雑誌購読について ・図書および視聴覚資料の選定 ・研究論文集について ・保育および教育に関する書物の紹介 ・その他

#### ③ 成果と課題（点検・評価）

図書館情報委員会は、埼玉純真短期大学図書館規程および図書館情報委員会規則に従い、適切な図書館運営と研究支援を目的として、適宜開催されている。なお、平成 23 年度より、従来の図書館運営に合わせて、情報整備や情報機器管理等の部門が委員会の管轄となった。

今年度の図書館運営の中で、図書館資料の選書では、図書購入費用に 300 万円を確保したことによって、絵本や児童書などの特定分野の書籍を重点的に購入することができ、各分野の書籍も満遍なく選書できる若干の余裕を持たせた。

平成 23 年度の図書館情報委員会の具体的な活動内容と課題について以下に記す。

- ・ 前期は、従来の委員会形式での開催とともに、各委員会が参集しての拡大委員会が行われた。
- ・ 学生の図書委員に書架整理などの図書館運営の補助的な業務を担わせた。
- ・ 羽生市立図書館との相互協力を検討し、試験的に本学の学生を派遣して“読み聞かせ”を行った。課題は、相互の図書館協力とはなっていないことである。
- ・ Web サイトを利用した図書館の情報発信を開始した。
- ・ 図書館内の環境整備について検討し、1 階書庫に排架している絵本や児童書の一部を 2 階の閲覧室へ移動し、スツールを設置して、絵本の閲覧コーナーを設けた。
- ・ 研究論文集第 5 号では、従来の論文掲載のほか、新たに教育活動等の報告を掲載することになった。
- ・ 情報部門については、実質的に福岡にある純真学園情報管理センターが統括しているため、委員会としての活動は特段生じなかった。今後どのような活動ができるか模索していくことが課題である。

#### (4) 実習指導委員会

##### ① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
牛込 彰彦	・稲垣 馨 ・関根 久美 ・高橋 努・細田 香織 ※原田 智鶴

##### ② 概要

開催日	内容
平成 23 年 4 月 13 日	・幼稚園 (後期/応用) 実習 実習審査 ・保育所実習 実習審査 ・被災地にある実習先等へのお見舞い ・調書等用写真撮影について ・実習辞退者への対応
5 月 11 日	・年間業務予定について ・実習巡視手順について ・実習期間における緊急時対応について ・巡視報告書 (含アンケート) 案について
6 月 15 日	・小学校教育実習に係る実習審査について ・幼稚園実習 (1 年生) 指導計画について
7 月 20 日	・幼稚園教育実習 (前期/基本) に係る実習審査について ・介護等体験に係る実習日程等について
9 月 14 日	・実習指導委員会における文書管理について ・幼稚園教育実習 (前期/基本) に係る実習保留者の扱いについて
9 月 28 日	・平成 24 年度 施設実習の実習時期について ・平成 23 年度 幼稚園 (前期/基本) 実習において評価が「不可」となった学生に対する対応について
10 月 12 日	・小学校教育実習における巡視について ・実習未実施の学生について ・施設実習にかかわる名簿について
11 月 9 日	・施設実習に関する実習事前審査 ・幼稚園前期/基本実習に関する再実習について

12月7日	・幼稚園前期/基本実習に関する再実習について ・平成23年度施設実習に関する実習事前審査（保留者）について
平成24年1月18日	・実習指導委員会における文書管理について 幼稚園前期/基本実習に関する再実習の日程について ・学生便覧の作成について
2月8日	・実習資格審査基準の見直しについて
3月28日	・実習の履修において困難を感じる学生への対応について ・学生調査の指導について

### ③ 成果と課題（点検・評価）

学生の利便性を考慮し本年度から実習指導室の位置が変更となり、移動のあわただしい中での委員会活動の開始となった。

本年度は、実習審査等とともに「実習期間における緊急時対応」や「実習辞退者に対する対応」「実習関係文書の取り扱い」などについて検討することが出来、成果となった。しかしながら、各実習における共通指導事項をもとにした、実習指導マニュアル等の作成には時間がかかり完成に至っていない。これは来年度以降への課題となる。また、本年度も「実習資格審査基準」の見直しを行ったが、さらに検討事項もあり、来年度も見直しが必要かと考える。

## （5） 進路支援委員会

### ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
安倍 大輔	伊藤 道雄・人江 良英・関根 久美・※奥貫 慶一郎

### ② 概要

開催日	内容
平成23年4月13日	キャリアガイダンス、進路登録票、履歴書の返却指導、卒業生職場説明会準備
4月29日	卒業生による職場説明会
5月25日	キャリアガイダンス、就職園への園訪問、出身高校への御礼状
6月22日	キャリアガイダンス、園訪問、栃幼連、群私保群私幼、分科会
7月6日	キャリアガイダンス、ホームカミングデー、指導方針、全埼私幼、栃幼連等分科会
9月28日	後期キャリアガイダンス日程等、内定後のフォロー
10月19日	キャリアガイダンス、就職活動状況
11月16日	キャリアガイダンス、1年生対象キャリアガイダンス、就職活動状況、卒業生職場説明会準備
12月14日	キャリアガイダンス、就職活動状況、卒業生職場説明会準備、次年度計画、年賀状

平成 24 年 1 月 13 日	卒業生職場説明会
1 月 18 日	キャリアガイダンス、未決定者対策、全埼玉私幼への推薦
2 月 8 日	キャリアガイダンス、未決定者対策、就職活動状況
3 月 21 日	次年度キャリアガイダンス計画、1 年履歴書添削、卒園メッセージ

### ③ 成果と課題（点検・評価）

委員会運営については、委員間で学生の動向や求人状況等の情報を共有するとともに、幼稚園実習・保育所実習・施設実習といった各実習指導と連携し、学生が自己のキャリアに対する関心と意識を高め、それぞれの目的が達成できるような支援体制をとることができた。早期退職を防ぐために行っている就職園訪問は、就職園から評価されており、また卒業生にとっても不安や悩みを軽減するきっかけになっているので、今後も継続して行きたい。

今後は、毎年増えつつある公務員希望者や県で独自に行われている就職活動に対して、組織的に対応できるような指導体制を整えることが重要であると考えられる。

## （6）入試広報委員会

### ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
藤田 利久	藤田 利久（学長）・小澤 和恵・高橋 努・細田 香織・※田中 淳一・※相馬 萌 ・ ※内田 和泉

### ② 概要

開催日	内容
平成 23 年 4 月 13 日	・指定推薦校(案)について・高校訪問(案)について ・オープンキャンパスの実施内容(案)について・その他 ・学校見学会（4/29,30）について・ポスターについて・特別募集要項について・その他
5 月 25 日	・オープンキャンパスについて・公開講座について ・学校案内パンフレットのモデルについて・その他
6 月 15 日	・オープンキャンパスの実施内容(案)について・指定推薦校(追加)について・その他
7 月 20 日	・平成 24 年度学校案内パンフレットについて・オープンキャンパス（7/23,24）について ・AO 面接（7/23）について・その他 ・高校訪問報告・その他
9 月 20 日	・AO 入学試験について・その他
10 月 12 日	・指定校、公募制、専門高校・総合学科等、同窓生推薦入試実施要領(案)について ・2011 プレカレッジ時間割(案)について・平成 24 年度オープンキャンパス等日程について ・その他

## IX 教授会・委員会等

10月14日	・AO入学試験について・その他
10月29日	・指定校推薦入学試験について・公募制(I期)推薦入学試験について ・専門・総合学科等(I期)推薦入学試験について・同窓生(I期)推薦入学試験について ・その他
11月4日	・AO入学試験合否について・その他
12月17日	・公募制推薦(II期)、専門・総合学科等推薦(II期)入学試験合否について ・AO入学試験合否について・その他
平成24年1月16日	・AO入学試験合否について・その他
1月18日	・平成24年度 年間予定について・平成24年度 予算について ・平成24年度 学校案内パンフレットについて・第三者評価について・その他 ・同窓生推薦入試について・その他
1月28日	・一般(I期)入学試験合否について・その他
2月8日	・平成24年度 学生募集要項について・副読本、ポスター、ハガキ、グッズについて ・指定校推薦について・高校訪問について・学校見学会について・一般入試II期について ・その他
2月15日	・AO入学試験合否について・その他
2月25日	・一般(II期)入学試験合否について ・その他
3月5日	・AO入学試験合否について・その他
3月21日	・AO入学試験合否について・その他

## ③ 成果と課題（点検・評価）

近隣の行政・教育機関との連携を図りながら、教育機関本来の教育・研究の充実を広報のメインに打ち出すことができた。さらに、教職員が一丸となって、積極的に高校訪問やオープンキャンパスに臨み、高校生一人ひとりへの親身な対応を心がけたことにより、昨年度に引き続き定員を確保することができた。

現代の日本の大学、特に短期大学の場合は、受験生が「この大学へ入りたい」と思える特色を持ち、差別化をいかに図れるかが、入学者確保における第一条件と考える。

この点において、本学の人試広報課の取り組みと教職員の協力体制が実を結んだものと考えている。

## (7) FD・SD推進委員会

## ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
安倍 大輔	藤田 利久（学長）・稲垣 馨・※中村 周・※田中 淳一・※内川 和泉

## ② 概要

開催日	内容
平成 23 年 3 月 30 日	第 1 回 FD・SD 研修会
7 月 20 日	第 2 回 FD・SD 研修会
8 月 31 日	埼玉県私立短期大学協会研修会への参加
11 月 30 日	授業実践・研究検討会
12 月 7 日	第 3 回 FD・SD 研修会
随 時	授業相互参観

## ③ 成果と課題（点検・評価）

平成 23 年度においては FD・SD 研修会を企画し、外部から講師を招いた講演を実施するとともに、埼玉県私立短期大学協会の研修会への教職員の参加や、授業相互参観、授業実践・研究検討会を行い、それぞれの業務や授業の改善、研究の発展への示唆を得る機会を持った。

本学は小規模の大学であるが故に、基本的に教職員は複数の委員会を掛け持ちせざるを得ない。そのため FD・SD 推進委員会においては他の委員会との兼ね合いで小委員会を定期的に開催できていないので、今後は効率的かつ効果的な委員会運営をできるようにしたい。

## (8) 自己点検・評価委員会

## ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
藤田 利久	安倍 大輔・人江 良英・牛込 彰彦・小澤 和恵・高橋 努・※大山 富一・※佐藤 猛 ・※中村 岡

## ② 概要

開催日	内容
平成 23 年 8 月 23 日	平成 24 年度第三者評価 ALO 担当者説明会に藤田学長・小澤 ALO・大山事務局長が参加
8 月 31 日	平成 24 年度第三者評価 ALO 担当者説明会の報告会（於：国立女性教育会館）
9 月 28 日	第 1 回自己点検・評価委員会
10 月 16 日	第 2 回自己点検・評価委員会
10 月 31 日	平成 22 年度自己点検・評価報告書発行
11 月 14 日	第 34 回私立大学の教育・研究充実に関する研究会（短期大学の部）に藤田学長・小澤 ALO・牛込実習指導部長が出席
11 月 30 日	第 34 回私立大学の教育・研究充実に関する研究会（短期大学の部）の報告会



## IX 教授会・委員会等

12月12日	第3回自己点検・評価委員会，第三者評価報告書の執筆担当項日の確認
12月13日	相互評価校（千葉敬愛短期大学）との打ち合わせ
平成24年1月18日	第三者評価報告書第1次ドラフト提出
2月3日	「埼玉純真短期大学生活をより良くするためのアンケート」結果集計
2月24日	第三者評価報告書第2次ドラフト提出
2月29日	外部評価委員会
3月23日	第三者評価報告書第3次ドラフト提出，第4回自己点検・評価委員会

## ③ 成果と課題（点検・評価）

平成23年度の自己点検・評価委員会は、平成24年度に短期大学基準協会による第三者評価を受けるため、第三者評価報告書と平成22年度自己点検・評価報告書を平行して作成することになった。そのため例年より作業内容が多くなったが、自己点検・評価委員会の委員のみならず、各セクションの全教職員が協力し、それぞれの報告書の作成にあたった。

外部評価委員の日程の都合で年度末になってしまったが、2月に平成22年度自己点検・評価報告書に基づき外部評価委員会を実施した。なお第三者評価報告書の作成は引き続き作業を行うので、平成24年度に引き継いだ。

今後も自己点検・評価報告書の作成においては、こうした全学を挙げての取り組みを続けていきたい。

## X 事務組織

### 1 業務分掌

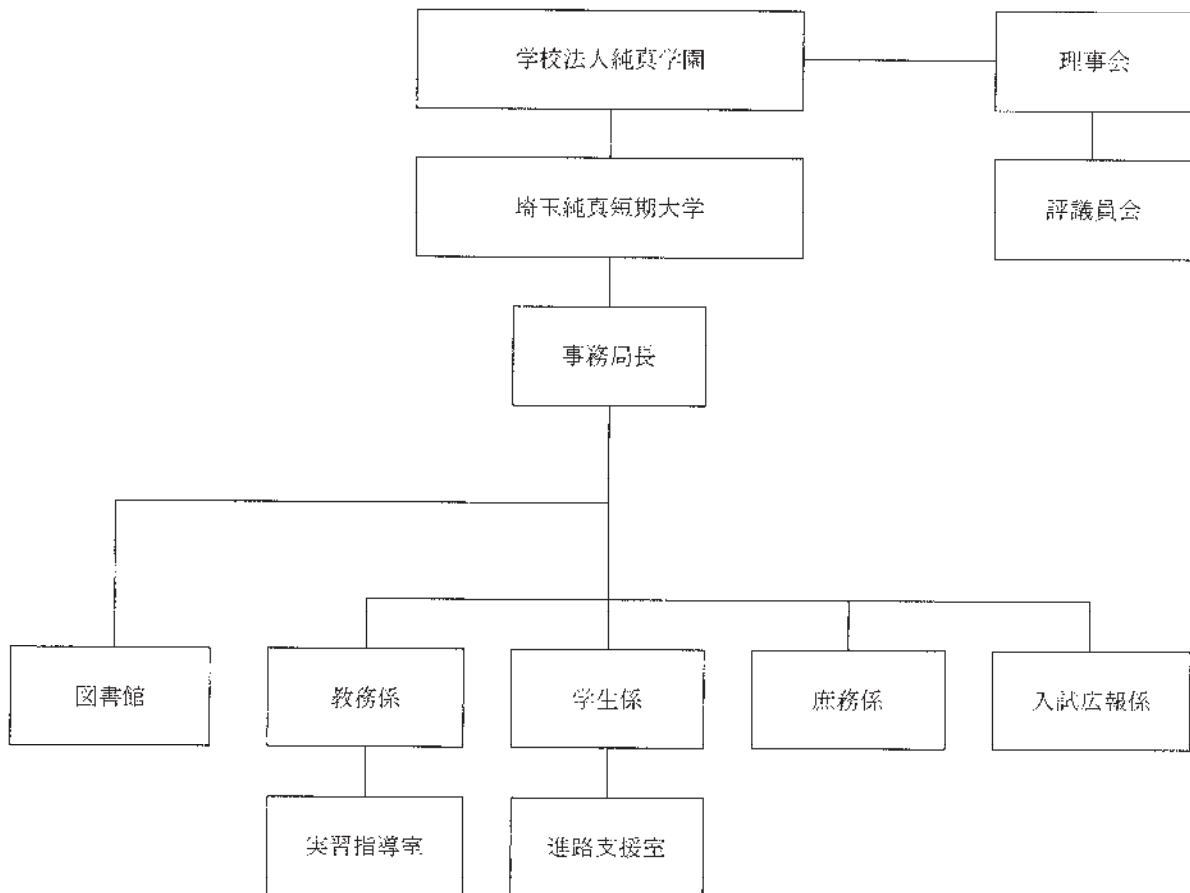
#### (1) 事務組織の業務分掌

本学は、法人本部所在地（福岡県）から遠く離れており、法人本部の運営方針が本学の地域性に合致しない場合も多いため、開学から独自の学校運営により、自らのスクールアイデンティティを創造すべく、法人分離独立の型のスタイルで運営している。

法人本部組織は、法人事務局の下に、総務課（総務係・人事係・厚生係）及び財務課（経理係・管財係）を置き、法人組織の充実を図っている。本学の事務組織は、教務係・学生係・庶務係・入試広報係で構成されている。また、図書館司書は事務組織に含まれ、さらに、教務係には、学生の実習を支援する実習助手を配置している。

なお、人事労務、管財関係の業務は事務局長直轄として、庶務係が担当している。

○ 事務組織図



(2) 事務分掌

本学事務職員の構成は、専任職員 12 名で、主要業務は以下のとおりである。

○ 主要業務一覧

部署名	業務内容
教務係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学務関連                             <ul style="list-style-type: none"> <li>学籍原簿の保守管理・入学・退学・復学・卒業等の学関関係・学科課程の編成</li> <li>免許状・資格申請全般 等</li> </ul> </li> <li>・教務関連                             <ul style="list-style-type: none"> <li>時間割作成及び教室配当・科目履修登録及び試験実施に伴う成績管理</li> <li>各種証明書作成と発行 等</li> </ul> </li> <li>・実習関連                             <ul style="list-style-type: none"> <li>実習事前指導・学生相談窓口・実習先手配・実習関係書類管理 等</li> </ul> </li> </ul>
学生係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導・課外活動の助言・指導及び課外活動に関する諸手続き</li> <li>証明書類（学生証・学割・健康診断書）の受付および発行・学生調査の保管・管理 等</li> </ul> </li> <li>・厚生関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ロッカー・シューズボックスの保守管理・学生専用アパートの案内</li> <li>奨学金、および傷害保険関係の申請手続き・健康管理・健康診断・健康相談</li> <li>保健室の管理（救急医薬品の管理）・通学路の安全確保</li> <li>学内駐車場・学外駐輪場管理維持運営 等</li> </ul> </li> <li>・就職関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>求人紹介・求職申し込み受付・就職指導・推薦書・人物調査等の発行 等</li> </ul> </li> </ul>
庶務係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経理関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>納付金（授業料等）及び追再試験料の収納・学内出納業務全般・伝票管理 等</li> </ul> </li> <li>・管財関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>校舎・施設・設備管理維持・備品・消耗品購入等</li> </ul> </li> <li>・庶務関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>郵便物の授受・来客・電話応対・在学証明書発行・拾得物・紛失物預かり 等</li> </ul> </li> <li>・人事・労務関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>勤怠管理 等</li> </ul> </li> </ul>
入試広報係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>学生募集に関する広報・広告媒体の策定・高校訪問・進学ガイダンス活動</li> <li>資料請求者・入学希望者へ対応・オープンキャンパス実施・運営 等</li> </ul> </li> <li>・入試関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>入学試験の実施・運営・入試問題の保管 等</li> </ul> </li> </ul>

## 2 成果と課題（点検・評価）

本学の事務組織は、上記の業務（図書館を含む）を事務局長以下10名の職員で担当している。年度途中での退職による入替えはあったものの、体制に大きな変化は無いが、人替えを機に各部署業務の効率見直しを進めていく必要がある。

但し、業務や人員の効率化を追求するあまり、学生へのサービス低下があっては本末転倒であり、学生の満足度を向上させるための職員の意識改革も合わせて進めたい。

## X I 財政

## 1 財政の状況

## (1) 消費収支決算の状況

平成 23 年度の帰属収入は、2 億 9,964 万円であった。学生数が前年に比べ 130%と伸長したことが大きく寄与し、前年度比 23.8%増となった。

基本金については、約 3,000 万円の設備投資を行ったが、うち約 2,000 万円が未払いのため翌年度以降の組入れとなり、今期組入額は 406 万円となった。

一方消費支出は、2 億 6,482 万円（前年度比 1.9%増）の微増となり、差引 3,077 万円の収入超過となった。

学生数が伸びたことにより、平成 20 年度以来 3 年ぶりに収入超過となった。

## ① 消費収入

## (a) 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、学生数の伸長により 5,467 万円の増加となった。

## (b) 手数料

手数料の大部分は入学検定料だが、昨年度に比べ受験者が若干減少したことにより、約 2%減少した。

平成 23 年度に入学定員を 150 名から 30 名減員し 120 名としたが、127 名の入学者を確保し、平成 24 年度においても 120 名の入学者を確保できたことにより学生数が増加し、納付金収入もさらなる増加が見込まれることになった。

## ○ 現員数の推移一覧

(単位:人)

期 日	現員数
平成 22 年 5 月 1 日現在	170
平成 23 年 5 月 1 日現在	219
平成 24 年 5 月 1 日現在	243

## (c) 補助金

補助金は日本私立学校振興・共済事業団から交付される私学助成金が主なものである。平成 23 年度については、前年度比 9.4%増となっている。また帰属収入に占める割合は 13.8%であり、昨年度に比べると 1.8%下がっている。

## (d) 資産運用収入

資産運用収入は、学生から徴収する学内の駐車場利用料が主なものである。

## (e) 事業収入・雑収入

その他の雑収入に約 548 万円計上しているが、退職給与引当金戻入額が 423 万円、その他保険金収入、自動販売機の手数料収入、コピー代等が 125 万円となっている。

○ 平成 23 年度資金収支計算書（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

（単位：円）

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	247,833,000	247,938,000	△ 105,000
授業料収入	142,040,000	142,040,000	0
入学金収入	38,100,000	38,100,000	0
実験実習料収入	12,145,000	12,250,000	△ 105,000
施設費収入	50,880,000	50,880,000	0
図書費収入	4,240,000	4,240,000	0
保健衛生費	428,000	428,000	0
手数料収入	3,998,000	4,145,800	△ 147,800
入学検定料収入	3,600,000	3,720,000	△ 120,000
試験料収入	113,000	136,500	△ 23,500
証明手数料収入	285,000	289,300	△ 4,300
補助金収入	34,090,000	41,421,000	△ 7,331,000
国庫補助金収入	34,090,000	41,421,000	△ 7,331,000
資産運用収入	538,000	538,896	△ 896
受取利息・配当金収入	1,000	1,196	△ 196
施設設備利用料収入	537,000	537,700	△ 700
事業収入	60,000	54,600	5,400
補助活動収入	60,000	54,600	5,400
雑収入	1,255,000	1,257,890	△ 2,890
その他の雑収入	1,255,000	1,257,890	△ 2,890
前受金収入	95,040,000	86,854,000	8,186,000
授業料前受金収入	40,200,000	37,856,000	2,344,000
入学金前受金収入	36,000,000	31,100,000	4,900,000
実験実習料前受金収入	3,000,000	2,850,000	150,000
施設費前受金収入	14,400,000	13,680,000	720,000
保健衛生費前受金収入	240,000	228,000	12,000

X I 財政

図書費前受金収入	1,200,000	1,140,000	60,000
その他の収入	37,646,000	36,772,979	873,021
前期末短期未収入金収入	715,000	714,216	784
預り金受入収入	22,461,000	22,902,115	△441,115
仮払金収入	7,759,000	7,199,878	559,122
仮受金受入収入	3,589,000	3,840,000	△251,000
代理会計預り金受入収入	3,122,000	2,116,770	1,005,230
資金収入調整勘定	△96,757,000	△97,040,745	283,745
期末未収入金	△500,000	△783,745	283,745
前期末前受金	△96,257,000	△96,257,000	0
前年度繰越支払資金	498,576,000	498,575,886	114
収入の部合計	822,279,000	820,518,306	1,760,694

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	141,335,000	145,657,659	△4,322,659
教員人件費支出	93,979,000	95,033,053	△1,054,053
職員人件費支出	45,026,000	47,832,106	△2,806,106
退職金支出	2,330,000	2,792,500	△462,500
教育研究経費支出	56,072,000	56,680,494	△608,494
消耗品費支出	7,258,000	7,783,659	△525,659
光熱水費支出	6,655,000	6,675,038	△20,038
旅費交通費支出	1,975,000	2,357,788	△382,788
奨学費支出	4,869,000	5,799,000	△930,000
渉外費支出	1,297,000	1,060,977	236,023
通信費支出	1,453,000	1,279,629	173,371
購読料支出	1,304,000	1,135,039	168,961
印刷製本費支出	2,614,000	2,309,737	304,263
修繕費支出	6,981,000	8,302,455	△1,321,455
保険料支出	853,000	840,670	12,330
賃借料支出	875,000	646,138	228,862
公租公課支出	81,000	79,500	1,500
負担金支出	1,070,000	1,039,550	30,450
支払手数料支出	16,157,000	14,738,042	1,418,958
学校行事費支出	865,000	1,101,081	△236,081
厚生補導費支出	1,085,000	853,768	231,232

## X I 財政

図書研究費	680,000	678,423	1,577
管理経費支出	33,463,000	34,724,743	△1,261,743
消耗品費支出	83,000	768,738	△685,738
光熱水費支出	474,000	446,885	27,115
旅費交通費支出	1,192,000	1,214,388	△22,388
渉外費支出	50,000	37,695	12,305
通信費支出	359,000	324,337	34,663
印刷製本費支出	249,000	556,500	△307,500
修繕費支出	126,000	420,000	△294,000
保険料支出	249,000	300,059	△51,059
賃借料支出	10,000	7,937	2,063
公租公課支出	36,000	35,500	500
負担金支出	462,000	453,544	8,456
支払手数料支出	4,971,000	5,163,074	△194,074
福利費支出	550,000	1,194,608	△644,608
広報費支出	23,252,000	22,401,174	850,826
私立大学等経常費補助金返還金	1,350,000	1,350,000	0
雑支出	50,000	48,304	1,696
施設関係支出	12,874,000	23,800,175	△10,926,175
建物支出	3,780,000	21,563,675	△17,783,675
構築物支出	2,094,000	2,236,500	△142,500
建設仮勘定支出	7,000,000	0	7,000,000
設備関係支出	6,182,000	6,769,096	△587,096
教育研究用機器備品支出	3,182,000	3,180,240	1,760
その他の機器備品支出	0	589,050	△589,050
図書支出	3,000,000	2,999,806	194
その他の支出	61,627,000	63,006,528	△1,379,528
前期末未払金支払支出	20,451,000	20,450,133	867
預り金支払支出	22,461,000	23,287,147	△826,147
前払金支払支出	4,245,000	5,009,213	△764,213
仮払金支払支出	7,759,000	7,310,628	448,372
仮受金支払支出	3,589,000	3,840,000	△251,000
代理会計預り金支払支出	3,122,000	3,109,407	12,593
資金支出調整勘定	△11,301,000	△23,959,297	12,658,297
期末未払金	△8,455,000	△21,113,487	12,658,487
前期末前払金	△2,846,000	△2,845,810	△190



次年度繰越支払資金	522,027,000	489,363,079	32,663,921
支出の部合計	822,279,000	796,042,477	26,236,523

## ② 消費支出

### (a) 人件費

人件費は、前年度比 95.6%と若干減少した。これは私立大学等退職金財団の掛金率が少し下がったことや教職員の退職に伴うものである。帰属収入に占める割合は 47.9%となり、昨年度に比べると 14.1%減少しているが、学生数の増加に伴う学納金収入の伸長が大きな要因である。

### (b) 教育研究経費

教育研究経費は前年度比 5.5%増加した。昨年より消耗品費及び奨学金が増加したことが主な要因である。帰属収入合計に占める割合は 27.6%で前年度比 4.8%の減少となったが、学生数の伸びによる帰属収入の増加が大きな要因だが、20%以上は確保できている。

### (c) 管理経費

管理経費は前年と比べ約 728 万円増加し、3,859 万円となった。帰属収入に占める割合は 12.8%で前年度とほぼ変わらなかった。学生募集に係わる広報費、学生食堂用の厨房用品で消耗品費が合わせて約 350 万円増加したが、学生数の増加や学生満足度の向上を目的とした計画的な支出であった。

○ 平成 23 年度消費収支計算書（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

（単位：円）

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	247,833,000	247,938,000	△105,000
授業料	142,040,000	142,040,000	0
入学金	38,100,000	38,100,000	0
実験実習料	12,145,000	12,250,000	△105,000
施設費	50,880,000	50,880,000	0
図書費	4,240,000	4,240,000	0
保健衛生費	428,000	428,000	0
手数料	3,998,000	4,145,800	△147,800
入学検定料	3,600,000	3,720,000	△120,000
試験料	113,000	136,500	△23,500
証明手数料	285,000	289,300	△4,300
寄付金	0	61,000	△61,000
現物寄付金	0	61,000	△61,000

X I 財政

補助金	34,090,000	41,421,000	△7,331,000
国庫補助金	34,090,000	41,421,000	△7,331,000
資産運用収入	538,000	538,896	△896
受取利息・配当金	1,000	1,196	△196
施設設備利用料	537,000	537,700	△700
事業収入	60,000	54,600	5,400
補助活動収入	60,000	54,600	5,400
雑収入	5,804,000	5,485,432	318,568
退職給与引当金戻入額	4,549,000	4,227,542	321,458
その他の雑収入	1,255,000	1,257,890	△2,890
帰属収入合計	292,323,000	299,644,728	△7,321,728
基本金組入額合計	△4,605,000	△4,060,838	△544,162
消費収入の部合計	287,718,000	295,583,890	△7,865,890

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	139,496,000	143,471,259	△3,975,259
教員人件費	93,979,000	95,033,053	△1,054,053
職員人件費	45,026,000	47,832,106	△2,806,106
退職金	491,000	606,100	△115,100
教育研究経費	81,992,000	82,757,799	△765,799
消耗品費	7,258,000	7,844,659	△586,659
光熱水費	6,655,000	6,675,038	△20,038
旅費交通費	1,975,000	2,357,788	△382,788
奨学費	4,869,000	5,799,000	△930,000
渉外費	1,297,000	1,060,977	236,023
通信費	1,453,000	1,279,629	173,371
購読料	1,304,000	1,135,039	168,961
印刷製本費	2,614,000	2,309,737	304,263
修繕費	6,981,000	8,302,455	△1,321,455
保険料	853,000	840,670	12,330
賃借料	875,000	646,138	228,862
公租公課	81,000	79,500	1,500
負担金	1,070,000	1,039,550	30,450
支払手数料	16,157,000	14,738,042	1,418,958
学校行事費	865,000	1,101,081	△236,081

X 1 財政

厚生補導費	1,085,000	853,768	231,232
図書研究費	680,000	678,423	1,577
減価償却額	25,920,000	26,016,305	△96,305
管理経費	36,422,000	38,588,631	△2,166,631
消耗品費	83,000	768,738	△685,738
光熱水費	474,000	446,885	27,115
旅費交通費	1,192,000	1,214,388	△22,388
渉外費	50,000	37,695	12,305
通信費	359,000	324,337	34,663
印刷製本費	249,000	556,500	△307,500
修繕費	126,000	420,000	△294,000
保険料	249,000	300,059	△51,059
賃借料	10,000	7,937	2,063
公租公課	36,000	35,500	500
負担金	462,000	453,544	8,456
支払手数料	4,971,000	5,165,074	△194,074
福利費	550,000	1,194,608	△644,608
広報費	23,252,000	22,401,174	850,826
私立大学等経常費補助金返還金	1,350,000	1,350,000	0
雑損	0	903,960	△903,960
雑費	50,000	48,304	1,696
減価償却額	2,959,000	2,959,928	△928
消費支出の部合計	257,910,000	264,817,689	△6,907,689
当年度消費収入超過額	29,808,000	30,766,201	
前年度繰越消費収入超過額	1,191,422,000	1,191,421,801	
翌年度繰越消費収入超過額	1,221,230,000	1,222,188,002	

(2) 貸借対照表の現状

平成 23 度末の資産総額は 14 億 9,333 万円で、うち固定資産が 9 億 9,786 万円、流動資産が 4 億 9,547 万円となっている。負債総額は 2 億 1,719 万円で、うち固定負債が 1 億 366 万円、流動負債が 1 億 1,354 万円となっている。また、基本金は前年度比 406 万円増の 17 億 6,021 万円となった。

X I 財政

○ 平成 23 年度貸借対照表（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

（単位：円）

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	997,863,796	996,270,758	1,593,038
有形固定資産	997,018,187	995,425,149	1,593,038
土地	423,208,000	423,208,000	0
建物	544,305,779	545,325,696	△1,019,917
構築物	3,922,605	2,398,574	1,524,031
教育研究用機器備品	7,958,465	6,367,062	1,591,403
その他の機器備品	5,284,206	5,968,202	△683,996
図書	12,250,425	11,754,119	496,306
車輛	88,707	403,496	△314,789
その他の固定資産	845,609	845,609	0
電話加入権	641,927	641,927	0
施設利用権	2	2	0
差入保証金	203,680	203,680	0
流動資産	495,466,887	503,239,972	△7,773,085
現金預金	489,363,079	498,575,886	△9,212,807
未収入金	783,745	1,618,176	△834,431
貯蔵品	157,850	200,100	△42,250
仮払金	153,000	0	153,000
前払金	5,009,213	2,845,810	2,163,403
資 産 の 部 合 計	1,493,330,683	1,499,510,730	△6,180,047

負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	103,655,605	110,069,547	△6,413,942
退職給与引当金	103,655,605	110,069,547	△6,413,942
流動負債	113,537,606	123,654,921	△10,117,315
未払金	21,113,487	20,450,133	663,354
前受金	86,854,000	96,257,000	△9,403,000
預り金	1,673,765	2,058,797	△385,032
代理会計預り金	3,896,354	4,888,991	△992,637
負 債 の 部 合 計	217,193,211	233,724,468	△16,531,257

基 本 金 の 部			
-----------	--	--	--

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	1,720,210,303	1,716,149,465	4,060,838
第4号基本金	40,000,000	40,000,000	0
基 本 金 の 部 合 計	1,760,210,303	1,756,149,465	4,060,838
翌年度繰越消費収入超過額	1,222,188,002	1,191,421,801	30,766,201
消費収支差額の部合計	△484,072,831	△490,363,203	6,290.372
負債の部、基本金の部 および消費収支差額の部合計	1,493,330,683	1,499,510,730	△6,180,047

### (3) 財務比率

ここには本学の貸借対照表と消費収支計算書関係の主要財務比率を示す。

#### ○ 財務比率（平成19年度～平成23年度）

財 務 比 率		平 成 19 度	平 成 20 年 度	平 成 21 年 度	平 成 22 年 度	平 成 23 年 度
貸借対照表	固定比率	54.2%	34.2%	33.9%	34.1%	33.5%
	固定長期適合率	50.9%	32.8%	32.5%	32.8%	32.3%
	流動比率	696.2%	1095.3%	542.8%	407.0%	436.4%
消費収支計算書	人件費比率	43.6%	46.8%	69.9%	62.0%	47.9%
	消費支出比率	77.8%	90.5%	123.6%	107.4%	88.4%
	消費収支比率	78.1%	92.1%	123.6%	120.6%	89.6%

※ 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額 1,760,210,303+1,222,188,002=2,982,398,305

#### ① 固定比率（固定資産／自己資金×100）

総資産のうち固定資産の比率が目立って高いのが学校法人の特徴である。この比率は固定資産がどの程度自己資金(純資産)で賄われているかをみる指標であるが、本学では平成19年度から平成23年度にかけての5年間、100%以下で推移しており、学校の施設設備は借入金によることなく自己資金で賄われていて健全であると言える。

#### ② 固定長期適合率<固定資産／(自己資金+固定負債)×100>

固定長期適合率の5年間の推移をみると100%以下を維持しており、固定資産を取得するためには短期の他人資金すなわち流動負債に依存することなく、自己資金のほかに短期的に返済を迫られない固定負債で賄うべきであるという原則には適合した財政状態であると言える。

**③ 流動比率（流動資産／流動負債×100）**

流動比率は1年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現預金又は1年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期的な支払能力を判断する重要な指標であるが、本学は平成19年度から平成23年度にかけて優良で信用度が高いとされる流動比率200%以上を維持しており、また流動負債の中には弁済の対照となる外部負債とは性質を異にしている授業料などの前受金が約75%含まれていることから、問題はないと言える。

**④ 人件費比率（人件費／掃属収入×100）**

人件費問題は学校財務の中で最高位を占めている。他の消費支出科目をまとめても、その金額は人件費には及ばず、しかも、消費支出の膨張の原因になっている。学校法人のグレードが上がるにつれて、人件費比率は下がり、他の項目が増える傾向にある。私学事業団の実数分析では、同規模の短大法人が約80.0%となっており、同規模短大の平均値からすると、本学は47.9%と低くなっている。しかしながら、平均値との乖離が大きいことについては、人事政策として適正な給与水準或いは人員配置などを常に考慮しながら進めることが必要である。

**⑤ 消費支出比率（消費支出／掃属収入）**

消費支出比率は、過去5年間に100%を境に上下しており、この数値を超えると過去の蓄積である純財産を食いつぶしている状態を示すことになる。このことから100%が名目的な水準維持の尺度となるが、貨幣価値の下落と物価の上昇などを予想して、比率はある程度のゆとりを持たせて、物価の上昇などに対応できる財務体質を養っていくことが必要とされている。

**⑥ 消費収支比率（消費支出／消費収入）**

消費収支比率も、過去5年間に100%を境に上下しており、この数値を超えると支出超過の状態になる。平成23年度は89.6%と100%を下回り、収入超過となった。

**2 成果と課題（点検・評価）**

埼玉純真短期大学は、平成23年度決算において学生数の伸長により、3年ぶりに収入超過となった。昨年度に続き校舎の修繕や設備投資等に予算を投じ、受験生に快適な学生生活をアピールできるように全体的な外観の向上と設備の充実に注力した。その効果もあって平成24年度の入学者数も前年同様定員120名を確保することができた。

平成23年度末には新しいカフェテリアが完成したので、平成24年度は学生食堂の運営方法の見直しなどを行い、さらなる学生生活の満足度向上を図っていく必要がある。

また、開学30年をひかえ設備の老朽化については更新を計画的に進め、本学の一番の「強み」である就職実績を確実にアピールし、志願者及び進学担当者に、魅力ある学校として選択して頂けるよう、これまでと同様に教職員が一丸となって知恵を結集していきたい。

## X II 同窓会（秋桜会）

### 1 活動状況

#### （1） 役員組織

本学では、卒業生、教職員及び元教職員を会員とし、会員相互の親睦及び修養を図り、兼ねて母校の隆昌を図ることを目的として、「秋桜会」という同窓会を組織している。

役員組織は以下のとおりである。

##### ○ 同窓会役員一覧

役職名	役員名（回生・卒業学科）
名誉会長	藤田 利久（学長）
会 長	小林 ひかり（8回生・児童教育学科）
副会長	秋山 知世（2回生・英語学科） 戸張 歩美（26回生・こども学科乳幼児保育コース）
会 計	矢島 優子（7回生・幼児教育学科第二部） 金谷 佳代（13回生・英語学科）
書 記	野中 美希（26回生・こども学科乳幼児保育コース） 岩崎 香織（こども学科乳幼児保育コース）
会計監査	岡本 千里（7回生・英語学科） 新井 幸子（12回生・英語学科）
幹 事	各卒業学年より1名以上が担当する。
相談役	高橋 努（学生部長）

#### （2） 活動状況

本学の同窓会は、1回生が卒業した後、昭和60年11月10日に設立し、今日に至る。

主な活動として、年1回の総会、年4回程度の役員会、会報「秋桜だより」の発行、在学生への支援活動を行っている。活動費は、卒業生から徴収した同窓会費より支出されている。

##### ○ 同窓会の活動状況（平成23年度）

日 程	内 容
平成23年4月10日 第1回役員会	・自己紹介 ・総会について ・次回役員について ・印刷関係打ち合わせ
9月4日 第2回役員会	・総会について ・新役員決めについて ・役員会返信はがきについて ・終身会費問い合わせ先



## X II 同窓会（秋桜会）

10月22日 総会	・開会の辞 ・会長挨拶 ・定数確認 ・議案確認（平成22年度会務報告、決算報告、監査報告、平成23年度会務計画案、予算案） ・新役員挨拶 ・閉会の辞
11月3日 第3回役員会	・総会の反省 ・秋桜だよりについて ・その他
平成24年1月30日 第4回役員会	・終身会費について ・卒業記念品について ・(株) サラトについて
2月3日 第5回役員会	・各係の内容説明 ・新役員の係決め ・連絡先確認

## 2 成果と課題（点検・評価）

同窓会の活動は、多くの卒業生の中でも会長をはじめとした役員を中心として行われている。卒業生のために設立された同窓会であるが、そのあり方が卒業生自身にも十分認知されておらず、なかなか発展していかない現状である。近年は同窓会長が入学式や卒業式に列席し、祝辞を述べるなど同窓会の存在をアピールしている。純真祭とともに開催している総会でも、多くの卒業生に参加してもらえるよう、親子で楽しめる企画、講演会等を計画し、開催しているが、卒業生の参加の増加にはつながっておらず、更なる努力が必要と考えられる。



埼玉純真短期大学

## 執筆者一覧（50音順）

### 専任教員

安倍 大輔 ・ 阿部 峰雄 ・ 伊藤 道雄 ・ 稲垣 馨 ・ 入江 良英  
牛込 彰彦 ・ 小澤 和恵 ・ 関根 久美 ・ 高橋 努 ・ 藤田 利久  
細田 香織 ・ 安村 由希子

### 事務職員

内田 和泉 ・ 大澤 尚子 ・ 大山 富一 ・ 奥貫慶一郎 ・ 片山 美冴  
佐藤 猛 ・ 相馬 萌 ・ 田中 淳一 ・ 中村 周 ・ 橋本早也佳  
原田 智鶴 ・ 宮本 明子 ・ 矢内 美優

### 法人事務局

池田 博文 ・ 吉田 忠幸

## 平成 24 年度 自己点検・評価委員会

藤田 利久	教授（自己点検・評価委員長，学長）
安倍 大輔	講師（自己点検・評価副委員長，進路支援部長，FD・SD 推進委員長）
大山 富一	事務局長
牛込 彰彦	教授（図書館長，実習指導部長）
小澤 和忠	教授（教務部長，入試広報部長）
高橋 努	講師（学生部長）
稲垣 馨	講師（FD・SD 推進委員）
齋藤 史夫	講師（FD・SD 推進委員）
佐藤 猛	シニアアドバイザー
中村 周	図書館・情報係長

## 平成 23 年度 自己点検・評価報告書

発行日 平成 24 年 9 月 31 日

編集 埼玉純貞短期大学 自己点検・評価委員会

印刷 SP 関根印刷所

発行 埼玉純貞短期大学

〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬 430 番地

TEL.048-562-0711（代）・FAX.048-562-0715